



黄菫蒲 (奈良・不退寺)

しゃくなげ 石楠花
 「修験道の花」と呼ばれ
 深山溪谷高山中に
 うす紫とうす桃色を混ぜたような
 しゃくなげ色の唇をほころばせる
 きしょうぶ 黄菫蒲
 水面に黄色い影をうつして
 帯をまじえた菅刈の花が
 びっしりと咲いている
 つつじ 樹園
 大群落で燃えるように咲き誇る
 山腹に点在する山つつじの赤い花
 溪谷の岩場に咲く紫色のつつじ
 草やぐ花や新緑に光がさしこむと
 なつかしさに心がはずんでくる



つつじ (奈良・万葉植物園)

Photo essay

さつき



題字 中田 菊石
 撮影 山井 収一
 文 松永 恵一



石楠花 (奈良・密生寺)

季節の



イワカガミ



睡蓮



湖畔の花畑

実景

初夏

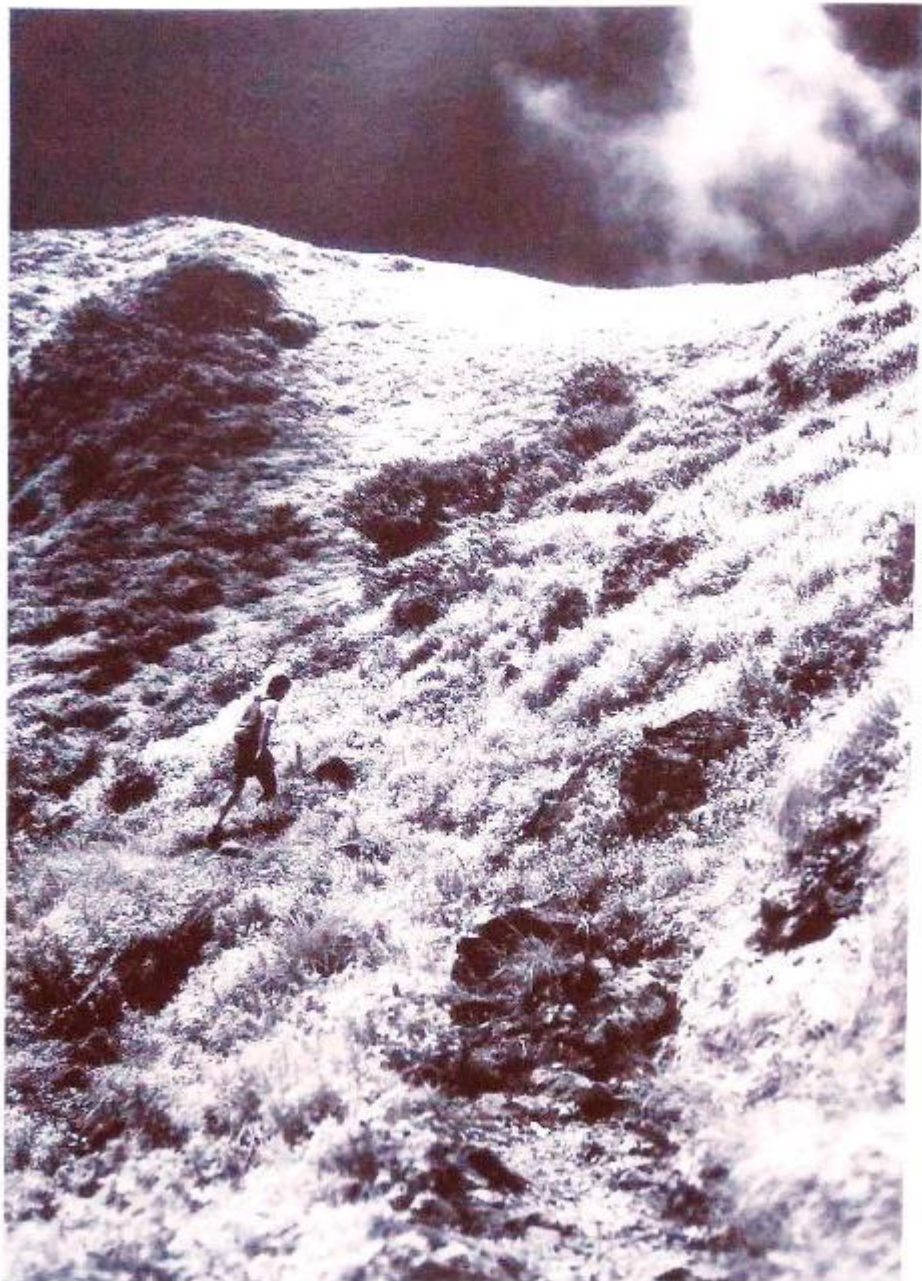
撮影 武市通治



ササユリ

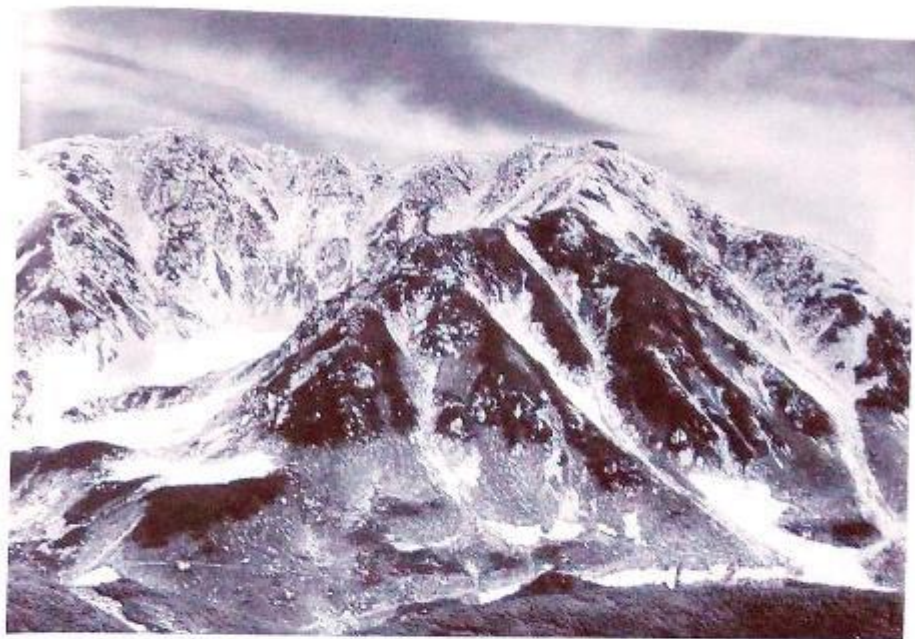


山アジサイ



伊吹山を目指す (伊吹山山頂付近)

松浦 隆康



残雪の立山連峰 (立山)

三浦 弘幸



地獄谷の硫黄塔 (立山)

三浦 弘幸



菟

宗像大社沖ノ島祭り

生駒 豊峰

福岡県の沖ノ島に、玄海灘に小さな島がある。

島は宗像大社の所領で、沖津宮が祀られている。許可なしには入れない。この島には灯台と共に一等三角点が発見されている。

一般の人がこの島に上陸できるのは、毎年5月27日に行われる沖津宮の例祭の時である。

宗像大社は、天照大神の子である山心姫神（金津彦）、海津彦神（中津彦）、市杵島姫神（辺津彦）の三女神を祀っている。沖津宮は沖ノ島に、中津宮は神楽の大島に、辺津宮は宗像郡玄海町にある。

この5月27日という日は、日露戦争の日本海海戦記念日で、国家鎮魂のお祭りとなっている。

いまだ戦争記念のお祭りも珍しい。

私がこの祭りに参加したのは、祭りもさることながら、島にある一等三角点を訪ねるためである。

祭りに参加するため乗員数に制限があり、しかも一般公募はしていない。毎年4月の始めに参拝申し込みを受け付けているので、神社に連絡して申し込み用紙を送ってもらうとよい。しかし、許可されるかどうかは神社次第。参拝希望者の中から厳選する。長時間の乗船に耐えられない70歳以上の方や健康状態が良好でない人はお断りとなっている。

参拝が許可されると、前日に神楽の大島の民宿に泊まることになる。予約は各自です。

私たちは新幹線の小倉駅で鹿児島本線に乗り換え、東郷駅で下車。バスで神楽港に行き、ここから船で25分の大島に渡る。

予約しておいた民宿の車が迎えに来ていた。

民宿に荷をおろし、車を借りて大島の一等三角点に登った。村はずれの下水処理場に車を置き、15分程の登りでアンテナの立つ三角点に到着する。島の端にあり、最高点でもないのでも島の人たちもほとんど来ないらしい。

島の裏側（岩瀬）に行き沖ノ島遊覧所を見る。祭り以外の日や祭りの日に海が荒れて沖ノ島に渡れない時など、また島は女人禁制なので女性はこのからお参りする。遊覧所の建物の窓を開けると御神体の沖ノ島が海上遙かに望まれる。

宵宮の始まる中津宮には200人くらいの人が集まっていた。奉賛会費一万円を支払って、御神酒や給馬・煎餅・餅等を授かり、明日の乗船の割り当てが決められる。船は海上保安庁の灯台船と大島航路の高津船、漁



菟

随想 (山のエッセイ)

船が二隻で合計四隻。これらに参拝客180人と神社関係の人が20人、合計200人くらいが乗る。

翌日は雲一つない快晴だった。玄海灘は波荒く船は少し揺れた。沖ノ島が近づくと、港の入り口の岩礁に、大勢の釣り人が竿を出していたのは驚いた。沖ノ島には上陸できないのだが、岩礁は神社の所領ではないらしい。また無人だと思っていた島には、神宮が一人常駐している。毎日そきをして神事を務めている。神宮は10日毎に交代するらしい。

島には立派な港があり、何隻もの漁船が繋かれ、漁船には女の人の姿も見えた。遊覧船にもなっていて、海が荒れると遊覧の漁船も入って来るらしい。人跡稀な無人島と違って、人が思っていたより開けた所であった。

大島から1時間45分かかって

島に着岸すると、船から降りた人々はいよいよ海に出で、真裸になって海に入りそきをやる。もう何回も経験している人に見做って私たも裸に続く。海の水はそれ程冷たくはなかった。その後谷水で体を拭いて、中腹にある沖津宮に登る。10分くらいで谷間の大岩の陰に立つ神社に到着する。全員が指うと神事が行われた。

その後の自由時間に山頂の灯台に登る。道はあるが、灯台も自動化されていて三ヶ月に一度の見回りの人しか通らないため荒れていた。

山頂は50坪くらいの建物の跡地で、残っている建物の屋上が良い展望台になっていた。見渡す限り大海原が広がり、遙かに小さい島影が望まれるだけの玄海灘の真ただ中であつた。

目的の一等三角点は、灯台広場の南側、コンクリートの土留めの外側に入っていた。まるで

邪魔もの扱いで、私たち以外誰も注目する者はいなかった。海岸で昼食にする。神社の差し入れは缶ビールに煎餅。お参りが済むとそきはクリエーションである。

沖ノ島周辺には釣り人の渡船が絶えず来ているし、神社に届けば船をチャーターして上陸もできるとのこと。絶海の孤島ではあるが、案外と人の往来もある島であった。

雲取山

霧生 功

東武東上線の最高峰(2017.7.7)で、一等三角点の雲取山へは年に何回か登る。

5月15日山頂のログハウス風の遊覧小屋から富士山を反に身吹き、石段を登り、JR奥多摩駅へ。8月は樹影濃い奥秩父線、志保線を経て丹波バス



花

停へ。11月は全山紅葉の最盛期、尾根・長沢谷を一杯水遊覧小屋から東山原バス停へ、とコースを変えて歩いてみた。季節を変えて登ると、春花秋草多彩に変化する山の表情が素晴らしい。

たまにはシカ・カモシカ・イノシシ・サル・タヌキなどに遭遇することもある。マイヅルソウ・レンゲシロワマ・ハナイカリソウ・タマガワハトトギス・ウスユキノソウ・シトクナゲ・シロヤシオなど、四季おりおりの草木花も豊か。

これらの花を見つけた時の人々は、「可愛い」、「酸欠が爽々赤に染まる石尾根の干本ツツジには「オオ、すごい」、と花の種類や咲きぐあいによって、声の調子も強弱、大小と無意識のうちに使われている。

また、春を告げるウグイスの笛鳴きが夏には囀りへと変わっ

ていくのも興味深く、センダイムシクイ・キビタナなどの特徴ある鳴き声も楽しい。秋ともなれば「キュン、キュン、キチキチキチ」とモズの囀りも「なわばり」も賑やかだ。

秋も深まるとマニミ・ナナカマド・ガマズミなどの赤い実が、葉を落とした枝に彩りをそえる。樹間を通して冠雪の百十やアルプスが現れると冬將軍の到来だ。

情緒豊かな山の表情を楽しむながらこれらのコースを歩いていると、一部頂上を越く道もあるが、知らず知らずのうちに東京都の高い山ベストテンを踏破するおまけがつくのも、このコースの楽しみのひとつであろう。

東京都の高峰ベストテンは、
① 聖取山 ② 聖木ノトツケ ③ 小聖取山 ④ 七ツ石山 ⑤ 長沢山 ⑥ 鷹ノ巣山 ⑦ 天祖山 ⑧ 長沢山 ⑨ 聖子坂の頭から南東に派生する尾根上にある ⑩ 西谷山

この北峰山頂からの秩父多摩連峰のパノラマも素晴らしいが、狭谷刻、南峰の遊覧小屋の前から見る雄大にして幽玄の世界もまた捨てがたい。虹に燃える落日の空を眺めていると、辺りは次第に色あせて闇となり、遠く輝く月が空を照らした北アルプス・甲武信岳・大菩薩嶺などの壮大なスカイラインを浮かびあがらせる。やがて満天の星が輝きを増す頃、夏には富士登山者の明かりの列が目に飛び込み、秋に



花

随想 (山のエッセイ)

はシーンと静まり返った畑の中で植シ方の確を叩き出すがこたます。

朝は御来光に顔を染め、コーヒータ임을楽しみ、登山を抜いて登る富士に挨拶。

ところで富士にかかると春のレンズ笠・夏のうねり笠・秋のひさし笠・冬のふきだし笠など、笠類だけでなく登山靴も出現したり、四季を通じて富士の雲を見るのも楽しみのひとつ。そんな聖取山は、

聖き見る東山山又山
山岸山北麓重の山……

と聖取山の詩のよこに奥深い山である。

さて次回は雪景色の中を動物の足跡でも見て歩こう。

関西の人にも奥多摩の聖取山へ足を運んでみて下さい。

遊覧は悲しい。たとえ助かっただとしても、辛抱強く留守を預かっていた人の心を遺憾させるし、本人も遺囑以後、山との縁が絶たれるかもしれない。もし救助に向かった者までが命に関わる状況に陥るようなことにならば、悲しみはもう集まらない。心と身の術が尽えた頃、再び山へ足を向けようものなら、家族は鬼のようになってしまう。めくたろう。

また、遊覧は山自身を悲しくさせる。行き慣れた山の尾根や頂上で、ある人が倒れ息を引きとったと知ったなら、その山へは自分の脚登りたくなくなるのが普通ではないだろうか。

山に一度も登ったことがない全く無縁の人たちが、酒難事故

のあった山を「なんて怖い山なんだらう」と思い込んでしまうことは十分考えられることだ。ひいては「どんな形の登山行にして、山登りはことごとく命がけの冒険」と決めつけるに違いない。自分からは山とはいっさいコンタクトをとらないにもかかわらず、その一面だけで悪いイメージを抱き、決めつけるのである。これは山に対して大変失敬なことだし、私たち山登り愛好家にとっても決して笑って過せない問題といえる。

それだけに「山での悲劇」は社会に複雑な波紋を巻き起こす可能性を秘めている。遊覧が、個人的な問題でありながら、個人の範囲にとどまらない。所以だろ。

昨年、徳島県で相次いで発生した三件の事故は、後から考えれば「非常に単純なミス」に原因があった。剣山、石立山、正善山、すべての事故は多か



随想 (山のエッセイ)

れ少なかれ、道を間違えた上に
Uターンせず、強引に当てのな
い道なま道を突進しようとした
のだ。

正吉山では、踏み跡を見逃し、
日が暮れてヒバークを判断した
までは賢明といえたが、登山歴
30年になる大ベテランの一人が
「今日中に帰らなければ」と、
ランプを携帯していないにもか
かわらず闇を歩いて自ら不幸を
招いた。身を寄せ合ってじっと
一晩耐えた他の三人は命拾いを
している。

剣山にしても石立山にしても
現場で救助を待ったおかげで、
翌日の捜索で無事に助けられた。
しかし、遭難しただけれどもが
「わざと」危険をおかしたので
はないはずだ。自分らが「一秒
後に」一体どういう状況下にいる
のか」など、そもそも測りし
ないのである。また、「自分だ
けは、遭難者のリストには絶対
に入るはずがない」と勝手に思

い込んではいないだろうか。
そこで、私たちは、まず「事
故が起きた後からではすべてが
手遅れ」と認識したい。一秒後
には何が起るか判らないのだ
から、一挙手一投足を、真剣に
慎重に運ぼう。天候が悪くなっ
たり、道に迷ったなら、深く
引き返そう。へばったなら腰を
下ろして休もう。無理は禁物と
いうことだ。

余暇にしても金銭にしても悲
かな時代だ。今日の山がダメで
も明日の山が、明日がダメなら
あさってだってある。思われた
時代なのだから、まだまだ食欲
に登ろうではないか。そのため
にも、みすみす山登りとの決別
を招くような真似だけは避けよ
う。

事故後の処理能力も当然大切
だし知る必要があるが、第一に、
こうした心構えと、初心の謙虚
な態度が大切ではないか、と思
う。そして山登りが非日常の行

為と認識し、「遭難を引き起こ
すまざまな法しめ」を知るな
ら、私たちは、自ずと「冷静な
理性の持ち主」になれるのでは
ないだろうか。
懐かな時代だけに、遭難は、
本当に本当に悲しい。



大きく隆起した

野島断層と汐鳴山

慶佐次 盛一

淡路

忘れもしない平成7年1月17日、午前5
時46分。「関東大震災」を上回る「阪神・
淡路大震災」がおこった。

人間が営々として築いてきた文化や財産
がわずかに数10秒の地震で灰燼に帰し、そし
て尊い多くの人命までが奪われてしまった。
犠牲者は六千二百人を超えた。心から「災
福を祈ると共に、自然を相手にした時、人
間の営みがいかに脆いものであるかと思
知らされた。私の山仲間や親戚にもその被
害は及んだが、人的被害がなかったのがせ
めてもの救いだった。震源地は淡路島北部、
野島断層が動いたのが原因といわれる。

じつはこの震災の半月後に、同じ淡路島
の洲本市・三原町界の兜布丸山に登る計画

を立てていたが余震の恐れもあり、それに
被災された地元の人たちの感情を考慮すべ
ばとても山にまで登る気になれず、急ぎ々
中止せざるを得なかった。

野島断層は、はっきりと地表に現れた断
層である。断層が地表に現れるのは珍しい
が、「阪神・淡路大震災」が比較的震源の
浅い直下型の地震だったからだろう。六甲
山系の造山活動にも関わりと云われる野島
断層をこの目で確かめたかった。しかし、
マスコミの報道によれば野次馬がどっと押
し寄せ、地元の人たちに迷惑をかけている
と知ってにはわかに行動できない。ここ
は野次馬がおさまるのを待ち、8月に野島
断層と近くの汐鳴山を訪ねることにした。

地表に露出した野島断層



明石海峡大橋の礎脚も動いた
震災後の山陽本線下りは住吉駅までの運
行だったが、JRの機力をあげた復旧工事
で意外に早く全線が開通した。明石駅で下
車、岩屋港への高速船乗り場へ行く。明石
市も被災地だったが、一見したところでは
町並みに変化はなかった。淡路岩屋港行き
の高速船に乗る。いつも通り行き交う船で
賑わう明石海峡の風景が目の前に広がる。



呼吸系统的组成包括呼吸道和肺两部分。呼吸道由鼻腔、咽、喉、气管、支气管组成。肺是气体交换的场所。

呼吸系统的功能

呼吸系统的功能主要是吸入氧气，排出二氧化碳。通过呼吸作用，细胞获得能量，维持生命活动。

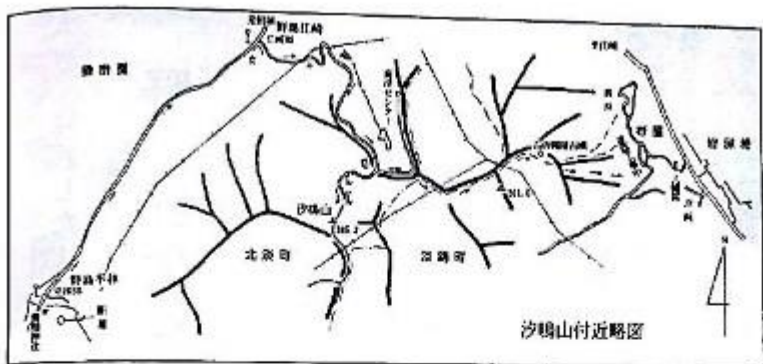
呼吸系统的组成包括呼吸道和肺两部分。呼吸道由鼻腔、咽、喉、气管、支气管组成。肺是气体交换的场所。

呼吸系统的功能主要是吸入氧气，排出二氧化碳。通过呼吸作用，细胞获得能量，维持生命活动。

呼吸系统的组成包括呼吸道和肺两部分。呼吸道由鼻腔、咽、喉、气管、支气管组成。肺是气体交换的场所。

呼吸系统的功能主要是吸入氧气，排出二氧化碳。通过呼吸作用，细胞获得能量，维持生命活动。

呼吸系统的组成包括呼吸道和肺两部分。呼吸道由鼻腔、咽、喉、气管、支气管组成。肺是气体交换的场所。



おだやかな青い海面に、架橋中の明石海峡大橋の橋脚の、キャット・ウォークと呼ばれる工事用足場が海面に大きく弧を描いて突っ立っている。世界の吊り橋を支えるだけあってじつに巨大な橋脚だ。一見あの激震にも耐えられたように見えるが、放水路の橋脚が西へ3メートル移動し、全長で1メートル長くなったという。それでも工事に支障はないというから、我が国の架橋技術にも驚かされる。

大地を裂いた野島断層

高速船は20分ほどで岩屋港に着き、富良野方面行きのバスに乗る。バスは淡路島西側に沿って南下する。右の車窓には通商船のさざ波が光り、左の車窓には其木樹林が続く。こんなどかな風景の中に、おそろしい断層が潜んでいたとはとても思えない。断層を見学するならば、バスの運転手のアドバイスで北淡町平林のバス停で下車する。ここも海辺に近いバス停だ。山のほうへ目をやる。山というより丘陵という地形だが、どこに断層が露出しているのか分からず、近くの売店のおばさんに尋ねて細い舗装道を丘陵のほうへ登って行く。最初は河の変化もなかったが、登るにつれ舗装道が

異様に崩れ出て、丘陵の中腹の林道は崩壁が崩れガードレールは始のように折れ曲がっている。土砂が崩れて樹木は無残になき倒されている。まさにクラッシュという言葉がぴったりする。

下のほうを見ると丘陵と農地の境に沿って、青いシートが所どころ掛けられている。そこが断層の露出部らしく、道を少し戻り農地において断層へ向かう。農家の人たちは地震にもめげずもう農作業を始めている。段差がついた断層が見えてくる。農道が不自然な曲がり方をしている。農作業中の主婦が、真っ直ぐだった道が地震でこんなに曲がってしまったのだと教えてくれた。約45度も折れ曲がっている。水田と丘陵の境に断層が露出し、南北に続いているのが分かる。断層に沿った水田は、もう5月だというのにまだ代播きもされず、昨年の刈株が残されたままだった。断層を保護するためか所どころ青いシートで覆われているが完全ではない。私たちが訪れた断層は水田から1メートル近い段差があった。

これだけの断層が一瞬のうちに地表に現れ、明石海峡を越え神戸・大阪方面にまで被害を及ぼしたのだと思うと、あらためて巨大なエネルギーを思い知らされる。地球

は生きている。そのエネルギーが大地を引き裂いたのだと思うと、小さな生き物にか過ぎない私は思わず身震いを覚えた。

この後、北淡町がこの断層を永久保存するために現在は立入禁止とし、保存のための作業をしているとか。生の断層を目の当たりにする機会が得られた私たちは、地震のエネルギーの凄さに思いを新たにしたい。

大きく隆起した沙鴨山

断層から車道に下ると、貴船神社に出る。古い格式ある社らしい。被害は見受けられない。神社に二礼して、バスで来た海岸沿いの車道を江崎へ逆行し沙鴨山へ向かう。

江崎に着く。沙鴨山への道標に従い左折する。セメント舗装の道が続く。傾斜のゆるい登りだが、舗装道は退屈かえって壊れる。途中で舗装道にもひびが入りこの下にも断層が走っていることが分かる。谷を越えた左の山に見える大きな建物は布洋センターというらしい。その分岐を経てまだ舗装道は続く。ハルゼミが鳴き声が流れる。昔、子どもを通れハルゼミという珍酒を造って蒲須羽山に登ったことを思い出す。蒲須羽山にはスイカズラやナルコユリが咲き、もう夏は近い。

やがてN日Kのアンテナに着く。ここから先は雑木に包まれたゆるやかな山道だ。際立つピークでもない頂上に気をつけながら進んでいると、右側の茂みに踏み跡があり、そこへ入るとすぐに沙鴨山の山頂だ。標高はないが、三三三三角点。なんの要哲もない三角点だが、国土院の緊急測量では標高が約50メートル高くなっている。

今回の地震による三角点の変化を調べてみたが、水平移動では淡路島の3割が最大で、標高ではこの沙鴨山の0割の隆起が最大だった。この付近標高図の標高は300.3メートル。国土院の緊急測量結果による新しい標高で示しておいた。山頂は海路で隆起だ。N日Kのアンテナに戻り昼食にする。

地球を壊しているのは人間だ

下山は海洋センターの分岐まで戻り、センターへの車道を歩く。ゆるい下りとなり舗装道は海洋センターへ左折して行く。ここは正面の2万5千の地形図破線と、地形図にはない右からの山道が合流する所。私たちは正面の破線の道を歩いて岩屋へ下ることとする。ハイキングコースらしく、環境性の樹林に包まれた静かな山道が続く。

この山道にも地震による新しい亀裂が走っている。細い亀裂だが、杖を突っ込んでも先が固かずぞっとした。

やがて右の段屋古墳に着く。明石海峡を見下ろし、神戸や六甲山が望める。今日はじめての展望らしい風景に恵まれてゆっくりとくつろいだ。淡路町側に大きく地表が露出した所が見えるが、地震のせいではないさそうだが、明石海峡大橋の開通に備え、いま淡路島ではその関連工事やレンジャー施設の建設ラッシュなのだ。

展望を楽しんで岩屋へ下る。道標に助けられて小さな池のほとりについたが、このあたりも新規の道路工事で地形が大きく変化している。地震も怖いが、地球を一番壊しているのは人間ではないだろうか。

幸いにも先程の右の段屋古墳への道標がみんなにあり、岩屋の八幡宮に下り岩屋港に向かった。(平成7年6月4日歩く)

△コースタイム▽

岩屋港(バス15分) 平林(断層露出帯往復20分) 貴船神社(35分) 江崎(1時間) 沙鴨山(1時間) 岩屋港

△地形図▽2万5千1:25,000 明石・大阪

万感の山並み、プナオ峠から

おいさる だけ さん ほう いわ だけ 笈ヶ岳・三方岩岳へ

高雄 潔

白峰

峠を吹き抜ける冷たい風と霧の中に立っている、延々西赤尾から登ってきて汗ばんだ体も冷え、少し寒くなってきた。寒気閉の影響で山の中は雨とガスの出やすい気圧配置になっているようである。

プナオ峠はまだ雪に埋まっている。峠から大向山に向かう登り口に、「大向山」の道標が雪の上に顔を消していた。もう少し登ってからテントを設けようと思いが少しばらく休んでいると、冷たい雨が降ってきた。

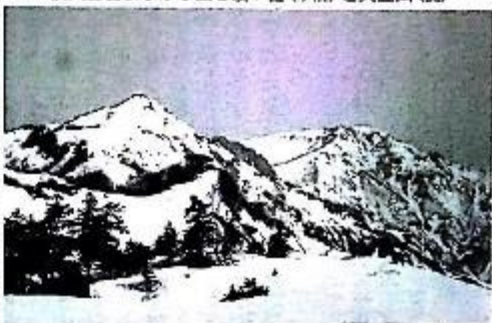
峠の少し手前に小屋があった。こんなときには雨を避けられる屋根付きは魅力的である。今日はこの小屋で寝ることにしよう。その夜、小屋には下梨から嶺ヶ岳を越え

てきた一人と西赤尾から林道を登ってきた二人、そして私の合計四人が一緒になった。嶺ヶ岳を越えてきた植根からの人は、昨日も後標にガスが出てプナオ峠へ下るルートで迷い、ここまで来るのに時間がかかったと言っていた。その夜は今まで歩いてきた各屈の山々の話に花が咲いた。

次の朝、外が少し明るくなってきた頃、窓から外をうかがう。まだ峠の周辺にガスは残っているものの雨は降っていないようだ。急いで食事を済ませる時に小屋を出る。

峠から少し登った所で食事中のカモシカと出会う、驚きもせず悠々とこちらを見ていた。昨日も西赤尾から林道を登っているのカモシカに会った。話が出来たら、山で

仙人巒岳よりふり返る笈ヶ岳(手前)と大笠山(奥)



どんな生活をしているのか聞けるのにと、勝手な想像をしながら眺めていた。

風が吹けばすぐ飛雪を吐きそうになり、風雪の中の前進は甚だ辛い。せいで、野営すれば煙は出めかと神経をとぎすまし、山頂に立てれば独り飲喜する。せいぜい数日分の食べ物を背負って山に入るのが精一杯の自分に比べると、カモシカは風格ある山の哲学者に見える。

尾根筋は大量の積雪が敷を覆っているが、夏道が露出している所もある。大向山と赤摩木古山の分岐まで登ってきた。ガスの中に道標がぼつんと風に吹かれて立っているだけである。すぐ北方には大向山が見えるはずであるが、展望はまったくない。ここからコースはほぼ西に向きを変える。赤摩木古山の山頂は真っ白である。西寄りの方

向を変え、越山に向かう。赤良岳の登りはずっとガスの中であった。赤良岳頂上から南方に見えるはずの大笠山方面は、谷に向かって急峻な雪の斜面と

なっている間にガスの中に消えている。ここは地形のせいから濃いガスと共にかなり強い風が吹いていた。

地図で方向を確認し南斜面を下って来たがブッシュに突っ込んでしまい、東側が急傾斜で谷に落ち、前方は雪のブロックが大きな口を開けている所に出た。初めて歩くルートでもあり、とりあえず頂上まで戻りガスの切れるのを待つことにした。

尾根には向かばらばらと降ってきたので、待っている間に雪割を回す。二時間以上かけてしっかり作ったので、二人ぐらいいられる立派な雪洞になった。15時を過ぎた頃から、風が逆りのガスを吹き飛ばし始め、ガスの切れ目から大笠山に向かう尾根も確認できるようになった。

ここから大笠山へ入る尾根は、少し下った後部で二重になっている。西側の尾根に取り付くのが正しいようで、後部の二

つの尾根の間にはテントが幾つか見えた。

赤良岳頂上に寝かされていた人のパートナーが私の雪洞から少し離れた所にテントを張った。今からでも少しづつ先に進めそうにも思えたが、雪割の出先決えが良かったので、このまま使わないのはもったいない。今日はここで泊まることにした。

雪洞の前に積んだ雪のブロックに強くなった西側の高が当たる。気が上昇したため寒さは感じない。風がこんなにも速く雪を解かすものだろうか。驚くほどの速さでブロックのつなぎ目に穴が開いていく。穴の開いたブロックの補修をし、17時過ぎには雪洞に入り中から入り口を塞ぐ。

白い雪の壁に閉まれた中で食事を済ませ寝袋に入る。音のまったくない静かな白い空間に変わる。ろうそくの明かりの中で、天井のスコップの跡を眺めていると、頭の中をいろいろなことが駆け巡る。

雪洞には思ひ出が多い。昭和43年11月の末、金沢の友人と市ノ瀬から御前峰を経て青柳新道を白峰に下った。この時初めて登った白山であった。その年の暮れ、再び同じルートを歩こうと12月29日に金沢から市ノ瀬に入った。その日は別当に泊まり、翌日なんとか麓の助小屋に入ることができ





ふり返り見る三方岩岳の岩峰

た。次の日、小屋を出て山頂に向かう途中、足元も見えないような厚雪の中、弥陀ヶ原周辺で道に迷った。翌年の1月2日、まったく偶然に室堂の小屋を見つけた。三日間、猛吹雪の中を彷徨した。その間、二人座ってやっと入る程の小さなたこつば型の雪洞であったが、風雪と寒気から身を守ってくれた。

10日以上続いた吹雪もようやくおさまっ

もう三つ岩岳は目前である。岩壁に囲まれた山頂は、遠くかっでもはっきりと判ったが、ここから見上げる三方岩岳は高度感もあり、急傾斜の残雪の上に聳える岩峰はなんとも美しい。

一時間はどて大休止する。午前中天気は恵まれたおかげで、ずいぶん気持ちよく歩くことができた。しっかりとした足場を作り、コンロで湯を沸かしラーメンを食べ、うんと甘い紅茶を飲む。

いよいよ最後の登りにかかる。午後の登りは辛い、食事の後はまた力が湧いてくるものだ。

三方岩岳(1735m)の山頂は北側の岩峰にある。山頂からは及ヶ岳と大笠山が遠く霞んで見える。長い間の夢であった及ヶ岳と、さらに三方岩岳まで続く雪の稜線を歩くことが出来た。あらためて三日間歩いてきた道程をふり返ると感無量である。

去りがたい思いの山頂を後にして、岩壁をとりまく残雪をトラバースし夏のルートに出る。感電にひたりながら、以前に下った馬場までの足根を思いだしながら下る。野合荘司山の隣側山の谷の急斜面に張り付いていた残雪がバランスを崩し、辺りの土砂もろとも底雪崩となって谷底に落下して

た1月10日、越冬していた福井県の単独行登山者の援助で下山することが出来た。

それ以来少しづつ白山周辺の山域に足を踏み入れてきた。白山から北方主稜線上で三方岩岳までは歩いてきたのだが、さらに北に続く主稜をどうしても歩いてみたいと思っていた。

風の音で目を覚ますと、雪洞の入り口の穴から月が見えた。そのまま夜明けを待つ。辺りがほのかに明るくなっていく頃、朝食を済ませ外に飛び出す。遠方は少し霞んでいますが、目の前に大笠山の山頂が飛び込んできた。

早朝は雪面も固く軽快に足が進む。この辺りの稜線は北側より東、または南東斜面に残雪が多い。冬期の季節風による積雪量の違いが、そのまま積雪量の差になっているのだろうか。大笠山の山頂で地元の登山者に出会う。奈良岳と大笠山の鞍部にテントを張っていた人であった。登山記念に写真を撮ってもらい別れる。

ここから及ヶ岳へ行くにはいったん鞍部まで下る。及ヶ岳の東面の壁は障川源流に落ち込んでいる。登りは急峻だ。残雪の切れた三か所ほどのブッシュ帯の中をくぐり抜けて、宝剣岳・蜘蛛岳のピークを越え、

いくのが、ゴウという音と共に巨に入ってくる。なんとも凄まじい自然の形相である。気を引き締めて歩く。

どこでテントを張ろうかと、適当な場所を探しながら下っているうちに馬狩に滑りてしまった。林道脇の広場で泊まる。再び天気が崩れ、風が出てきた。一晩中「ゴウ」と風の音が杉林の中を駆け抜けていた。

(平成6年5月1日〜4日歩く)

▲登山タイム▼

- 6月1日 高岡10・52(バス) 西赤尾13
- 40ーブナオ峠16・00(小屋宿)
- 6月2日 ブナオ峠6・00ー赤穂木古山7・40ー見越山9・00ー奈良岳9・30(雪洞)

- 6月3日 奈良岳5・25ー大笠山5・40
- 1 及ヶ岳3・35ー仙人窟岳10・10ー因見山11・45ー三方岩岳13・50ー馬狩16・00(テント泊)

△地形図▽2万5千 中宮温泉・西赤尾

傾れの主峰及ヶ岳に続く最後の雪渓を登る。

及ヶ岳からの眺望は雄大だ。白山以北の主稜で最尚峰、また加賀・飛騨・越前の三國境でもある。周囲は見渡すかぎりの山々を駆け、山名の通り笠を開いたように尾根が延び、ガスの中を歩いてきた赤穂木古山・見越山も遠望できた。これから行く三方岩岳もはるか南方にあり、山頂の岩壁が黒いままのように見える。いつまでも感激している時間はない、先に進む。

冬嵐山との分岐で中宮からの登山者が出会う。仙人窟岳の鞍部までは一か所も行程の岩壁を下る。後は幾つかのコブを越え仙人窟岳の山頂に立つ。ふり返ると大笠山とピラミッドのような及ヶ岳が、秀麗な山容を誇っていた。

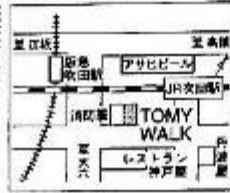
今朝はるか彼方であった三方岩岳頂上の黒い岩壁も、いくぶんはっきりしてきた。天気が好いので半袖になり、因見山から嵐嶺山のだっぴろい山頂壁を越える。窪田のようなこの辺りの尾根は、ガスでも出るとたちまち方向を見失う地形だ。稜線からは乾谷を挟んで辺りの山々を圧倒する巨大な白山が聳え、山頂は空に繋がっている。

春山は濡れます

ゴアのブーツ・雨具で快適な山行を

12種類アイゼン・ビッケル
ゴア製スパッツ・ミット
で手足をガード。

営業時間 12:00~20:00
定休日 月・火曜
吹田市内本町1-23-7
TEL 06-319-0597



色とりどりの花と大展望

雨飾山

あま かざり やま

鷺見守康

上信越



笹平から見た雨飾山山頂

ような人で、私とは、いわば学友であった。

やがて自然観察の先生を夫に持ったという有利な条件を活かし、いや、それ以上に人並みはずれた自然への愛着から精進を重ね、現在、愛知県が万博会場予定地として開発を狙っている瀬戸市の里山で自然観察会を主催し、真っ正面から自然破壊反対を唱え、活動している。

美しい自然をそのままに次の世代に伝え

ずに関々として過ごしていたところ、愛知県自然観察会を知った。Kさんはその観察会のリーダー的な存在だったのだが、彼の自然への深い造詣と、植物・昆虫・野鳥・地学など各分野にわたるオールマイティな知識に、ただただ感服するばかりであった。

その後、自然観察の先生や関係者を著した専門家などに接する機会を得たが、自然観察に賭けた情熱と知見とで、Kさんを超える人にはまだ出会っていない。

K夫人には、数か月後の観察会で初めてお目にかかった。当時の彼女は、時々私の目の前に樹木の葉を散らし出し、種名を質問しては学舌の成果を試して喜んでいる

長野県小谷村と新潟県糸魚川市との境に位置する雨飾山（989.3m）は、妙高連峰の西の端に取り残された感じの山であるが、深田久弥の「日本百名山」にも選定され、その名の通り響きのよさも手伝ってか、人気の高い山だという。

植生の豊かさにも評判があり、かねがね一度は歩いてみたいと思っていたところ、ちょうど瀬戸市のKさんが計画を立てていることを知り、同行させてもらった。Kさんは私より年若いのだが、自然観察の道においてはまさに師のような人である。

Kさんに初めて会ったのは、昭和61年の秋。その頃、自然への興味を抱きながら同好の士もなく、自然観察の方法さえつかめ

たというK夫人の情熱は、夫の支援に支えられて揺るぎないものとなり、日本自然保護協会の機関誌や「山と溪谷」誌にも紹介され、全国に知られるところとなった。

Kさんのタフネスさも尋常ではない。愛知県から雨飾山を日帰りで行くというのだ。したがって、出発は瀬戸市を午前3時、私は、自宅を午前1時に発って瀬戸市に向かった。K夫婦と小学生の長女、日さ内私、そして現地でMさんが加わり、総勢八人、雨飾山の花見頃は、7月上旬の梅雨の裏だった中である。

山口、庵雨湖線がちょうど中部地方の真上に横たわっているのと同じとわず、雨の中を出発。多治見から中央自動車道に入り、長野自動車道を西進しておりた頃、日差しが方角の上空は暗く、国道4号を北上する



につれ、とうとう雨となった。

小谷村に入って国道から離れ、小谷温泉に向けて進路をとり、小谷温泉から鎌池林道を通った。山の中はガスの世界だ。

休憩舎のある登山口には50台も駐車可能なほどの広場が用意されているのだが、キャンプ場の整備工事途中で進入できず、林道に車を駐めて、午前7時過ぎ歩き始めた。

しばらく、大海川に並行して流れる小川に沿う。木道がつくられ、森深くへと通る。原生的な自然林の雰囲気は気分が次第に高揚してくる。幹高15m以上はあるうかと思われる巨木が出現し、下流のように突然として見上げた。ヤナギ科のヤマナラシであった。

やがて着いた広河原は、緑鮮やかな森と水量豊かな清流とが織りなすビューポイントだった。

広河原からいよいよ登りである。時々雨脚が強くなる。それでも、空にはほのかな明るさがあり、庵雨湖線の北上を期待させる。男さに袖から汗がしたたり落ちる。レインウェアを脱ぎ、全員傘だけでアナの森を抜けていく。多雪地のブナは笹肌が白い。森の階層に優劣があるはずはない。雑木林も、照葉樹林も、亜高山帯の針葉樹林も、

それぞれに森の魅力がある。けれども、ブナの森のこの清々しさ、そして心の奥底から感じるこの安らぎは何であろう。

ブナはいいね……小休止時に、誰にともなく吹くと、全員が静かに頷いた。ブナの森は穏やかでいて、かつ森厳である。雨飾山の春は遅く、初夏に迫りたてられてやってくるのだろうか。もう7月だというのにカタクリ・ニリンソウ・ミヤマカタバミ・スミレサイシンなどが咲き盛り、ユキザサ・ツバメオモト・サンカヨウの花が盛りだ。

季節に遅れて咲く春植物たちに出会った。私たちがパーティは立ち止まり、風雪の激しい雨飾山にしたたかに生きる花たちの姿に心を震わせた。

道が平坦となってまもなく、笹原の雪深を渡った。往路はガスで見えなかったが、ガスの晴れた復路では、上流に氷雪で削られた岩峰を覗き、2000m級の峻の山とは思えないほどのアルペンの趣に感嘆した。雪崩のため球状化した樹木の床にシラネアオイを見た。

笹原から、高度約4000m級の急峻な尾根も次第にやせ、ちょっととした露岩帯もあってアルパイトを辿られる。体調が良



荒雲状上部の雲深

くないのか、若いKさんがへばり気味だ、暗きつゝ登る私たちには、次々と姿を見せる花たちとガスの切れ間瞬時に展開する山々の景観が何よりの励

ハイマツなどの高山植物が現れ、私たちパーティのメンバーはにわかには隊列を崩し、思い思いにカメラを構える。上った所の興奮を抑えきれないKさんらを横断の若者、K夫人、そして三脚を忘れた私の三人が待った。

山頂への最後の登りでは、咲き残った一輪のユキワリソウに対面することができた。

山頂は、東峰と西峰に分かれている。雨はすでに止み、強風にガスの動きが激しく、西方向に白鳥連峰の山塊と、眼下に蛇行する姫川、日本海が姿を現し、居合わせた登山者から悲鳴にちかい歓声があがる。梅雨前線が北上して天候は確実に回復し、3日0度のパノラマを誇る雨飾山の天麗望が戻りつつあった。

ましてである。

やがて、大型カメラを三脚に載せて休憩している若い男性に追いついた。構構から単独で来たとのことで、山らしい山に登るのは今回が初めてだという。「山に登ってこんなに大変なんですね」と盛りこんで嘆く若者を前に、初めてでよくもまあ、こんな山を遊んだものだと言葉しつつ、「でも、大したものだ」としきりに感心する。

若者は登って来る私たちパーティの動きを上から見ていたようで、右、左と何かを観察しながら議論している私たちの様子に興味を抱いたらしく、後をついて来た。

山の肩、高原状の准平に至るとハクサンチドリ・テガタチドリ・ヨツバシオガマ・

西に延々と続くであろう北アルプスは望めなかったものの、北に海兵谷山塊の岩壁、東に金山・天狗原山・姥山、南に戸隠連峰・黒澤山など、初めて遠望する上信越の山並みである。

雨飾山の真価は、色とりどりの花たちである。名だたる豪華な多彩な植物相を形成し、山麓に太平洋側低山の花から、亜高山核、そして高山植物までを抱え込む。とり

わけ、御平から下降した西斜面のシラネアオイ・オオバキスミレの群落は狂巻である。山の自然の萌となった私たちは、ひたすら無邪気に感嘆するばかりであった。「素晴らしいね。山は、やっぱりやめられない」と口々に唱える。

山は、人の心を躁動させる要素に満ちている。現代の日常生活の中では少なからず、たえず新しい感動を胸一杯満たすため、そしてそんな営みを大切に思う仲間と一日を共にするため、私たちは山に登るのだから。

雨中を突き、予想以上の険しさに苦しみながらも、大きな充実感に「来て良かった」と互いをおおきらい、雨飾山を登えつつ16時10分、御平下山した。

(平成7年7月9日歩く)

△コースタイム▽

小谷温泉休憩舎(35分) 広原原(1時間55分) 荒菅沢(2時間) 雨飾山(1時間45分) 荒菅沢(1時間25分) 広河原(25分) 小谷温泉休憩舎(植物観察及び写真撮影のため、かなりロスタイムあり)

△地形図▽2万5千1:25000 雨飾山

昭文社「12妙高・戸隠」

日本霊山紀行 26

連載

鳥海山(新山)

2236

浅野孝一

日本海側から見る鳥海山はじつに美しく、心温まる姿をしている。「出羽富士」とはその山容につけられた俗称ということができ

る。しかし、見た目に反してこの山に登るのはつらい。山頂直下の大物忌神社から新山への上り下りは、私にはこたえた。

7月に月山へ登った。その時泊まった伝生連のほとりから北の空に優雅な山を見た。同行の友人に尋ね、それが鳥海山であると知った。

若い頃、いずれ東北地方の山を登ろうと思っていた中に、安直原(東北の山々)「源文意」というガイド本があった。当時のコースには表目として遊佐口と藤岡口があ

り、ともに山麓から歩いてたっぶり二日間の行程が案内されているが、とてもハードである。裏口として矢部方面からのものもあるが、こちらも長く大変であったと思う。この本が出版されたのは昭和八年(1933年)であるから、戦前の感があるのは私のみではないだろう。

蒸が脇にそれてしまったが、鳥海山へ登る動機は、若い頃一緒にあちこちの山を登った友人が百名山のドリッドとして鳥海山登頂を計画しているとの聞き、そのパーティの一員として組み入れてもらったのであった。月山と一緒に登った友人の一人も参加した。

8月下旬、埼玉県大宮市から酒田行きの

鳥海山より岳伏



夜行バスに乗り、酒田駅前から鳥海山の麓ノ台駐車場に向かって二台のタクシーに分乗した。滝ノ台駐車場で下車したが、時おりすごい音を立てて雨が降った。駐車場から流ノ小屋に向かった。小屋に入って休んでいると雨の音の中にすさまじい雷鳴が混じりだした。一時間ほど経って外に出ると雨が小降りになっていたので、河原宿まで登った。河原宿小屋の中に

は宮王子神社がまつられてある。また雨がひどくなり、小屋前の湯沢には濁流がはげしく流れている。昼前ではあったがこの小屋に泊まることにした。泊まり客は私たちが八名だけであった。



鳥海山付近略図

御海山方面から登ってきた登山者に会う。鳥海山の新山一帯は雪の中、時々山頂が見える。
伏拝岳から行者岳を越え、千蛇谷上部の巨岩帯をトラバースして大物忌神社と御室に達した。御室にザックを置いて山頂をめざした。
鳥海山の三角点は七尾(2,230m) 山頂にあるが、私たちは最高峰である新山(2,230m)に登った。新山一帯は茶々と巨岩が積み重なった間をルート求めて登って

ゆく。危険はないが最大のアルバイトが要求された上り下りであった。新山の頂上に立った時、一帯が切れて西面を眺めることができた。西方眼下には広い山麓と日本海を見ることができた。
御室に咲くと小雨が降ってきた。
鳥海山について「日本山嶽志」は「鳥海山(別称鳥羽山)羽後國飽海・由利ノ二郡ニ跨ル、飽海郡吹浦村大字吹浦ヨリ九里ニ跨ル、蔵田村大字・蔵田ヨリ九里八町、由利郡矢島町ヨリ六里、上郷村大字小籠ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、標高七千六百尺」と説明している。
又、山頂風下にある大物忌神社について「日本名勝誌」は「...山頂に國幣中社、大物忌神社あり、聖字氣比賣神・若志才賀賣神・保良神を祭り、國幣屈指の神社なり、其の創建年月詳かならざるも、用明天皇の御宇、正一位を授けられ出羽國一ノ宮と勅額を賜ひ、中古佛祭を混合して鳥海大権現と稱せり、...頂上七高山、新山の雙峰對峙す」と記している。
鳥海山の噴火の歴史をたどってみる。第一回の噴火は、貞觀十三年(871) 4月8日、二回目は天慶二年(880) 4月、江戸期に入って万治二年(1660)、天文五年



大物忌神社

(1744)、寛政十二年(1800)から文政四年(1821)間と五回に亘るものが記録されている。文中享和元年(1800)7月7日の噴火により新山が生まれ、当日道中他八名の信者が道難死したという。
下山は千蛇谷を左下に見ながら下ってゆく。小南の中を日増りの登山者が続々と登ってくる。千蛇谷を対岸に渡って伏拝岳から下る尾根道を少し下った地点が七尾。崖でこの付近から向風が強くなり、雨つぶが小石のごとく鎧頭を打って痛い。御山ヶ原へはゆるい登り、それから御兵衛小屋への下りは長かった。
御兵衛小屋には鳥ノ御兵衛神社がまつられてあった。小屋の電話でタクシーの予約をした。鳥海山は尾根の北斜面を下るので風は当たらなくなった。少し下ると登山道には石が敷かれて歩きやすくなったが、急坂はすべりやすく、安心して歩けなかった。

次々とした狭い河原を過ぎ、ゆるくなつた石段道を進み尾根渡りを越えると、前方に鮮立の建物が見えてきた。展望台から奈留川にある「白糸ノ滝」を見た。
御兵衛小屋から約1時間40分、他のメンバーは元気であったが、私はヘトヘトに眠れてしまい、録音ビジュターセンター前で待っていてくれたタクシーに乗った。
下界は暗れていた。酒田へ向かう日本海沿いの車道には日が当たっていたが、鳥海山は中腹以上がずっと雲の中であった。
(平成7年8月26日・27日歩く)

- △観光タイム
- 8月26日(月) 滝ノ台駐車場8・30ノ滝ノ小屋8・20ノ河原宿小屋10・40
 - 8月27日(火) 河原宿小屋4・15ノ坂下5・15ノ伏拝岳6・30ノ大物忌神社7・30ノ新山8・20ノ大物忌神社9・15ノ御兵衛小屋11・00ノ録音ビジュターセンター13・50
- △地形図 2万5千 小杉川・鳥海山・家瀬川・川辺・矢島

低山登山~本格トレーニングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの金目社で更に詳しく。

とスキーのヨシメ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70 TEL06(772)7231

JR天王寺駅北出口右へ歩道橋渡ってスグ

白山連峰の大展望台

白山積迦岳

松田敏男

白山

白山積迦岳は、白山本峰の御前峰や大汝峰の西側に位置する一段低い山である。2000mを超える高さでありながら、白山の帰り道に、少し遠回りして通過する山といったイメージがあるのではないだろうか。

これまでに御前峰は三回、別山には一回登っているが、いずれも登山道から白山積迦岳を無視しようとはしなかった。遠く北アルプスや南アルプスの連峰に目を凝らし、一瞥ずつと細かく確認はしても、眼下の低い山には全く見向きもしないという不遇の典型のような山だった。裏返せばこれは私が登山者として未熟だったとも言えるのだが、こういう山は、登った時にその展望

のすばらしさで、思い出深い山となる可能性が高い。

山の会の岩井さんからこの白山積迦岳の山行計画を聞いた途端、私の局部詳細山行計画が電光石火のごとくできあがった。雪の上でテントを張って、東方にテントを開けば雪の白山連峰は夕日を浴び、私は酒をあびている。想像の世界ですべてに飽和状態となっていて私に対して、計画には方全の下調べをする岩井さんは、地元で今年の雪の状況を尋ね、雪の上にならテントを張ってもまあいいでしょうという承諾を得る。

岩井さんの住む近江八幡へ7時30分に行き、北陸自動車道を福井北インターまで走り、国道416号線に入って、何度も通っ

から忙しいことだ。ヘアピンカーブの途中には取立山への登山口があり、登山者が身体を休めていた。

時の新谷トンネルを抜ければ、白山方面に入る分岐は近い。バイクがあるのを知らずに手前の白群の街の中に行く。市ノ瀬のキャンプ場を過ぎ、またカーブの多い白山本峰の登山口の別山出合に統一している斜面を登り始めるが、左手に林道の分岐を見る。登山地図には車で行けるように書いてあったので、そのつもりで来たが、ゲートがあった。林道歩きが時間プラスされた。

車の来ない林道、自然林の中の林道がかわいいじゃないですかと、一人で言いながら歩き始めた。なかなか趣のある道だった。すぐに登山道というのもコンパクトでよいが、いわば茶室までの水を打った石畳の露地とか、前袂を見ながらの訪ないなどを思いおこさせる、心算になるのがわかる癒しの森だった。

林道から登山道に入る。道はしっかりしていて迷っ心配は全くなかった。ブナの大木の森が続く、別山から下山した時のチブツルツツが点々と道沿いに咲き続けている。花に詳しい岩井さんに教えてもらいながら、生気に満ちた黒潤な6月の大地に身を染めていくうれしさに酔った。

前方を見上げれば、深かった霧が卒然と消えていき、大きな雪渓をもった円頂がヌッと現れた。あわててザックからカメラを取りだす。いつの間にか雪の世界が周辺に迫っているのに驚いた。霧で隠れる間がだんだん少なくなっ

ヤマザクラと白山積迦岳(後ろは大長山)



た丸頭道川沿いを東に進む。まず浄法寺山が左に近づき、次はどっしりと大きい越前甲が迫ってきて、川を右岸に渡る橋からは上流はるかに経ヶ岳の悠然とした姿が見渡せた。巒山を抜けてしばらく行けば、石川県に入る登りにさしかかるが、その手前で急停車した。一冷えたジールを買わなければ、山が近づいてくると、道路標識に加えて酒標識にも警察を合わせねばならない

中空には青空が広がり始めた。しだいに靄も晴れだし、大きく迫って見えた円頂の奥に、さらに高くて大きい山が現れて、円頂はひとつのコブになってしまった。

登山道も雪道となり、急な所を登れば、前峰だった。白山の本峰が見え始めている。大きい。海を隔ててすぐの所に岩壁が築いていて、屏風を立てかけたように視界におさまらない長きで続いて見える。四塚山や七石山と見しき峰々が、青空をバックに白い姿をくっきりと現し始めた。

白山積迦岳の頂上はあと少し。すでに青空が全体を占めていて、あとは主峰にまわりついている雲がとれることを祈るばかり。祈りは力となり山頂をめざすスピードが加速した。雪田の乗っ越しふうの所からワンピッチで山頂に着いた。

お目当ての白山連峰もすっかり姿を現して、予想以上の大迫力である。こんなに間近で、北は四塚山からは南は別山まで、2000m以上の峰の長い連なりを眺められる地点というのは、他の山域にもあまりないように思う。大汝峰や御前峰の山体などは、岩のひととつづが確認できる程の近さで、岩の音が聞こえてくる臨場感あふれる山頂だった。



山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 北アルプス総図 | 34 飯倉山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝台・出羽三山 |
| 3 穂高岳・黒部峡 | 36 尾谷山 |
| 4 鈴・立山 | 37 越中・北アルプス |
| 5 上高地・奥・西麓 | 38 翠野・早池輪 |
| 6 奥穂高岳 | 39 八幡平・妙高 |
| 7 御嶽山 | 40 十和田湖・西麓 |
| 8 中央・南アルプス総図 | 41 二セコ・羊蹄山 |
| 9 木曾駒・空不動 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 奥岳・赤石・御嶽 | 44 富士・伊吹・御嶽 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 御石前・旗ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 比叡山系 |
| 14 群峰・渡辺 | 47 京都北山1 |
| 15 西上野・妙義 | 48 京都北山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京都西山 |
| 17 ハケ岳・聖岳 | 50 北信の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 大甲・摩訶・石馬 |
| 19 箱根 | 52 奥穂高岳・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 金剛山・妙満山 |
| 21 丹波 | 54 和歌山系 |
| 22 高尾・伊豆 | 55 奥高野 |
| 23 大菩薩連嶽 | 56 大峰山系 |
| 24 摩多摩 | 57 大峰ヶ岳・大峰ヶ岳 |
| 25 奥武蔵・秩父 | 58 妙目・奥武蔵系 |
| 26 秩父・奥武蔵系 | 59 妙目・奥武蔵系 |
| 27 秩父・奥武蔵系 | 60 大山・奥山系 |
| 28 谷川岳・奥武蔵系 | 61 奥武蔵系 |
| 29 奥武蔵系 | 62 石馬山 |
| 30 尾瀬 | 63 奥武蔵系 |
| 31 日光・奥武蔵系 | 64 九曲・奥武蔵 |
| 32 奥武蔵系 | 65 御石前 |
| 33 奥武蔵系・奥武蔵系 | 66 奥武蔵系 |

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年再版発行されます。この山行の際はなるべく最新版をご使用ください。また、お申し込みの際は、昭文社の「山と高原地図」へのご賛同、ご意見がございましたら、本社編集課「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また、お申し込みの際は、お申し込みの住所を必ずお知らせください。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府東淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



イワカガミ

採取しながらの下山となった。最も多いのは、アネノツツミ・タバコノカラ・ブルトツプの三種である。アネノツツミ類は、赤や黄、そして光を照り返してよく目立つ極彩色のものまで多様だ。またタオルノワスレやゲンデノワスレなどのワスレ種も所どころにあり、すぐにビニール袋にいっぱいなるのだった。

フナヤナラなどの、大地にしっかりと根をおろして、悠々の時間を営み続けている大木のひとつひとつを、同化するように見つめながら、車上まで歩いた。

(平成7年6月24日、翌日歩く)

△コースタイム▽

市ノ瀬の上の別当出合への車道と林道との分岐ゲート前(5時間) 白山釈迦院(20分) 鞍部(5時間) 四塚山往復(3時間) ゲート前

昭文社「48白山」

加賀市ノ瀬・白山



白山釈迦院から大波峰(中央)と御前峰(右)、手前は鐘懸

往路の雪国の乗っ越しに戻り、雪解けには薄地の雪田が池になる地形の斜面をトラバースして進む。ぼくは雪があれば白山の見える所ならどこでもテントを張る気持ちになっているが、岩井さんが、明日は好い天気になりそうなので四塚山まで降りましょう、と言うので、その鞍部まであと少し、あと少しと悪いながら歩いて行く。

鞍部は、白山本峰に近づき過ぎたため、

明日登る斜面が白山を隠してしまっただが、別山がいっそう秀麗な姿になって眺められた。そこで別山側を入り口にしてテントを張った。計画の際に夢に描いていた時がきた。ビールを飲む間に、別山の流れるような山壁や、その手前の雪渓と岩肌が赤く浮かびあがってきた。狂戦士一匹の終わりの輝かしい時と、すぐのちの翌朝が眺めたあのような寂しさを味わう。

翌朝は完璧なまでの快晴だった。ヤマザクラ・キヌガサノウ・リニウケンカ・イワカガミ・ハクサンコザクラ・ハクサンイチゲなどがそこそこ咲き、花の季節はまさしくもなく到来していた。しかし山際の急斜面には雪渓が残る、二度アイゼンを着けて篋車に渡ったつもりもした。

主峰線に上ると、まだまだ深い雪の正装雪山の大斜面を気分よく登り、少しハイマツをこいでいよいよ高い地点に立った。二角点はないが四塚山頂上。

山頂だけは雪が積もっていて、荷物をゆっくり広げることができた。友ヶ岳・大笠山・鏡ヶ馬場山・二ヶ辻山など、思いつく山々が青く静かに浮かんでいて、遠くには白馬岳や御石前が槍ヶ岳・穂高連峰を経て、乗鞍岳・御石の壮大な眺め。近くには

大波峰がその向の白山連峰をすべて隠して、ひとり大きかった。その大波峰から一パーティが私たちがこれから行くルートを先に下って行くのが見えた。人の小ささが目の前の大自然のスケールの大きさを際立たせた。右下手の雪渓に目を移せば、カモシカがおりて行くのも見えた。望遠レンズに替えてシャッターを切る。

テント場に戻り、雪田の上で食事をして、テントをたたんだ。登りの時には、はっきりと確認できなかった鐘懸や千飯ヶ滝などをゆっくり鑑賞しながら、前峰まで下ると、そこにはたくさんの人たちがにぎやかにお弁当を広げていた。この山頂は、地元の人たちの日帰りの目的地点なのだ。

徐々に高度を下れば、大長山や赤更山、そして鐘ヶ岳などの白山の西南に位置する1600m台の山々が大きく見えた。これらの山々も、かつて秋分の日とか春分の日に登り、いずれの山もよく晴れて、はるかに白山を眺めることができた。存分に楽しめたなつかしい山塊である。今日もよく晴れて、白山山系とは相性がいいなあと満足しながら下る。

こういったすばらしい山に登った時の常として、道々に咲き乱れるミヤマコゴミを

鈴鹿一のアルペンルート・鎌尾根を歩く

宮妻峽より水沢岳・鎌ヶ岳縦走

鈴鹿

酒井賢治

鈴鹿のゴールデンウィークは前半あまり天候がよくなく、山へ行く気にもなれず、家で長時間もののCDを鑑賞した。私の好きなワグナーの楽劇など、一曲聴くのに4時間前後かかるのだから相当の忍耐と時間が必要で、こんな時ぐらいいしか聴く気になれない。音楽を聴き始めてかれこれ40年、山登りより付き合いは古く、山とはまた別の楽しさがある。

しかし、5月5日の午後から天候は好転した。こうなれば音楽鑑賞は山への誘いは勝てず、以前より計画していた鈴鹿の鎌ヶ岳尾根(鎌尾根)を縦走することにす。このコースは平成6年7月2日から3日にかけて歩いた。2日後後輩くの人道ヶ岳

登頂は天候に恵まれ、ただ一人で山頂からの大展望を楽しんだ。3日早朝の水沢峠からの鎌尾根縦走は、強い風と濃いガスで展望は皆無であった。ガスがなければ素晴らしい展望が広がっているのになあ……、などと一人ボヤキながらキレットの次のピークまで来た時、一瞬ガスが薄れ、眼前に頭上を圧するよう立脚する鎌ヶ岳の南壁が姿を見せた。ほんの数秒だったがそれは思ってもみない怪物のような大きさであった。

そんな鎌ヶ岳を見たさに、しかも誰にも会わない時間帯に再び鎌尾根を縦走したい……。今夜は山麓の宮妻峽ヒュッテに泊まりと決心こんで早速連絡を取り、ザックに荷

鎌尾根の鞍部より衝立岩と鎌ヶ岳



を詰めた午後自宅を出発した。

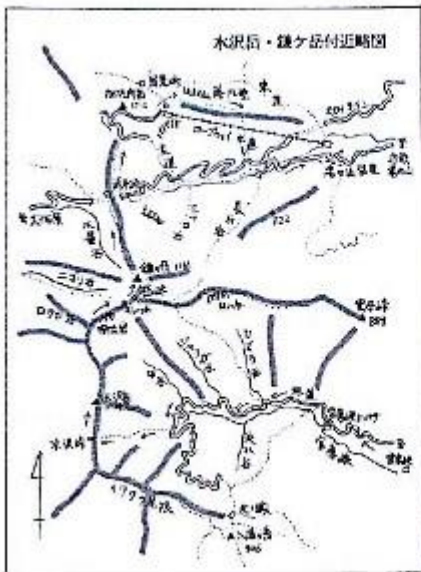
近鉄特急を乗り継ぎ16時過ぎ四日市駅に着く。駅内の売店で買物をし三重交通バスセンター16時40分発の宮妻峽口行きバスに乗る。バスは市街地を出て高島半の住宅地を過ぎると、茶畑などを横に見て長閑な田園地帯を西へ走る。車窓前面に見る鈴鹿の山が徐々に近づき大きくなる。どっしりと構える雲母峰と入道ヶ岳の間に、鎌ヶ岳

の鋭峰が天を刺すように聳え、鎌尾根が縦横状にシルエットを連ねていた。

17時30分過ぎ終点宮妻峽口に着く。指導係に促し所々で残照浴びる林道を奥に進む。マイカー登山の車が数台、林道を下っていた。キャンプ場の売店を冷えた缶ビールを三本買って18時10分宮妻峽ヒュッテに入る。温泉というのに河原のテント場もヒュッテも閑散としている。管理人の話では、大学生パーティ等今日殆どが下山したとのこと。いい時に来たもんだとほくそ笑む。素泊り料700円と貸毛布料150円を支払

い、入浴して20時過ぎシュラフに漕り込む。朝まで熟睡した。

6日、午前4時40分ヒュッテ出発。左に宮妻峽の谷や入道ヶ岳北ノ頭から下る大きな山肌を見ながら、薄明の林道を奥に進む。ふり返ると、V字状の谷の空間が朝焼けに染まっていた。カスラ谷道を右に抜け、少し進んだジャリガ谷合でパンとスーパの朝食をとる。朝上の空は徐々に青味を増し、素晴らしい好天となりそうだ。



5時20分水沢峠への入り口に着く。気を付けていなければ通り過ぎてしまいうような細い入り口で、かわい

い道標を立てられている。左に迫った小谷を見て樹林の山道を登る。小さな乗っ越しを過ぎると、道は小尾根の山肌に沿って雑木の中を緩やかに傾斜で奥にのびている。一、二の小谷を渡り崖間の山道を登ると、途中に比較的新しい山ヌケ(崩壊地)があり、従来

の道は崩れ少し上部に新しい踏み跡がつけられていた。

やがて岩壁多い谷に出ると右に洞れ滝のような岩壁を見る。ここで道は左へ、清流を伴った谷に入り岩壁を踏みながら登ってゆく。両側の岩壁は急峻なルンゼ状になり所々で宇を垂らしていた。谷の最奥部は岩壁が急傾斜で水沢峠方向に突き上げており、直登は困難だ。左側の岩肌につけられたジグザグ道を急登し、一段高いところから右下に岩間の谷を見下ろしながら山肌を巻く。ちょっととしたスリルを楽しみ谷の上部に出て、漣木と笹の中の細道を直登し6時10分水沢峠に辿り着く。

前頭、近江側に漣木を巻いて元越谷源流の山並みを見る。左(西)へは宮妻峠やイワクラ尾根を経て入道ヶ岳への登り道が登っている。小休後、右へ漣木と笹の混じる砂岩の道を水沢峠目指して急登する。砂岩の滑りやすい道だ。登るに促し徐々に背後の山々が迫り上がり、途中の露岩のガレ場まで登ると向かふ東にかけての展望が広がった。眼下に今朝登ってきた宮妻峽や支尾根を見下ろし、その向こうにイワクラ尾根と頂上部が緑の笹におおわれた入道ヶ岳の大きな山容を見る。休日の早朝、遠く見える



鎌ヶ岳山頂より鎌尾根と鈴鹿南部の山々

四日市などの下界はまだまだ眠っているかのようになかに広がっていた。
ひと息登って6時40分、周囲の草を凡く切り開いた水沢尻頂上に着く。灌木帯を越えて水沢尻北面の笹の斜面を下り、花崗岩が風化した岩場に出る。前方に続く山稜はるか向こうに鎌ヶ岳が白い頂上部を覗かせていた。ガレ場を灌木をつかんで慎重に下った。ガレ場の下から見上げる自然が刻んだ露岩のオブジェは幻想を見ているようだった。再び笹と灌木の緩やかな尾根道を前進する。一頭の鹿が近江側の緩やかな樹林帯を跳ぶように駆けていった。笹の尾根を過ぎると、縦走路は樹林帯を緩やかに上下しながら、所どころ伊勢側にガレを落として北へ続く。左へ曲がりこむあたりから前方に見る鎌ヶ岳は、鈍い三角錐を青空に突き上げアルペンの堂々たる雄姿であった。回りこんだ尾根の隆起は、西へロク谷と仙ノ谷源流域を分ける顕著な尾根を派生させているが、鎌ヶ岳へは右に直角的に折れ、明るい展望に出る北へ下る。この辺りから縦走路は鎌尾根の名のとおり、やせ尾根、ガレ場、岩壁が続き、面目知らぬアルペンムードを私に与えてくれた。
私一人の静かな縦走が続く。途中の鞍部

から前方に見る露岩とその後ろに続く縦断状のやせ尾根、頂上部をのぞかせた鎌ヶ岳など、素晴らしい山岳風景に練に構にとカメラのシャッターを切り続けた。衝立岩の岩壁を登り、時35分、素晴らしい展望の岩頂に立つ。北から北西にかけて深い谷を隔てて大きく盛り上がる御在所岳と雨乞岳の大山塊、そして鶴岡山・イブネ・クラシなどの近江側の山々がその背後をがっしりと固めている。ふり返れば、いま縦走してきた鎌尾根が所どころに白いガレを落として水沢尻の隆起まで戻り、その向こうに入道ヶ岳・宮尾野岳・仙ヶ岳など鈴鹿主峰南部の山々やサクラダグチなど野洲川源流域をなす山々が重なりと横打つ。そして遠く那須ヶ原山・高畑山・霧ヶ峰・有引山・湖南の山々などが描く青白いスカイライン。雲一つない快晴の下でただ一人心ゆくまで大展望を楽しむ。
衝立岩から、縦走路は徐々に近づき鎌ヶ岳を前方に見ながら、右にガレ場を伴ったやせ尾根や小峰尾を幾度も越えてゆく。小笹が敷きつめられた静かな鞍部で休んだり、深い谷に魅せられて覗いたり、砂塵の山肌を登ったりと変化のある縦走を楽しみ、本コース最大の難所キレットに着く。

前回の縦走時、伊勢州への下降点を通りすぎ、キレットの最先端の岩場から下ったが、間違いだか気づいて変更した。あの時は冷汗ものだった。下から見たキレットの岩場は下れるような所ではなかった。あの時もし岩が崩れていたら……といま思いだしてもゾッとする。今回、裾野が甚群なので岩壁先端からキレットをよく観察した。岩壁は伊勢側も近江側も深く谷に落ち、どちらに滑落しても助からないだろう。少し戻って伊勢側につけられた岩場を慎重に下り、岩壁中腹に設けられた頼場を無事通過する。キレットの窓から見た近江側の展望は印象的だった。裾野から最後のピークへ登り返す。途中このピークの西を巻く直接岩壁に出る道を左に抜け、奥つ直ぐ急登して岩のピークに立った。全山岩の鉤に身を固めた鎌ヶ岳の南壁が、青い空間に屹立していた。展望に足止めをくわい、また小休止した。最後のピークから溝状の道を下り、雲母峰やカズラ谷からの道と出合い、左へ折れ少いで岳時に着き、樹林を抜けて鎌ヶ岳南壁基部の岩壁の広場に出る。いまにも崩れんばかりに聳立する鉤型を刻んだ大岩壁と、ニゴリ谷壺頭の向こうに連なる鎌尾根の荒々しい光景に再び足止めを

くわった。南壁右側から階段状の露岩帯を登り、胸突ハ丁を登って頂上から東に下る尾根に乗り、左へ岩をよじ登って7時45分鎌ヶ岳頂上に着く。
今日、登頂の一番のりは私のように、無人の山頂から360度の大展望を楽しんだ。鎌ヶ岳は四回だが、こんなに展望に恵まれたのは初めてだ。少しして三ツ口合道より単独の若い男性が登ってきた。私とは逆コースで鎌尾根縦走のことで早々に下山していった。
さて、どちらに下山しようかと思案の末、時間的にも余裕があるので武蔵林に下り、御在所岳へ登り越して湯の山温泉に出ることにした。9時ちょうど山頂を後にする。眼前に御在所岳や雨乞岳などを見ながら急傾斜のサレ道を下る。途中から大勢の登山者と道を譲り合う。高度差300mは弱下降して武平峠に至り、御在所岳へ登り返す。中間の露岩からふり返り見る鎌ヶ岳はピラミッドな山容の山肌一面がアカマンオのピンク色の斑点におおわれていた。
10時30分御在所岳山頂公園の一角に登る。左回りに公園を散策したがどこもかしこも観光客がふれ、私の落ち着ける場所はなかった。結局山頂を一周しただけで、宮七

露岩から中道を下ることとした。ここでも大勢の登山者と道を譲り合った。磯内壁上部の御見岳展望のむつラスやキレットを越した岩場も登山者でいっぱい。奇れ石でよくく人影がなくなり小休止した。見上げる、眩しいほどの青空に灰色の岩壁を落とす御在所岳が高く聳えていた。
奇れ石から湯の山温泉へ一気に駆け下り、12時40分温泉街のバス停に着く。いつものように公衆浴場で汗を流し、湯の山温泉を後にする。四日市駅で大好きなジャンボリーマンを腹に詰め、近鉄特急の客となる。車窓からの鈴鹿の山はもう霞んでしまっていて見えなかった。
(平成7年5月5日、6日歩く)

明快・好望の城跡

烏ヶ岳から鬼ヶ城山

多摩雪雄

丹波

鬼ヶ城山にて(右筆)



丹波・福知山城

やむにやまれぬ退屈により上君信長を殺して逆臣となった明智光秀は、娘お玉(ガラシヤ)の嫁ぎ先、細川幽斎の協力を得らねず自滅した。その優れた智謀は周知のごとくであり、丹波一円を平定して領主となり、善政をしいた光秀の功績を讃えて、御堂神社として祭られ、現在も御堂まつりが行われている。

その光秀築城になる福知山城も、昭和61年3月に三年の歳月をかけて大天守閣が復元され、城内飲料水として日本一を誇る直降八尺深さ百六十尺(前向上一下尺)に及ぶ豊磨ノ井は、現在も清冽な水を湛えている。光秀が築城の折、周辺の寺院から集めた

五輪塔や宝篋印塔等による石垣も見物なら、秀麗な光秀の画像や文書等も一見の価値がある。

烏ヶ岳へ

未知の山城探訪の節は、地図によって登降路を策定し、地元山岳会や役場に照会してルート設定の指針を仰いでおり、周辺の名所等も御教示願っている。

今回、烏ヶ岳の登路としては東の印内、または南の泉谷から地図の破線によって頂上に至り、北の鬼ヶ城を探索してから観音寺に下りた。

関東から新幹線、特急と乗り継いでも、福知山駅着は正午近くとなる。日影は伸び

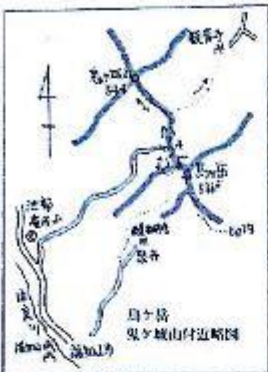
たが半日行程としては、タクシーを多用したい。

右記の各項に関して、福知山市役所からは懇切丁寧な回答を得た。東と南ルートは現在遊道となり、南西の池部ルートで登り観音寺下山がよいとのことだった。

タクシー二社に問い合わせた結果、池部ルートは貯水池より上部は補装してあるものの、樹枝草叢茂して車の通行は無理である。また烏ヶ岳より鬼ヶ城へは良い道が通じているという。

以上の報告を参考にしてタクシーを連ね、池部ルートを除我小学校より細流左岸沿いの狭い補装路に入る。

辛いにもこの時、頂上のNHK電波塔の増設及び周囲の擁壁工事のため数台の工事関係車が入っていて、電波塔広場からわずかな歩みで頂上の一等三角点に触れることができた。標高536・51の標石の礎石は325度、上面は東へ傾いているが、股疵のない綺麗な白銅彫りであった。



西風2段、雲量は扇状雲10の本曇りながら、電波塔に遮られる以外は、広範囲眺望が得られた。しかし二十万円で検索しても、低い山脈を同定することは出来なかった。

「原ノ記」に、樹高4〜5段の広葉樹が三角点周囲にあり、と記してあるが、今は東側だけで、電波塔を囲むフェンス脇に買った小社が鎮座しているのみの南北に小広の草地であった。印内ルートが判然と上ってきていた。

駅から東行20分、昼食休憩1時間、13時20分烏ヶ岳を後にする。

大江町との境裏側に境界石を伝うNHKルートがあるが、登ってきた車道を下るほうが労少なく歩きよい。

DDIのパラボラアンテナを見て、池部

ルートと分かれて右手の地図上に怪路記号の無い小広の砂利道に入る。

観音寺

室尾谷山観音寺は、奈良朝の和銅七年(714)、行基が大和室生山本尊の余木をもって本尊を彫り、利世安良を願って当寺を開基した。

鎌倉期の貞享二年(1723)、蓮葉が中興し慶長年間まで十一坊を敷いた。

時の将軍の帰依により諸役免除、寺領安堵の証文等が現存しており、天正以後、領主代替りの際、この寺に参詣後鬼ヶ城へ登嶽するを家例とし、そのつと本尊開帳法要を勤めた。

近年、十一坊の内、観音寺・金剛院・明

初登頂

花嫁の峰から
天帝の峰へ

平井 一正 著

三六〇頁 写真・地図多数

(日本山岳会京都支部)

定価二九〇〇円

新刊

カラコルム、テベットの未踏峰4座を全て

無事初登頂に成功した著者の足跡は、日本のヒマラヤ遠征登山の歴史そのもの。

関西山越の古道

中庄谷 直著

各二〇〇〇円

山生駒越 葛城二十八越 六甲・丹生越 30本

中叡山 高野山 西国霊場 熊野 伊勢 26本

京都丹波の山(上)

内田 新弘 著

二〇〇〇円

山陰道に沿って——亀岡・八木・御部・丹波、

瑞穂・福知山・三和・夜久野・大江の山 67山

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
京都 075-751-1211 7606



鬼ヶ城頂上

手院・安養院の二寺、坊を合併して観音寺とした。現在、本堂・講堂・本坊・別院、八十八ヶ所霊場その他がある広い寺域で、ことに四脚門が私の目をひいた。藤原後朝の本尊十一面観世音菩薩像は、二十三年毎に開扉される。千年以上の歴史のある古い寺院である。

鬼ヶ城山へ

鬼ヶ城の名で近畿に広く知られている鬼ヶ城山は大江山南西部に鎮し、標高544m、福知山市との境に接する整然とした姿の美しい山である。平坦な草地の頂上からの展望は福知山盆地全域、山良川流域や大江山連峰、そして丹波や但馬の山並みを一望できる。

鬼ヶ城には、源頼朝の一族である淡木重光が建てたといわれ、大江山鬼退治伝説の一翼を担っている。また、戦国武将が

城塞を設けたその遺構が認められる。丹波志によると鬼ヶ城峰として主要路が通じ、鬼ヶ城の「家中屋敷」・「鬼洞」・「城ノ池」等の古記録もあり、山中にその痕跡が認められる。

鬼ヶ城から25分、ゆっくり下って合した観音寺ルートには「メモリアルの森林・鬼ヶ城頂上へ800m」と記した立派な標示がある。車の通れる小径に赤土道が手入れの良い杉林の中に続いている。小さい窪地の湧頭をめぐりながら登って行く。

立派な休憩舎に着くと、そこからは小道となり少し登ると、あっと驚く大展望の鬼ヶ城山頂である。

ベンチ一箇・展望臺、小広い草地の斜面にはウツギ・ツツジ・ハナイカゲなどが咲き、緑に鮮やかな赤いアザミが印象的であった。間近に見える電線塔は、つい今しがたまでいた筒ヶ岳で、その後方に三線や根月園境、東に長者ヶ岳や若月園境、北には大江山や丹波國境、西は山良川上流の山々が

見えているはずだが、二十万圓に照らされて、昨日見当がつかないほどに重々たる連綿に閉まれている。去りたいほどの素晴らしい山頂も、静さねばならぬ朝が来る。30分余も思い思い

野の花讃歌 (15)

市川 正次朗

GW、静かな花の山へ

山に緑あざやかなゴールデンウィーク、いつもの時間が気になる日帰りではなく、たとえ一泊でもすっかり日常を忘れ、心許せる友と一緒に選ばれるこの時を何年かしみに待っています。

それだからこそ余計に、悔いのない山行企画を、早くからあれこれ考えます。みんなの体力、山それぞれへの好み、どんな花が咲いているかなど調査しての計画ですから、こう言ってもいいです。が、その時どきの仲間が喜ぶ顔が浮かび、計画を練るのも楽しいものです。もちろん最優先するのはご自身の好みですが。

昨年は3泊3日で福東と奥美濃へ出かけました。初日は横山、2日目はのんびり、3日目は定宿でした。横山は長谷の北、木ノ本から車で約30分(Jバスもある)の杉野という集落が出发点。ガイドブックに「地元」の青年団が



ヒトリシズカ

いえるのは、血と汗の結晶、しかし現代の若者らしく山頂への「一泊」とあって、後半の登りはかなりしんどいものでした。しかし、その頂上からイチリンソウ・カタクリ・エンレイソウ・イロウチワ・ミツバオウレン・ヤマエンコゴザ・ミスミソウ・イワカガミ、またヒトリシズカとヤマブキの群生にも出会えました。あと少しで花開きそうなヤマシキヤクの花びらにも……。

ヒトリシズカ(一人静)とは何とも優雅な名前。山溪カラー名鑑「日本の野草」によると、古野山に据う竹御前の姿に似たてたこと。この花とはサンショウ山の鬼面顔の食前でもつかぬ、ひっそりと咲いているのを見たことはあるのですが、群生ともいえるのは初めての出会えたのは初めで、す。落ち葉の中から、と並びた茎の先に細柄の白い花、もし彼女が倒れたる受けとめようとするかのように濃い緑の葉っぱが四枚、花の下に手を広げています。その何ともいえない秘やかさで、春先の好きな花のひとつになりました。

横山からの下山道では、サンショウを摘む人たちが何人も、あのかくわしい香りが、きつかった山行をいやしくくれました。もう少し早ければ、タラの芽も摘めたでしょうに。

その夜は長谷正宿外のビジネスホテルに投宿。翌日はのんびり福知山市から福前大野へ。除夜の鐘でおなじみの永平寺などを観光行して丸頭湯温泉の温泉宿へ。

翌朝、早々に朝食をすませて美濃屋へ出発。下から見上げるとソウカサイのような恐れを抱かせる双耳峰。陽原スキー場に車を置いて、ひと汗流りついたシキタゲ平で休養。一晩とんと下って再び急降。別コースからの合流点近くでキクサネイチゲと再会。残雪を踏んで登りついた小さな刺のある根上付近には、カタクリ・キバナスマイレ・ヒメイチゲが咲いていました。

今年のGWは、うまく仕事の段取りをすれば、かなりの連休。これまで泊まりがけの山行をしたことのない旅者の皆さん、たとえ一泊でもプランを立ててみませんか。

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発株へ!!



スキーバスもあります

小型 (20人・24人)
中型 (28人乗り)
中2種 (45人乗り)
大型 (56人・50人)
いずれもサロンカーからデラックスまで
〒578 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
(夜間・電話 06(946) 0816・FAX 06(945) 9044)

研究

神武天皇ゆかりの古道

日下の直越

柴田昭彦

生駒

冠山の神 (奈良神皇正統記の地と
宮ひ飯へらる、と刻む)



中世著名著『關西山越の古道(一七)』(カニシヤ出思)の目下道に據載して、ササヤブに迷い込み發れなかつたという人も多いのではないだろうか。筆者も平成7年5月27日と28日に挑んでみたが道がわからず、ササヤブを強引に突破して道なき道を進んだ経験がある。6月1日にようやくチープの印のある道を見つけたが、ガイド通りのコースではなかったため、ルートの発見は課題になっていた。12月23日にガイドコースを見つけて、赤チープを付け、道も通過に支障のない程度に整備しておいた。

さて、目下の直越は、『日本書紀』に見える神武天皇と長髓彦の激戦地である「乳倉(新原)」「乳倉(新原)と降止する海は、今日

否定されている」と同一とされ、三世紀以前の呼称(草香江)を推察させるが、『古事記』には、雄略天皇(吉野天皇)が、目下の直越の道を行幸したとある。また『万葉集』には、天智5年(726)に草香山を越えた時の歌(九十七歌)として「直越のこの道にしておし照るや難越の海と名づけけらし」とあって、よく知られている。

以上の資料を素直に読めば、目下の直越が草香江を西に読む、古代の目下の地域(新原寺、新原寺、目下に読む)から、東方の焼山へ登り、尾根に長い草香山を越えて大和へ出るルートであることが推定できる。

江戸時代の目下直越は、目下村から焼山・草香山を経て、飯口・谷田へ出るルートな

ので、目下の直越の道(じしと半)に重なり合っている。大和に出てからの直越のルートは複数あったと考えられるが、神代池・朝日地蔵・船石の滝・赤尾池・谷田・止町・三松四丁目と、古道をたどれば、長髓彦の本拠地とされる鳥見(鳥見川)の中心部に到達する。さらに、あやめ池・西大寺を経て平城京の一条大路につながるが、ここは目下とほぼ同じ緯度になるのは興味深い。

目下の直越を、中垣内越・暗越・辻子越であると考えた説があるが、これは誤りであり、善根寺越・池ノ端越・目下越の三本の道が焼山で合流して、草香山を越えたとする説をとるべきであろう。現在、焼山へ登る二本の古道の大分は荒道となり、そ

のうえ新道が交錯しているため、古代のルートの推定は困難である。善根寺・池之端・目下には遺跡も多く、細文・弥生時代から人が住んでいた。南北に徒歩15分程の距離であるから、三方から道が開けていたと考えるのが妥当ではないだろうか。

今回、ガイドコースの選択に当たっては、

目下からの登路が、急坂ではあるが阪奈道路の地盤もなく、江戸時代の人々の苦勞も体験できることなども考慮した。草香山を越えたあと朝日地蔵を通るルートは、スカイラインによって消滅しているため、北東に進行する八丁内越(江戸初期に、御山藩主が中垣内越の土曲りまで開削した道)を再生し



たハイキングコース(難歩き)をたどって生駒駅へ出るルートを紹介したい。なお、善根寺越と混同されやすい善根寺街道は、明治10年頃に開削、八丁内越とつながり右出し道として利用されたもので、直越とは無関係である(高槻市史第8巻八六頁参照)。

近鉄石切駅の北西出口から右へ進み、目下町方面へ向かう。石切山の表示の分岐で右へ上る(鞍馬・宮の尾に左へ進もう)。左手にロープを張った通路があり、乳倉(新原)の跡地に着く。次に善根寺となり、更に改修の跡地に着く。大正3年完成の生駒トンネルは昭和30年に新生駒トンネルが完成してその役割を終えたが、ホーム跡と共に残っている。右手には白旗大知への参道があり、地蔵などが祀られている。

左手から道路に出ると、左側に「くさかみち」の道標がある。下ついで、シキシマンの看板の手前で右の急坂を上ると、目下遊園地跡で、目下新池がある。戦前の遊園地とは全く違う公園だったようだ。左斜めに細道を下り左へ進むと、大正4年の道標があり、右へ曲れば目下八丁目のつきあたりである。右へ曲がり、上つていき目下不動尊を過ぎると、前方にヤブ道が見れる。ササのトンネルをくぐり左に崖壁を見

たあと岩壁を右手に見て進み、土管の階段を下り流れを渡ると、不動の滝(30級)に到達する。このあたりで帽子と手袋を準備したほうがよいだろう。

左側にあり入り口からササをくくりぬけると正面に岩壁が現れ、右側にナメ滝(50級)がある。左手に登り口があり、ササをつかんでの急登となる。途中で左側に踏み跡があり少し左でも登れるが、テープに従ってそのまま登りきり、左へ続く道へ向かおう。すぐ右への分岐もあるが、以前強引に登って来た道はない。左へ出て、ぬかるみの所をぬけると右手に大きな岩壁が見える。喉と進行に10分程左側をよじ登りササを抜けると、左側が谷となって落ち込んでいる場所に出る。右手の岩壁から20分程はなれて並行に立木の間をぬけ、ササヤブの入り口から少し上ると左手が急斜面になり、前方に小丘が見える。そのまま進む、丘の右側からやせ尻根にとりつく方法もあるが、危険なのでここでは右の急坂をよじ登るほうが安全である。

尾根に出て岩を乗り越えようと、シダの茂る中に小屋が見れる。竹藪小屋だったのだろう。左の倒木をくくりぬげると、雑木林の中の平らな道に出る。大きな岩が見れ

左へ回り込んだあと、左側にアシと剣んだ35センチの石が見つかると、次の岩場を越えて尾根を通り、大石が二つほど見れて左へ回り込むと、足元の岩にもアシと剣んである。おそろく「懸」の意味で、交通上の難所を示したものでないだろうか。足元に注意。

ほどなく明瞭な道に出る。右へ下る道は江戸川の目下越の一部のようだが、先のはうで雑木林に入り、急坂の手前まで道は消滅している。左へ上らう。少し歩くと昭和16年路で、16年竣工の乳岩堂水鏡影障が立っている。石材は瀬戸内海産の花崗岩で、碑文の揮毫は當時の書道の大家が選ばれたといわれている。左手の看板に「駒石山」とあるが、昭和15年頃には「姥山」と通称されていた。

北へしばらく進むと、右手にテープの印が見つかると、ここで直進すれば、道が左に曲がる所で右へ進んで神武天皇の兄、五瀬命が傷口を癒いだと伝承される雲霧窟の口に出られる。また左に見えるヤブ道は池之端越で途中まで下れるが、下部は廃道となっている。以前この道を通り上りトバス停に出るまで整備させられたことがある。



展望も長く、展望におすすめの場所である。

登ってきた道から見て、左へ進めば雲霧窟へ出られるが、目下越は右へ進む。すぐに分岐があり、右は鉄塔の管理(遊歩)道なので、左へ進む。あとは一本道である。途中、左手の尻根が、皇軍の屯した「砲場」と伝承されている。やがて、最高地点(雲霧窟)を過ぎ、右手に鉄塔が見えてくる。火の用心の看板が立つ分岐点に出る。鉄塔の立つ頂上は國見山と呼ばれる。この付近の森林である。草香山はこの付近の森林である。分岐で左へ下っていくと通田があり、左に物置小屋の立つ地点に着く。右への道が直越(越)と伝承されている。道で、神代池(伝承し江戸)や峠の伝承地があり、朝日跡方面にうながっていったらしいが、スカイラインの関連(昭和35年)で、古道は消滅している。小泉から直進して下り、次の分岐で右へ入る(直進すれば雲霧窟街道である)。フンスの間をぬける

しかし足腰痛のつながら具合はスムーズで、道越にふさわしい気がしたことをつけて加えておこう。ここはテープに従って右へ入り、孔倉(伝承)をたどらう。

入ってすぐに分岐がある。右へのヤブ道は目下越の下り口らしいが、途中で行き止まりになる。左へ進む。ササヤブをぬけると右手前にも道があり、先ほどの道と合流している。直進して岩壁をぬけ左手が斜面になった所を通り、左に穴がある所を過ぎる。ポットホールとかいうものだろうか。各所にあるので足元に注意しよう。分岐点から10分余り歩いて、急坂を登ると厄山の碑が立っている。厄山とは、五瀬命が負傷したとされる伝承地である。村め前方の尾根は、藪のいた「明神」(と伝えられる。しばらく進むと倒木がある。標高3000以上のこのあたりから東方は、昭和4年に縄文早期の石室(石室)が採集され、草香山遺跡と記されている。

ササを分けながら進むと、途中で左への分岐があるが、テープに従って右へ進む。右側が斜面となって落ち込んでいる所を過ぎ、高い木の右へ回り込んで進む。ササヤブの中のつまあたりで左をとれば、忽然と鉄塔が見れ、手入れの行き届いた手に出る。

とスカイラインと出会う。ここは八丁町で、明治4年にえびす屋の西山文吉氏が建てた常夜燈がある。スカイラインを横切り右へ歩を進み、清崎センターの方向へ進む。ここからは清崎センターのハイキングコース「流石歩道」をたどればよい。

この歩道の前身は「八丁町越」で、元禄頃から通行が増え、明治後期には茶屋が立ち、宝山寺参詣客で賑わったらしいが、大正7年には茶、新参道方面へ移り、今では平坦地にヤブが茂るのみである。宝山寺で販売している「古道に残る僧師の文字」の冊子には、茶屋の分布などが紹介されている。

さて、橋を二つ通り、右手に古墳の石室のようなものを見て、三つ目の橋に着く。ここが明治後期に備前茶屋と鞍茶屋のあった所である。余力があれば、江戸中流頃の朝日地蔵を見ていこう。疲れていたら左の歩道から宝山寺へ出るとよいだろう。

橋から、まっすぐにヤブ道へ入り、テープに従って進む。道が下りになる手前の分岐点で右へ上り、足取道(たどり)と「下り道」と刻まれた古い石橋がある。途中で右へ進み道をとり再び尻根道を歩めば、ほどなく朝日地蔵に到着する。背後はスカイラ

インになっている。前方の山は伎口の上山(丹の神を祀る)山、山の形で、明治期まで雨乞いが行われていたという。分岐点へ戻り、右へ下ろう。途中で左側に並行する道は旧道で、下方で合流している。朝城地があり、右へ降りて下れば流寺接道に出る。右へ進み橋を渡ると、ほどなく四つ辻である。右へ行けば室山寺駅へ出られて近道である。右へ進めば中央の道を進もう。

気持ちのよい道を進み、分岐で右へ階段を上る。家の横を通り池の右側の急坂を上る。下り道となり、大きな岩が現れる。上に立って一心不乱に経文を唱えている男性がいた。霊気が漂うこのあたりは、神武天皇と長髓彦の渡御地と伝えられている。「牛嶋の神」と。虫歯のほとはこまかく、右手の急坂を下れば、巨石果々とした神秘的な光景が広がる。橋を渡り左に清流を見て下れば、滝寺への参道に出合う。左へ下りつぎあたりで左へ入る。少し下り左の方へ出ると南園である。芝地の労働路が漂う。右へ下り道をとり、橋を渡り補装道路に出る。右へ下り、分岐で左側を進めば、近鉄生駒駅の階段はすぐそこである。

(平成7年12月27日・28日歩)

☆コースタイム☆
近鉄石切駅(25分)不動の滝(45分)神武天皇記念坂頂形跡(15分)厄山石碑(20分)送徳緑蔭塔(10分)草香峠(20分)八丁峠(25分)朝日公園跡(15分)朝日地蔵(25分)四つ辻(35分)南陽院(10分)近鉄生駒駅
△地形図△2万5千1:1万5千1:1万
1万1:1万5千1:1万

参考

- 目下の直越の諸説(乳念斎坂の説をきく)
- ①中垣内越(中垣内)説
- ②梨沖「万葉記紀初稿本」(1968年出)
- ③「神皇正統記」(1978年)
- ④「神皇正統記」(1978年)
- ⑤「神皇正統記」(1978年)
- ⑥「神皇正統記」(1978年)
- ⑦「神皇正統記」(1978年)
- ⑧「神皇正統記」(1978年)
- ⑨「神皇正統記」(1978年)
- ⑩「神皇正統記」(1978年)
- ⑪「神皇正統記」(1978年)
- ⑫「神皇正統記」(1978年)
- ⑬「神皇正統記」(1978年)
- ⑭「神皇正統記」(1978年)
- ⑮「神皇正統記」(1978年)
- ⑯「神皇正統記」(1978年)
- ⑰「神皇正統記」(1978年)
- ⑱「神皇正統記」(1978年)
- ⑲「神皇正統記」(1978年)
- ⑳「神皇正統記」(1978年)
- ㉑「神皇正統記」(1978年)
- ㉒「神皇正統記」(1978年)
- ㉓「神皇正統記」(1978年)
- ㉔「神皇正統記」(1978年)
- ㉕「神皇正統記」(1978年)
- ㉖「神皇正統記」(1978年)
- ㉗「神皇正統記」(1978年)
- ㉘「神皇正統記」(1978年)
- ㉙「神皇正統記」(1978年)
- ㉚「神皇正統記」(1978年)
- ㉛「神皇正統記」(1978年)
- ㉜「神皇正統記」(1978年)
- ㉝「神皇正統記」(1978年)
- ㉞「神皇正統記」(1978年)
- ㉟「神皇正統記」(1978年)
- ㊱「神皇正統記」(1978年)
- ㊲「神皇正統記」(1978年)
- ㊳「神皇正統記」(1978年)
- ㊴「神皇正統記」(1978年)
- ㊵「神皇正統記」(1978年)
- ㊶「神皇正統記」(1978年)
- ㊷「神皇正統記」(1978年)
- ㊸「神皇正統記」(1978年)
- ㊹「神皇正統記」(1978年)
- ㊺「神皇正統記」(1978年)
- ㊻「神皇正統記」(1978年)
- ㊼「神皇正統記」(1978年)
- ㊽「神皇正統記」(1978年)
- ㊾「神皇正統記」(1978年)
- ㊿「神皇正統記」(1978年)

- ①「大阪府史」(1968年)
- ②井上正雄「大阪府史」(1968年)
- ③目下直越の諸説(乳念斎坂の説をきく)
- ④「神皇正統記」(1978年)
- ⑤「神皇正統記」(1978年)
- ⑥「神皇正統記」(1978年)
- ⑦「神皇正統記」(1978年)
- ⑧「神皇正統記」(1978年)
- ⑨「神皇正統記」(1978年)
- ⑩「神皇正統記」(1978年)
- ⑪「神皇正統記」(1978年)
- ⑫「神皇正統記」(1978年)
- ⑬「神皇正統記」(1978年)
- ⑭「神皇正統記」(1978年)
- ⑮「神皇正統記」(1978年)
- ⑯「神皇正統記」(1978年)
- ⑰「神皇正統記」(1978年)
- ⑱「神皇正統記」(1978年)
- ⑲「神皇正統記」(1978年)
- ⑳「神皇正統記」(1978年)
- ㉑「神皇正統記」(1978年)
- ㉒「神皇正統記」(1978年)
- ㉓「神皇正統記」(1978年)
- ㉔「神皇正統記」(1978年)
- ㉕「神皇正統記」(1978年)
- ㉖「神皇正統記」(1978年)
- ㉗「神皇正統記」(1978年)
- ㉘「神皇正統記」(1978年)
- ㉙「神皇正統記」(1978年)
- ㉚「神皇正統記」(1978年)
- ㉛「神皇正統記」(1978年)
- ㉜「神皇正統記」(1978年)
- ㉝「神皇正統記」(1978年)
- ㉞「神皇正統記」(1978年)
- ㉟「神皇正統記」(1978年)
- ㊱「神皇正統記」(1978年)
- ㊲「神皇正統記」(1978年)
- ㊳「神皇正統記」(1978年)
- ㊴「神皇正統記」(1978年)
- ㊵「神皇正統記」(1978年)
- ㊶「神皇正統記」(1978年)
- ㊷「神皇正統記」(1978年)
- ㊸「神皇正統記」(1978年)
- ㊹「神皇正統記」(1978年)
- ㊺「神皇正統記」(1978年)
- ㊻「神皇正統記」(1978年)
- ㊼「神皇正統記」(1978年)
- ㊽「神皇正統記」(1978年)
- ㊾「神皇正統記」(1978年)
- ㊿「神皇正統記」(1978年)

①「大阪府史」(1968年)

- ②井上正雄「大阪府史」(1968年)
- ③目下直越の諸説(乳念斎坂の説をきく)
- ④「神皇正統記」(1978年)
- ⑤「神皇正統記」(1978年)
- ⑥「神皇正統記」(1978年)
- ⑦「神皇正統記」(1978年)
- ⑧「神皇正統記」(1978年)
- ⑨「神皇正統記」(1978年)
- ⑩「神皇正統記」(1978年)
- ⑪「神皇正統記」(1978年)
- ⑫「神皇正統記」(1978年)
- ⑬「神皇正統記」(1978年)
- ⑭「神皇正統記」(1978年)
- ⑮「神皇正統記」(1978年)
- ⑯「神皇正統記」(1978年)
- ⑰「神皇正統記」(1978年)
- ⑱「神皇正統記」(1978年)
- ⑲「神皇正統記」(1978年)
- ⑳「神皇正統記」(1978年)
- ㉑「神皇正統記」(1978年)
- ㉒「神皇正統記」(1978年)
- ㉓「神皇正統記」(1978年)
- ㉔「神皇正統記」(1978年)
- ㉕「神皇正統記」(1978年)
- ㉖「神皇正統記」(1978年)
- ㉗「神皇正統記」(1978年)
- ㉘「神皇正統記」(1978年)
- ㉙「神皇正統記」(1978年)
- ㉚「神皇正統記」(1978年)
- ㉛「神皇正統記」(1978年)
- ㉜「神皇正統記」(1978年)
- ㉝「神皇正統記」(1978年)
- ㉞「神皇正統記」(1978年)
- ㉟「神皇正統記」(1978年)
- ㊱「神皇正統記」(1978年)
- ㊲「神皇正統記」(1978年)
- ㊳「神皇正統記」(1978年)
- ㊴「神皇正統記」(1978年)
- ㊵「神皇正統記」(1978年)
- ㊶「神皇正統記」(1978年)
- ㊷「神皇正統記」(1978年)
- ㊸「神皇正統記」(1978年)
- ㊹「神皇正統記」(1978年)
- ㊺「神皇正統記」(1978年)
- ㊻「神皇正統記」(1978年)
- ㊼「神皇正統記」(1978年)
- ㊽「神皇正統記」(1978年)
- ㊾「神皇正統記」(1978年)
- ㊿「神皇正統記」(1978年)

①「大阪府史」(1968年)

- ②井上正雄「大阪府史」(1968年)
- ③目下直越の諸説(乳念斎坂の説をきく)
- ④「神皇正統記」(1978年)
- ⑤「神皇正統記」(1978年)
- ⑥「神皇正統記」(1978年)
- ⑦「神皇正統記」(1978年)
- ⑧「神皇正統記」(1978年)
- ⑨「神皇正統記」(1978年)
- ⑩「神皇正統記」(1978年)
- ⑪「神皇正統記」(1978年)
- ⑫「神皇正統記」(1978年)
- ⑬「神皇正統記」(1978年)
- ⑭「神皇正統記」(1978年)
- ⑮「神皇正統記」(1978年)
- ⑯「神皇正統記」(1978年)
- ⑰「神皇正統記」(1978年)
- ⑱「神皇正統記」(1978年)
- ⑲「神皇正統記」(1978年)
- ⑳「神皇正統記」(1978年)
- ㉑「神皇正統記」(1978年)
- ㉒「神皇正統記」(1978年)
- ㉓「神皇正統記」(1978年)
- ㉔「神皇正統記」(1978年)
- ㉕「神皇正統記」(1978年)
- ㉖「神皇正統記」(1978年)
- ㉗「神皇正統記」(1978年)
- ㉘「神皇正統記」(1978年)
- ㉙「神皇正統記」(1978年)
- ㉚「神皇正統記」(1978年)
- ㉛「神皇正統記」(1978年)
- ㉜「神皇正統記」(1978年)
- ㉝「神皇正統記」(1978年)
- ㉞「神皇正統記」(1978年)
- ㉟「神皇正統記」(1978年)
- ㊱「神皇正統記」(1978年)
- ㊲「神皇正統記」(1978年)
- ㊳「神皇正統記」(1978年)
- ㊴「神皇正統記」(1978年)
- ㊵「神皇正統記」(1978年)
- ㊶「神皇正統記」(1978年)
- ㊷「神皇正統記」(1978年)
- ㊸「神皇正統記」(1978年)
- ㊹「神皇正統記」(1978年)
- ㊺「神皇正統記」(1978年)
- ㊻「神皇正統記」(1978年)
- ㊼「神皇正統記」(1978年)
- ㊽「神皇正統記」(1978年)
- ㊾「神皇正統記」(1978年)
- ㊿「神皇正統記」(1978年)

①「大阪府史」(1968年)

- ②井上正雄「大阪府史」(1968年)
- ③目下直越の諸説(乳念斎坂の説をきく)
- ④「神皇正統記」(1978年)
- ⑤「神皇正統記」(1978年)
- ⑥「神皇正統記」(1978年)
- ⑦「神皇正統記」(1978年)
- ⑧「神皇正統記」(1978年)
- ⑨「神皇正統記」(1978年)
- ⑩「神皇正統記」(1978年)
- ⑪「神皇正統記」(1978年)
- ⑫「神皇正統記」(1978年)
- ⑬「神皇正統記」(1978年)
- ⑭「神皇正統記」(1978年)
- ⑮「神皇正統記」(1978年)
- ⑯「神皇正統記」(1978年)
- ⑰「神皇正統記」(1978年)
- ⑱「神皇正統記」(1978年)
- ⑲「神皇正統記」(1978年)
- ⑳「神皇正統記」(1978年)
- ㉑「神皇正統記」(1978年)
- ㉒「神皇正統記」(1978年)
- ㉓「神皇正統記」(1978年)
- ㉔「神皇正統記」(1978年)
- ㉕「神皇正統記」(1978年)
- ㉖「神皇正統記」(1978年)
- ㉗「神皇正統記」(1978年)
- ㉘「神皇正統記」(1978年)
- ㉙「神皇正統記」(1978年)
- ㉚「神皇正統記」(1978年)
- ㉛「神皇正統記」(1978年)
- ㉜「神皇正統記」(1978年)
- ㉝「神皇正統記」(1978年)
- ㉞「神皇正統記」(1978年)
- ㉟「神皇正統記」(1978年)
- ㊱「神皇正統記」(1978年)
- ㊲「神皇正統記」(1978年)
- ㊳「神皇正統記」(1978年)
- ㊴「神皇正統記」(1978年)
- ㊵「神皇正統記」(1978年)
- ㊶「神皇正統記」(1978年)
- ㊷「神皇正統記」(1978年)
- ㊸「神皇正統記」(1978年)
- ㊹「神皇正統記」(1978年)
- ㊺「神皇正統記」(1978年)
- ㊻「神皇正統記」(1978年)
- ㊼「神皇正統記」(1978年)
- ㊽「神皇正統記」(1978年)
- ㊾「神皇正統記」(1978年)
- ㊿「神皇正統記」(1978年)

関西・山越の古道を歩く

⑥ 生駒越・鳴川越

寺山 英男

1月21日は大寒であるが、朝から快晴で気温も高かった。近鉄舞阪駅を9時24分出発。9時52分生駒山越到着。改札口で一名合流し十八名となる。

まず、生駒山神社に詣でる。「この神社の社名は、神社から頭を出して、古くはしい人の性別・歳格好・着ている衣服の色やデザイン等を覚えて神社に伝える。それを以て恋や運命等を占う。だから辻占いと云う」と説明していたら、會員の女性二名が、小走りで来た。生駒山神社に向かって歩く。辻占や地蔵様があり、この道が参道だったことを思わせる。少し急な道を10数分歩くと、舗装された登山道に出る。横切ると弁財天の石像。両側に多くの石仏があり、右手に大きな不動明王がある。砂防堰堤を越す。以前たしかこの辺りにアケビがなっていて食べたと記憶がある。

歩きやすいよい道である。清水を汲んでいる人がいる。ほどなく休憩所がある。ひと休みして喉を潤し、暑いので上着などを脱ぐ。

左は石畳の道で八代龍王神懸寺に至る。大木に囲まれた静かなお寺である。右の道を進む。大きな石の脇や下から清水が湧いている。杖むとまろやかでおいしい。10分あまりでサイクリング用の遊路に出る。ここから10分ほどで鳴川峠に到着した。峠のお地蔵さんに手を合わせて、ひと息入れる。11時。夕食にはまだ早い。

峠を下る。風景ががらりと変わる。竹藪の緑が鮮やかで、熊笹が茂り、雑木林の中の平坦な道がうれしい。これこそ古い参詣道だ。分岐点に、「右千光寺(古参詣道)左千光寺」の表示板があり、ガイドブックに従い左の下り道を進む。雑木林と熊笹が続き落ち葉がまどわりつくが、それすらうれしくなる。こんな道ならどこまでも歩きたいと参加者は口々に言う。辻に、「右行場左千光寺」と刻まれた石標があり、右の小道に入る。数分でのぞき岩に出る。西ののぞき岩から谷間を見ると、のどかな雑木林の風景に心がなごむ。送電線鉄線塔下で弁当を開く。木々は小

さな赤い実を付けていた。木の名を口々にいえる人もいたが、私は食べるほうが先だ。

元の辻まで戻り、千光寺をめざす。今にも飛脚や町娘、侍が出てきそうな街道だ。足元を見ると崖の落ち石。秋には美しい紅葉が見られそうなお寺だ。

千光寺に到着して境内を巡っていたら會員3名と出会う。生駒山越で待っていたが大坂方面の改札口にいたため、行き違ひになり追いかけてきたと云う。聞けば昼食を早く近くでとっていたそうだ。境内の裏に行場があり、雄馬を登りつめると西ののぞき岩に出るが、危険なため通行禁止になっていた。ゆるぎ地蔵さんは優しい顔をしていた。

辻を右にとりすぐ左の川に沿った道を下ると、すぐに清流に落ちる。周りの石のほとんどに仏像が彫られている。清流地蔵も離れがたい魅力がある。ここから約1時間、田圃風景を左分に楽しみながら自然歩道を下る。時代劇のロケにも使えそうな街道である。生駒山口神社にお参りをして、14時過ぎ近鉄元山山口駅に出る。天候もよく冬にしては暖かく、なだらかな良い道で森林浴が楽しめた。

京都北山 やぶ漕ぎ痛快山行記 (25) 洛西保津川に落ちる秘峡谷 カモメ谷から沓掛山を経て苔寺へ

京都北山グループ

京都市内から短時間に入れるとても素晴らしい渓谷がある。このカモメ谷は一般ハイカーにはちょっと足を踏みこめない秘谷である。私がこの谷を知ったのは28年前、当時國鉄の柳小密保津川の友人がこの谷にマムシが多いため、いっぺん掘りに入ったらと教えてくれた。

昭和37年版の四千曲理院の2万5千図をを広げると、京都市と海西市との境界線上に破線路が記され、幽谷と谷をまどが破っている。源頭は尾瀬湖との線に通ずる非常に長い谷筋だがこれといったガイド線はなく、私には未知のルートであった。20年前に所属していたハイキング同好会がアドベ

ンチャーコースとしての秋の例会に取り組んで初めて谷に入ったが、もちろん四苦八苦散々な目に遭い、ほうほうの体でどうにか老ノ坂バス停に降りることが出来た。以来この谷の味が忘れられないで単独で入りたり、また昭和39年から当グループの例会に組み入れ、今回と併せて春・夏・秋の季節七回コース探索と研究にと未知の谷に挑んだ。4・5・6月と盛夏の生え込みを避けた。10・11月の深谷歩きは最高の感動を要しむことが出来た。

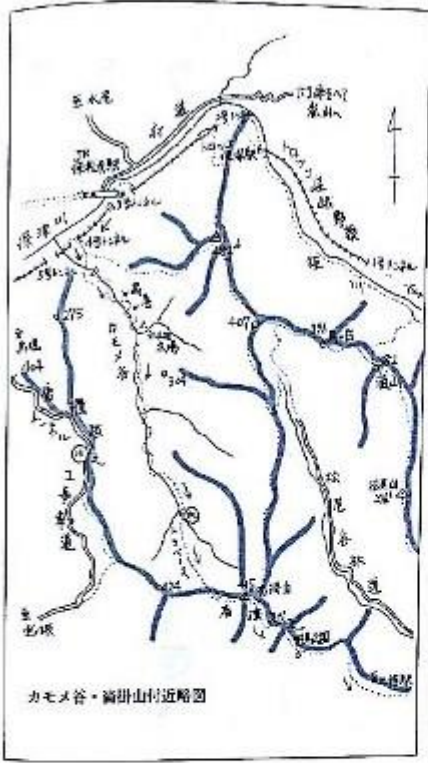
JR 嵯峨野線保津川駅下車、駅舎は保津川の左岸でホームは右岸にあるという変わった駅だ。駅の上りホームの東端から下

カモメ谷堰堤広場付近にて



のトロッコ線路(嵯峨野線保津川駅)にのり階段を利用して線路右の3号トンネル前に入る(線路から右へ進む)。トロッコ線のトンネル内を歩くので、懐中電灯を用意しておくこと。またトロッコ列車の第一便の下りがあり9時45分頃トンネルを通過するので要注意。5分程度で3号トンネル内を通過すると右側下は保津川、対岸の岩壁には保津川渡船の人が植えたツツジが満開、保津川下りの舟が連なるように渡る。落石

を渡けるより小トンネルを出ると鉄橋がかかっている。この下の谷がカモメ谷である。カモメ谷にはトンネル出口の左山脚前に踏み跡があり、これをヨジ登り登壇に上ると山道に合う。これをそのまま通れば482・6の三角点に至るがやがて道を覚悟しなくては行けない。トンネルの真上辺りにカモメ谷へおりの踏み跡道があり、枝を踏み急降下する。カモメ谷は林郭区のせいかケモノ道が多い。すぐに古の岩と倒木の重なる溪谷の右岸におりたつ。



石飛びで左岸の杉林林下の踏み跡を上流へ進む。山仕事や溪流釣りの方が入っているのか、道はかたまりはつきりしている。目に古びた黒い履袋があり、すだね状に白水を帯びている。この付近の山域では珍しい菅藪だ。履袋の右側の杉林斜面を高巻いて灌漑の上の砂地河原にでる。草付きにはヨメナが群生する。リーダーが「熱いゴハンにヨメナ葉を添えようまい」の清歌を放つ。ここで小休止をとる。頭上に大の字をした花びらをつけた大樹がある。

この灌漑上からは緩い流れに変わり、右岸・右岸と右岸やヘツリで上流へと溪谷の突圍につられて湖と、断崖になり巨岩が立ちふさぐ箇所に出くわす。右岸高巻き尾根、左上からトラロープを私が付けた地点。ロープを伝い、難なく通過する。左岸の出合いまでにもう一か所ロープ高巻きもあるが、安全に通過する。左岸は482・6の三角点から落ちる交合で、左岸広場は草付きの平坦地でテントが二、三張れ、草場もできる。左岸出合からは谷幅も狭くなり、水草も少なく石飛びも楽になる。いくつが左から小谷が合すが、右へ右へと本流を渡る。木の枝先に生ビールの空き缶が掛かっているが釣り人が目印に置いたものだろう。ピーク394.4からの南の谷を見送りなおも湖る。

ここまでには私が付けたテープ以外、道しるべらしきものはない。2万5千の地形図とコンパスは必須である。

長い食事時間の休憩をとってから右の山肌をトラバースする緩い登り道に入る。踏み跡程度だが青色テープが誘導してくれる。灌木をかき分け登り着いた鞍部・標高550.0の唐櫃越え線走路に出る。右にとればマスキ山からJR馬場駅・トロッコ池原駅へ。唐櫃山三河点へは左へ20分程の地点だ。食後のイッパチ登りのあとひと休み、蒸籠の香りが美味い。

唐櫃越え道も峠原野植林化のトンネル工事でお板からビーク40.4の地点まで車道が延びてヘリポートまででき、古道の唐櫃越えの良さは味をえなくなった。小休後、唐櫃山へと登る。縦走路左側のテープが三角点へ誘導してくれ、すぐ標高500.0の唐櫃山へ482・6の三角点の広場に出る。周囲は水々のためもうひとつだが、カモメ谷通しに愛宕山の両側が大きく広がる。カモメ谷を眺む山ひだりの山形が地形を放つてくれる。地図をみまひとときを過ごし唐櫃山を出発。

新しく出来た植林養生帯が広がり、ここも古道の良さが消えてしまっている。開発地の野鳥公園の看板も消え、周囲の緑と調和しない。やがて落西風城も孟宗竹の林へと変わり、東海自然歩道と合し直進すれば飯急上り駅。左へ竹の寺地蔵院前を通り若寺の京都バス終点給湯場へ到着した。唐櫃越えコースはトンネルの工事道や西武の植林開発で昔の良さが消えたので、ナブコースとして唐櫃山から482・6の三角点を経てJR保津駅に出るか、鳥ヶ岳経由で嵐山に縦走するコースをおすすめする。野鳥のさえずり、四季の木々の彩り、甲山低山とはまたどれい趣がある尾根コースなど、山菜大明の佳境とはカモメ谷のことだろう。(平成6年6月22日歩く)

【この花・この草】
 ワコン (Curcuma Rhizoma)
 ショウガ科
 熱帯アジア原産で、ヨーロッパでは早くから利用されていたものの、中国には後年西域から伝えられ、唐の時代の『新唐書』に初めて登場した。スーパーの各季野菜売り場には「クターメリック」の名で売れが並んでいる。これは、思い当たる方も多いはずだ。主根茎・側根茎をそのまま、またはコルク皮を除いて乾燥したものを用いる。特有の芳香があり味は辛味性で、黄褐色薬クルクミン・精油成分ターメロンなどを含まれる。薬用としてはクルクミンの利尿作用から強肝剤として、また鼻血・吐血などの止血にも。最近の報告では血中の中性脂肪の多い人にも効果があるとか。黄色色素としての利用は幅広く、カレー粉・沢庵漬けの着色料の他、ワコンで染めると防虫効果があるため、産物や焼き物・花物などに天然色素の染めにも使われます。天然の産物にもこんなに利用範囲の広いものがあるなんて、今一度確認してみよう時期かもしれませんね。

鹿見峠周辺の山

奥草山・政子と西山

奥草山と政子

奥草山から西に派生する這根は、熊野の東の麓部から再び高坂を上げ、奥草山(8200m)・政子(8800m)の山塊へと続き、野洲川ダムへ落ちる。477号線平子の手東に登る峠で、西斜面は植林に覆われているが、中腹に亀裂が入り崩れたため、現在山腹に崩れ防止の大きな井戸が掘られ、水抜き工事が進んでいる。

奥草山の山頂は草原が広がり西に展望が開けている。尾根を南東に通ると政子があり、南端に出るとより西に遠い大展望が得られる。この山頂は絶頂とも言われ、どこかに岩があるはずだと気になっていた。サクラグチに登った際この山頂をくぐると、811号の南側・日ノ谷左保の頭頂に大きな岩壁がある。南向きで露出はうっそうと茂る樹林に覆われている。絶頂とおぼしき

岩壁だ。

日野町から477号線を鹿見峠へと向かう。平子の集落を過ぎるとカーブの多い坂道に変わった。奥上に奥草山が見えてくると道脇に崩れ防止工事中の看板が立つ。さらに進むと左に林道が現れた。右の道脇に広場があったので車を止める。杉林の中の林道は緩い登りが続き、道路脇にはホタルブクロやサユリが咲いていた。奥草山の山腹に向かって左に回り込みながら登ると、左に大きく展望が開けた。左下に大きな水抜き井戸が見え、登りつめると広場に着く。右上に工事事務所があり、その右上の木に緑の印がある。

取付点。右折して山に入ると、樹林の中に道が続いた。枝打ちされた樹林の中は、岩壁が広がっている。道に沿って杭が続き、ケーブルが張りめぐらしてある。折り返し

国道477号線から奥草山を望む



政と進に覆われた山頂は雑木に囲まれているが、西の端に出ると展望が開けた。右には奥草山・水無山・山下には霧上ダムが満々と水を湛えて光り、その先は日野町から八日市方面だ。左には西山から猪ノ鼻ヶ岳へと続く山並み、吹き上げてくる涼風も最高だ。ゆっくりと絶頂を歩こう。

這根を政子に向かう。緩い下りから平坦な尾根に変わり、うっそうと茂る樹林の中に道が続いた。右に曲がるとすぐ政子に着いた。

いた。

雑木に囲まれているが、北東は切り開かれ、雨を浴び、御在所岳・鎌ヶ岳などの眺望を楽しむ。南に続く尾根の先端まで行くと黒松が現れ、灌木に変わって300度に近い大バノラマが展開した。腰を下ろして眺望を楽しむながらゆっくりと朝食にする。

左にハイハイが、草壁が広がる清水ノ頭から雨を浴び、御在所岳、そして鏡ヶ岳の西の岩壁は白色に近い岩肌を見せている。南に続く尾根は激しく凹凸を刻み、水たまりへと続いている。目の前には雄大なサクラグチの山壁、右の肩は絶頂や峠の草花だ。東西には湖東近頃の低い山並みが延々と南から津川の橋を引いている。眼下の野洲川ダムも満々と水を湛え、白く輝く湖面は丸い小さな緑の島を浮かべていた。豪華な眺めを堪能して、気分は最高だ。

復路に奥草山まで引き返す。この先も11月の南の岩壁が気になり、確認しようと奥斜面を下るとすぐブナ林に変わった。甲に近いこの低山にブナの自然林が残っているとは驚きだ。樹間から岩壁が見えてきた。右下に尾根が現れ、馬酔木が群生する中に適度な水を探して下り、登ると奥草山が開け、左手も11月の南斜面に岩壁が望める

ながら登ると道が分かれた。直進するとすぐ地すべりの現場だ。地すべりは樹林の斜面に200mほどの段差をつけて大きく広がっていた。崖を登り、山腹を南に向かう道を左折すると、山頂に向かって滑りやすい急坂が続いた。植林を出ると草原に変わり、右斜面は雑木が続いている。その中を登ると背の低い笹と葎の原になり、奥草山の山頂に着いた。

た。絶頂はこの岩ではないかと思っ

谷から垂直に突き上げたかなり大きな岩壁だ。鳥だ、谷の上流を黒茶色の大きな岩がゆっくりと滑りしている。双眼鏡で見ると水が揺れるのは、きり見えな。クマカダらうか？ 裏下の谷の杉の太木の天辺に止まった。じっとしている。気長に見ていると、谷の北斜面の樹林の中に矢のように飛び込んでいった。

奥草山まで引き返して草原の下りにかかる。オアシコがかたまってきた。花はまだ咲いていない。カワラナアシコと違い山頂に咲くアシコは、花も一回り大きく色も鮮やかだ。花の時期にぜひ訪ねたいものだ。

コースタイム

- 奥草山林道(20分) 取付点(1時間10分)
- 奥草山(15分) 政子(5分) 南端(20分)
- 奥草山(35分) 林道(20分) 477号線(へ地蔵園)20分 土山

昭文社「145 近江側・鎌ヶ岳」



大阿原から西山を望む
真上の鞍部
に水が流れて
谷が狭い。この
谷の右斜面
にテープの
印が残って
いた。テ
ープに従って

西山
御見峠の南西に聳える西山(A7722)は植林に覆われ展望がなく、魅力のない山と思っていた。しかし登ってみると、山頂部に一部自然林も残り、思わぬ眺望が楽しめた。御見峠から近いこともあり、家族で季節に楽しめるハイキングコースである。御見峠の道路脇の広場に車を駐める。477号線を大河原に向かって歩き、下りに変わるとすぐ右側に林道草山に向かって上っていた。右折しこの林道の緩い坂を登くと、鉄塔の下で左折、うっそうと茂る杉林に変わった。古い林道は削り取られ一部荒れていた。折り返しながら登りつめると林道終点の広場に着いた。

薄暗い樹林の中の杉を登り鞍部に着くと、尾根にはフェンスが張ってある。右上に切り戻きの明るい尾根が見えるので、右折してフェンスの横を登ると、すぐ尾根に出た。尾根には背の低い笹原がジュウタンのように広がっていた。右のピークまで登ると、眼下に日野町から福東平野が大きく広がり、右には水無山・輪向山・奥草山と続いていた。尾根は南西へとなり先まで素晴らしい無頭が続いていて、一度歩いてみたいと思った。
鞍部まで引き返し、フェンスの横を西山へと向かう。左斜面は樹林、右は自然林が続き、登りつめるとこの山頂部も背の高い笹に覆われていた。尾根と左斜面は伐採されたばかりで、北東に大きく展望が開けた。平坦な笹原を南端まで行くと、西山の石壁があり、思わぬ眺望が展開した。
南鈴鹿の名峰がずらりと並んでいる。左に水無山・輪向山・イハイガ岳からゆっくりと立ち上がる複雑の最景が雨之日だ。御見峠、ひときわ鋭く聳える鎌ヶ岳の岩峰、水沢岳・セクラグチの右には仙ヶ岳・仙鶴尾根と続き、その手前に御所平が水平に並び、乾いた草原を見ている。その手前の笹原を峰々冬枯れの乾いた草原が大きな

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)
〒634 京都市中央区丸太町通堀川東入
☎(075) 211-5788
℡(075) 231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

△コースタイム▽
御見峠(25分) 林道終点(15分) 鞍部(5分) 北のピーク(15分) 西山(40分) 御見峠
△地形図▽2万5千1:20,000
昭文社「145御見峠・鎌ヶ岳」
(岩野 明)

エリア別
徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ③4

水木林道から

イハイガ岳・向山

「南多摩から駒山山へと続く縦線にイハイガ岳(標高966.1m)があるが、縦走路の通過点として位置づけられていない。この山頂から北に張り出した3300m級の向山へのルートはあまり知られておらず、以前、本誌16号(昭和55・6月号)のコースガイド上級コースで「登り谷源流尾根縦走」を紹介したが、今回は水木林道からのルートを紹介しよう。
腰の奥に立ち込めるケモノ道を歩き、スタ場を越るルートは野性味満点、動物達の営みを肌で感じることが出来る。
西明寺から水木林道を歩み、奥の平橋を渡ると道が分かれる。道路脇の広場に車を駐める。
林道を左の谷に下る道に注意しながら登ると砂防ダムの手前の草原の中に左斜めに谷に下る道がある。それを進んで谷におり、

谷を渡るとすぐ小屋が現れた。うっそうと茂る杉林の中の緩い登りを辿ると左にまた小屋がある。深く積もった枯れ葉の中に踏み跡が続く。「鈴鹿モルゲンロートクラブ」の道標が次々と現れた。谷の源流を渡ると支尾根に変わり、真上に竜王尾根が見えてくる。急坂の登りになり、杉林を抜けると竜王尾根に着いた。右にいったん下り登り返すと次第に急峻な山になり、登りきるとすぐまた966mの北のピークに向かって急登が続く。ガレの横を木の根を掴んでよじ登ると、石楠花のある3300m級の山頂に着いた。そこを下り始めると左手の樹間から展望が開け、これから歩くルートが目の前に展開していた。下りから緩い登りに変わり、急登になる手前の左側に、以前付けたテープがあった。
四、五年前に鈴鹿を歩いている友人から、



草原からイハイガ岳を望む

この竜王尾根から山腹をトラバースしてイハイガ岳に向かうルートはないか、と尋ねられた。もしこのトラバースルートが発見できたなら素晴らしいコースになると、早速山腹を歩いてみた。すると美しい樹林が続き、イハイガ岳への縦走路の草原に登ることができた。それからは新ルートでこの山腹を歩いている。
左折してこのトラバースケモノ道を辿る



イハイガ岳から鞍向山を望む

大パノラマが展開した。後方左には雨乞岳山系が大きく広がっている。しかし、イハイガ岳の山脈は岩壁が削り取られ、荒々しく崩壊している。白倉谷源頭はそれ以上に大規模な崩壊が進んでいる。ピークハントばかりでなく、このような山の自然の厳しい現実にも目を向けてみたいと思う。草原にはリンドウが咲き競っていた。ひと休みして向山に向かう。尾根には不明瞭ながら踏み跡が続き、滝大の中の緩い下り

と登りを繰り返すと正面に、向山山頂の松林が見えてきた。向山に向かう左の一角に大きなヌタ場が現れた。梅雨の時期には大きな池となるこのヌタ場も、二か所水溜りを残すだけで、田圃に動物たちの臭いが漂っていた。

向山でひと休みして展望ピークまで引き返し、眺望を楽しみながら昼食にした。イハイガ岳から引き返す途中の草原の手前で、尾根の南斜面にもケモノ道が延び、それを通り崖際と池大の中を歩いていると突然崖下の岩壁でビューと凄まじい音を発して鹿が一頭斜めに下り崖木の中に消えた。この夏の初めに、この空腹で二頭の鹿に出会ったが、やはり今回も出会うことができた。

草原の鞍部から右斜面を降り、ガレの下を渡って登り返して、ヌタ場から往路を直下尾根分岐まで引き返す。蓋雑して池大の尾根を登ると、岩壁が変わり展望が開けた。腰を下ろし一服、今日歩いたルートを確認する。西下を受け色つき始めた山々が明るく広がっていた。

緩い登りをやり、松林に覆われたピークを望んで左折すると、松林に向かう樹林の中のヌタ場を確認して、尾根道を徒歩に向かって下る。鉄塔の手前で左折して、杉林



と、緩い下りと登りが続き、支尾根に着くとヌタ場が現れた。このヌタ場で道が分かれる。右にとり、急斜面を登ると左にブナの大火がある。樹林が笹原になり、登りつめたガレの上を左に進み、背の低い笹原を回り込むと鞍部に出た。緩い下りは松林に変わり、テープと柱の印のある登山道に出た。笹原から広々とした草原に変わると素晴らしい展望が開けた。

白く波打つスキの原の先に紅葉が始まっ

たイハイガ岳、その左に登り谷源頭のガレ場が明るい地帯を見せている。そして左に向山。その奥にはカクレクラ・御滝岳・鏡ヶ岳・水沢岳・宮尾岳・サクラグチと続いていた。後方にあるのは鞍向山の北峰だ。白いスキの原に紅葉した樹林と緑の笹の曲線が続き、イハイガ岳の山頂が突き出てくる。巨大な乳房を思わせる眺めだ。緩い下りの道は不明瞭になったが、背の低い笹原はどこでも歩ける。広い鞍部に着くと左に展望が開けた。湖東平野が大きく広がり、その中を愛知川がゆったりと蛇行しながら霞の中に消えていた。

広い鞍部には笹の印が続き、左の崖味の中にヌタ場が現れると池大の尾根に変わり道もはっきりしてきた。緩い下りは細尾根に変わった。その時前方でバナバナと音がした。鹿だ。オス鹿が一頭、腰に走り込んで行った。苦むしたブナの大木が現れ、急登を右側花と池木の尾根に上がると、イハイガ岳山頂に着いた。そして後方にも展望が開けた。

紅葉の縁から離れた草原、そして緑の笹原、ゆったりとびやかに盛りあがる湖向山を見ていくと、この山名は「同様に山

山の本の紹介 近藤 郁夫著
「御池岳春夏秋冬」やがて新書
― 新書 1冊 ―
御池岳紀行の三部作の完結編。
その時々によろかぶテーマ―山行きの
中での幻の花探査、地名・古文書・
古地図の調査―へと楽しみながらや
ぶに突き進んだ。
(問い合わせ先)
書店大池 (名古屋市)
052 (581) 1700

が正しいのではないかと思われてきた。ひと休みして、登り谷のゴルに向かう。

左斜面を下るとブナの大木が五、六本続いた。樹林を抜け、右斜面の背の低い草原の中にケモノ道が下っていた。池にも、左のガレを横切り支尾根に出た。右にもガレがある。支尾根を下り、ガレの下から左へ向かってゴルに着くと、登り谷源頭の大ガレが目の前に現れた。谷の左斜面にもケモノ道が枝分かれして伸びていた。右斜面のケモノ道を通ると鞍部を横切り、右の鞍部から尾根を登り、カヤトが広がるピークに着いた。

の中の遊歩路を下ると水木林道に着いた。
(平成7年10月27日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 奥の庄橋 (30分) 電士尾根 (20分) 962M (5分) トラバース分岐 (35分) 草原 (30分) イハイガ岳 (15分) 展望ピーク (30分) 向山ヌタ場 (25分) 展望ピーク (1時間10分) 三王尾根 (50分) 鉄塔 (10分) 水木林道
- △地形図V2万5千1:1日野東部

昭文社「45湖在所岳・嶺ヶ岳」
(日野 明)

リュックザック製造販売
洗滌・新緑・山菜
花だよりに誘われて
応援します。あなたの山登り
特報 神戸ザックが平成7年度の
グッドデザインひょうこのスポーツレジャー
部門賞を受賞致しました
・文庫ザックに似せたら……
・登山用品のことならおまかせ下さい。

神戸ザック
オリジナルのパンフレット御希望の方は
〒200円同封して下記まで。
神戸市長田区大橋町9丁目E3-1
〒853 TEL (078) 521-5851
FAX (078) 521-3528

永源寺集団施設探勝歩道を行く

識蘆の滝・永禪の滝から笠松山

421号線は永源寺を過ぎると、永源寺ダムに向かって上りに変わる。この道の左手に愛知川を挟んで永源寺の裏山が眺められる。岩壁を配した急斜面には、常緑樹と落葉樹がうっそうと茂っている。この山腹に自然観察コースとして探勝歩道が整備されているが、あまり人に知られていない。永源寺から山腹をトラバースして国民宿舎「もみじ荘」を通り、識蘆の滝や永禪の滝を巡り、笠松山からダムサイド公園へと続いている。現在、「もみじ荘」は営業を中止している。訪れる人はいない。かなり以前に整備された探勝路で案内板等は残っているが、道はまだしっかりしている。常緑樹の森は里山の長さがあり変化に富んでいる。いつでも気盛に家族で楽しめるコースだ。

421号線の永源寺を過ぎ、すぐ民家が並ぶ左の道を進み、左折して橋を渡ると永

源寺の駐車場が左右にあり、ここに車を駐める。駐車場の手前から右上へ永源寺に向かう。分岐を左にとり永源寺公館の下を進むと、永源寺の受付所が分かれ、右に上ると軒車場に着いた。山側に「願道」の道標がある。この道を右斜めに登る。

四国八十八ヶ所霊場巡りの道で、左右に石仏が続き、周囲は松・樅・檜・杉・水槲・樺・林などがうっそうと茂る森だ。要所要所にベンチも設置してある。しかし案内板の文字は消えほとんど朽ちていた。緩い登りとなりが続き、谷を渡るとやぶが茂る薄暗い道に変わった。人が通らないのか落ち葉が深々と積もっていた。急斜面は小石を金網に詰め左右を鉄パイプで固定した階段があり、左の急斜面には落石防止の石積みが二重に築かれ、木材を並べて作った素暗らしい橋もあった。急な下りになると、



識蘆の滝

小石を金網に詰めた階段に鉄の手すりまでつけてある。V字に落ち込んだ谷に向かつて鉄の階段が下っていた。踏み板は鉄板でなく丈夫な金網なので下がまる見えた。谷へ下り、階段を登りきると、平坦な道に変わりシキロ谷林道に出た。林道の横の公園の中を行くと「もみじ荘」の玄関に出た。雑草が茂り、人の出入りはないようだ。その隙を走り石段を下ると駐車場がある。

谷に下って渡ると、案内板がある。道は山に向かっているが、左折して河原の横の切り開きを進む。砂防ダムを越え、濡れた河原を右に回り込むと、奥に流の音が響いている。堂々とした「識蘆の滝」は落差約25m、二段になって滝壺に落ちていた。ここでひと休み。



永禪の滝



引き返し探勝路を左に登るとすぐ道が分かれた。左に登り流を高巻きして炭焼き窯跡があり、雑木の中にあふれる群生する道を歩く。左の谷に下ると「永禪の滝」だ。

急な下りになり、今年には雨が少なくて道力がないが、左右に紅葉を配して見事に納まっていた。以前、春に二回来た時には水量が多かったのでゴウゴウと腹に響く程の音を立てていた。そして左斜面の岩場にはカモンカの親子を見た。

引き返して分岐を左にとる。雑木の中に松の混じる落ち着いた静かな緩い登りが続いた。小鳥の声を聞きながら支尾根から山腹を右に回り込むと、右手に笠松山が望め、笠松尾根に乗ると緩い下りが続いた。鞍部からは階段の急登で、鉄道の下に首くと左右に展望が開けた。左には日本コバの山塊・五・不老堂・鹿戸山から笠松山と続いている。眼下は永源寺ダムだ。右には永源寺の先に湖東平野が眺望に広がる。湖東平野が眺望に広がる。その中央に近江富士が望めた。笠松山の山頂はうっそうと茂る樹林の中に赤松の巨木が笠のように枝を広げている。樹界を不手松で昔から切り口に残してあり、地元では笠松と呼んでいるという。周りは笠松山で道の両側は立入禁止の表示板があり、ビニール紐を何年にもわたって張りめぐらしている。切れた古い紐が風に靡き、新しいビニールの紐が風にたたく異様な光景が続いた。

緩く下ると道が分かれ、直進の道には行き止まりの表示があるが、行ってみると鉄塔の下で道は消えた。前方に大きく展望が開け、正面にはカクレグラが聳えている。右には湖東平野だ。

引き返して右に下るとダムサイド公園に着いた。屋根付きのベンチでゆっくり昼食をとった。公園は紅葉を楽しむ行楽の人々にぎわっていた。

(平成7年11月11日歩く)

- △コースタイム▽
- 永源寺(40分) もみじ荘(5分) 識蘆の滝(20分) 永禪の滝(20分) 分岐(40分) 笠松山(10分) ダムサイド公園(50分) 永源寺
- △地形図▽エフエフ百路寺・日野東部
- 昭文社「44 近江・伊吹・濃尾」
- (笠野 明)



近世の古道を歩く①

旧東海道鈴鹿峠越え(土山〜関) 18km

①土山(尾曾野宿)②土山宿③田村神社④鈴鹿峠⑤山神社⑥関西の湯分⑦白鹿野⑧板下の湯⑨片山神社

中村 敏文

① 土山



バス停土山の旧土山宿に入る。近世の家の並みが多く残る。土山宿の標示と説明板が行き届いてい

場は東西三三丁、戸数三五〇で旅館四軒、本陣と脇本陣があった。在壇の豪商立岡氏の豪邸本陣跡、田賀武士陣の末裔土山氏の豪邸跡、森白仙が病死した井筒屋跡、「勢もやし所東海通土山駅」の看板が

目立つ。東京から一五里半、江戸へ百十里二丁、一里塚・土山宿の石柱と説明板を見るあたりで土山の家並みはとぎれる。

② 田村神社

北へ大きく回り、坂に覆われた長い参道の奥深く、坂上田村麻呂を祭祀する流造、檢皮食の社がある。弘治三年(一五三二)創建の社殿は、一度の兵火で焼失し、現社殿は正保四年(一六〇三)再建でその後たびたび補修しているそう。

田村麻呂が村人のために鈴鹿の山賊を退治したことから、厄よけの神として信仰され、二月中旬には田村祭で賑うそう。田村川を渡り、旅人を悩ました弘法の怪物が出没したという蟹ノ坂に入ると、弘法大師に甲冑を脱がれた蟹を祭る五輪塔(蟹が

石が沢向こうにある。この辺りから旧道は旧道1号線との重複を繰り返して、十栗寺前まで続く。

③ 鈴鹿峠



鈴鹿峠の万人講常夜燈

近江と伊勢の国境である鈴鹿峠を、国道1号線は新旧二本のトンネルで抜けるが、旧道は鈴鹿の清水が湧く銀鈴水の所で国道と分かれ、登り坂がだらだらと続く。鈴鹿峠峠傍休養所は、目を眩張るばかりの大き



旧東海道鈴鹿峠越え付近略図

な万人講常夜燈の周りに設けられてある。大休止をし、昼食をとったり常夜燈を入れて記念撮影をしたりする。

休憩所から緩い坂道を進み鈴鹿峠に近づくと、鐘出への指路がある。西へ分岐して田村神社の旧跡を経て300mも急坂を上ると、山賊が旅人の来るのを写したという鐘岩につく。人影が写るほど光っていたといわれる岩肌は山火事で赤茶けていたが、岩に上がると鈴鹿峠下の巨龍らしが素晴らしい。

④ 片山神社

鈴鹿峠から急な山道を下ると、木立の中に取り残されたように片山神社が鎮座する。室町時代に三千山頂から現在地に遷座され、鈴鹿大権現・鈴鹿明神とも言われた式内の古社である。祀祭神は大黒大権現・伊弉諾命・大徳姫・瀬織津彦・速須須良姫で山中の神にしては女神が多い。平安時代に建てられた宮が伊勢神宮に仕える際に当地に身置世襲が設置され、身を清め、お願いを受けて神宮へ下向した(御行)と伝えられる。昔の坂下の前方は古町という片山神社のすぐ下の谷間にあった

が江戸初期に八丁東の坂トバス停付近へ移った。

⑤ 坂下宿

片山神社から急坂を下り、しばらく国道1号線を伝うと、旧道への分岐点に着くと、一面廻世菩薩殿の石碑があって、十数軒の滝のある行場が石仏に囲まれて残る。天保時代の調査では坂下の一五三軒のうち四八軒が跡無だったという宿場町には、大竹屋・松屋・蕎麦屋の三本陣と小竹屋の脇本陣があった。今では戸数も3分の1に減少し、茶畑が増え、小竹屋跡の石柱、山の帯を渡ると梅屋跡、坂トバス停に松屋跡の石柱がある。山裾の法安寺に松屋の玄關が移築されて残り、大竹屋の不断板が茶畑の中に残るだけで往年栄えた宿場町の面影は少ない。

かわらだに橋を渡ると、ひっそりした宿掛の敷石が細長く続き、弁天橋を渡ると左手に待野元清が描き添え、弁天橋を捨てたという前石がむき出しの東拾山が迫る。市之瀬に入ると右手に板橋斎院があって、大願堂の手前の田んぼには転び石がある。

やませみクラブ
初心者のための山歩きを楽しむ会

●ゆったりした行程、ペースです。
●基礎をもう一度学びたいという方も大歓迎!
●お一人でも、どの回からでもご参加いただけます。

期日	テーマ	予定コース	費用	
5月編	★日帰り ①4月27日(水) ②4月28日(木) ③4月29日(金)	『やませみ・休みの方 スナップ3』 高野・熊野山 麓カワポイントから熊野山へ、高野山へ。日よりの山歩きを楽しむ。高野山の山歩きを楽しむ。	★高野・熊野山(標高229m) (歩行4時間30分) 大塚(8時開)→熊野山→高野山→高野山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	① 11,000円 (お弁当代) ② 10,000円 (お弁当代)
6月編	★日帰り ①5月12日(日) ②5月13日(月)	『やませみ・休みの方 スナップ4』 富士・家来山 麓カワポイントから富士山へ、家来山へ。富士山の山歩きを楽しむ。	★富士・家来山(標高1015m) (歩行3時間30分) 大塚(8時開)→家来山→富士山→家来山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	① 10,000円 (お弁当代) ② 9,000円 (お弁当代)
7月編	★一日二回 5月29日 →返社	『山小屋に泊まる』 大塚・高野山 麓カワポイントから大塚の山小屋へ、高野山へ。山小屋に泊まる。山小屋の山歩きを楽しむ。	★高野山(標高1725m) (歩行2時間30分) 大塚(8時開)→高野山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	20,000円 (朝食・夕食・お弁当代)
8月編	★三泊四日 5月31日(火)～ 6月3日(金)	『山小屋に泊まる』 大塚・高野山 麓カワポイントから大塚の山小屋へ、高野山へ。山小屋に泊まる。山小屋の山歩きを楽しむ。	★大塚山(標高1187m) (歩行2時間30分) 大塚(8時開)→大塚山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	45,000円 (朝食・夕食・お弁当代)
山行プラン	★三泊四日 6月19日 →19日	『山小屋に泊まる』 大塚・高野山 麓カワポイントから大塚の山小屋へ、高野山へ。山小屋に泊まる。山小屋の山歩きを楽しむ。	★大塚山(標高1187m) (歩行2時間30分) 大塚(8時開)→大塚山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	79,100円 (お弁当代)
9月編	★日帰り 6月16日(日)	『山小屋に泊まる』 大塚・高野山 麓カワポイントから大塚の山小屋へ、高野山へ。山小屋に泊まる。山小屋の山歩きを楽しむ。	★大塚山(標高1187m) (歩行2時間30分) 大塚(8時開)→大塚山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	10,000円 (お弁当代)
10月編	★日帰り 7月7日(日)	『山小屋に泊まる』 大塚・高野山 麓カワポイントから大塚の山小屋へ、高野山へ。山小屋に泊まる。山小屋の山歩きを楽しむ。	★大塚山(標高1187m) (歩行2時間30分) 大塚(8時開)→大塚山→大塚(10時開) (下山後、大塚の平定)	4,000円 (お弁当代)

★以降も山行プランは続きます。詳細はお問い合わせください。
★ベテランの山行リーダーが引率します。女性お一人での参加、中高年の初心者の参加を歓迎いたします。お気軽にお問い合わせください。

アマミュージック株式会社
お問い合わせ
フリーダイヤル 0120-802514
FAX 06-265-3308
092-414-5536 06-265-2303

⑦ 関宿(関町の中心地)
関は平安時代には給田園が設置された土地で、室町時代に置賜となり地名を関地蔵と呼んでいた。江戸初期の長尾朱印状にも関



関宿本陣跡(関郵便局)

⑧ 西の追分(加え登る伊勢街道との追分)
関の刑場跡の西の追分には、路標の石陣が残り、「ひだりいがやまとみち」と刻んである。加太峠を越えて伊賀上野に至り、大相・山城へ迎える関街道である。

地蔵の男名が残っている。
現在の関宿は町をあげて歴史の風景線の保全に務め、西の追分から東の追分まで、8.5kmの旧東海道跡は、昭和49年に国指定の重要伝統的建造物群保存地区となっている。
関宿・関宿町も町屋の土蔵風に建てられ、関宿の建物が5割も残る。関宿町に近世新築の建物を建てている。木陣二件・木陣一軒のうち伊藤本陣は改築してあるが一部残り、川北本陣は建物の一部と旧門が延命寺へ移築されている。
行基の開削という、関山宝蔵寺 関の御懸は、江戸初期建立の愛宕堂が関の重文に指定され、現在旅館中の本堂は元禄十三年(1706)の建立と見做される文化財である。本尊(加太菩薩坐像)と蓋印(関宿)は、関宿のハイキングのひとみちにある。
案内書を手にした関宿の旧東海道跡は、関宿も整備されているので容易である。関の地蔵から東へゆくと関宿寺で、近松作品『可成り庄屋敷の小春節』に登場する与作・小方の小方の墓がある。近松の墓の墓石の横の墓石は「志と志(志と志)」。その真向かいの郵便局は高尾場の木陣跡、少し行くと関宿付板の墓石「関の口」(墓

⑨ 東の追分(伊勢街道との追分)
ここに立つ一の大馬路は旅人が伊勢神宮を参拝するために立てられたものである。伊勢外宮にある本陣は、寛政10年(1799)に一度に五十鈴川にかかる宇治橋の外の馬路として移築される出陣がある。そのため古くなった宇治橋の外の馬路は崩壊して、町民の手によってはるばる伊勢からここに移され(お水也町)して、ここが大馬路となる。
本陣(伊勢外宮)の傍らの道標には「右きんぐらみち 左江戸道」「是より外宮十五里」と刻まれている。
伊勢街道は、伊勢・松本・窪田・大塚田の駅を経て、現在の津市(一身田)から江戸橋で参宮街道に入る四里(五丁)の途である。京より九里半、江戸へは一〇六里の関宿に名残を留めつつ、「R関宿へ」とある。

了)の老舗深川屋、伊藤本陣は松井家、餅屋金時屋が並び、源氏義経本家の向かいに支那の一部が千両屋敷根の鶴屋本陣があり、見ごたえのある町並みである。竹火燭など近世の産物は町屋を改造した歴史民俗資料館にある。

千早城跡から金剛山へ

松永恵一

花橋の香

目に見えて緑の深まりを感じる木々の上を、爽やかな五月の風が吹き抜ける。流れる水の音が涼しげにきこえ、木漏れ日が大地に動く絵模様を描く。幽香というのか、ほのかでよくゆかしく、心をなごませてくれる香りが夏の訪れを知らせる。

五月待つ 花橋の 香をかげば 昔人の 袖の香ぞよる

『古今和歌集』二九九 夏 よみ人知らずの歌 宮内元に忙しい夫が十分な愛情をそそいでくれないので、妾想を盡かして出ていった妻は、別の男に従ってよその国へ行ってしまった。宇佐八幡宮へ使いにいった時に、その夫は去っていった妻の家でもてな

される。他家の主婦となつていつか夫の妻に逢ふ。目の前の男が自分の夫だった人と気づかない女に、男は妾の橋を手に取ってこの歌を口ずかす。

五月を待つて咲く橋の花の香をかぐと、ああ、昔親しんだ人のなつかしい袖の匂いがする。

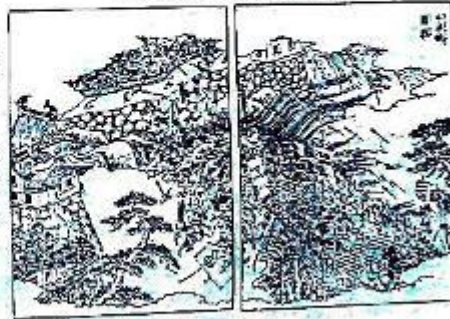
男がかつての夫と知った女は過去を恥じて出家する。

清涼な橋の香のなかに歌をよみかけた男の心も、恥じる女もかなしく思われる。もともとは、男の不実のゆえであらうのに、あはれ深い話である。

千早城秘水伝説の花

楠木正成は千早城を築いた時、水を貯えることに苦心した。水源を求めて歩き回る正成の前を、一匹の狼が牽くようなものをくわえて走った。狼の去った跡には、美しい水を満々とたたえた泉があった。さっそく城中へ土中深く埋められた竹の樋が敷設され、一人の若侍が泉の番をすることになる。ある日のこと、美しい一人の娘が泉のほとりに姿をあらわした。若侍は駆け寄り娘を眺め、激しく語った。「私は、この麓に住む五左エ門の娘。竊を取りに来た、ここへ迷い込んでしまいました。決して怪しい者ではございません」。その言葉に正成に娘の影は見えなかった。決して他言するなと頼む若侍、互いの心がときめいた。娘は毎日のように訪れるようになり、泉のほとりで恋がささやかれるようになった。父の五左エ門は娘に不審を抱いて後をつけ、秘水のことを知った。北条方に密告し、莫大な恩賞にありついた。秘水が破壊されたことを知った娘は、自分の不注意と後悔し、泉のほとりで胸を刺してその罪を詫言した。娘の血で染まったその地からは、毎年赤い花が咲くようになったという。

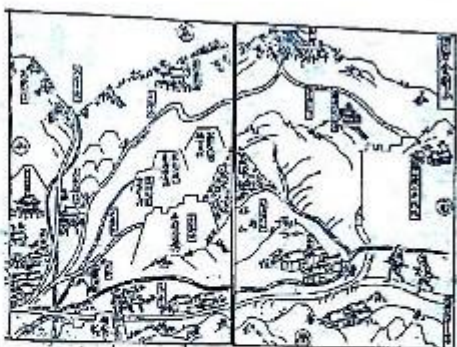
千早城の観開「河内名所図会」



前世の骸骨を見た浄蓮法師。善城山系は、昔のまします神奈備の地。神奈備の神は天神（自然神）と祖靈からなる。天神は天空から山頂に降臨された神。祖靈は山麓の民の祖先の霊で、はじめは山麓に鎮まり、漸次山頂に向かって上昇して天神と一体になる。しかし生前罪穢れの深い祖靈は山頂に上昇し得ず、そのまま山麓に留まると考え、その地を異の河原や別獄谷とみだてた。立山や木曾御嶽などの地獄谷

届けられた正成の首級

淡川にて討たれた楠木正成の首級は、六条河原でささげられた後、足利将軍の手により河内の妻子のもとへ送られた。目を閉じた色の変った首を見るとき、悲しみの心は胸に満ち、嘆息の涙はとどめようがない。子息正行は涙を袖で抑え持仏堂に入り、父が形見に留めた鞘水の刀を抜き白装しようとした。母は急ぎ走りより、腕に取りついて、「正行、これは何としたことです。父上が兵庫へ向かわれた時、出陣を願うをなしたを板井の宿より無理に帰されたのは、後世を恨むれようとするためでもなく、腹を切れとお心でもありません。父がやむなく討死しても、そなたは文武の道を継ぎ、生き残った一放を集め、今一度兵を挙げて敵を滅ぼして、御帝を安泰の地位におつけ申し上げよとの御遺言であったのではありませんか。いこのまに忘れたのですか。ムササギ腹を切って死んだのでは、父上にもそむき、君にも不忠ではありませんか」と、泣く泣く諫めて、刀をもぎ取ってしまった（『太本記』巻第十六、「正成が首級へ送る時」）。正成の首級と伝えられるのは、千早城跡と頼心寺境内と杜木神社境内の二箇所にある。



金剛山『河内地名所鑑』

今回のコースは、千早から最短距離の道で、正面登山道といわれている道を登る。「太平記」で名高い楠木正成が天下の軍勢を向こうに回して破った千早城跡を経て急坂の尾根筋を登り、真見城跡で河内平野を一望し、転法輪寺・葛木神社に参拝し、杉の大樹やブナ林を愛で、山頂より南尾根を縦走し、伏見峠を経て久留野峠から下山す

コース概観



が行われる。朱塗りの灯籠に導かれるようにして葛木神社に向かう。神社の裏が金剛山最高地点の葛木店(1134.3m)。山城のため立入り禁止。緩やかに下っていくと一ノ鳥居。左折すると水越峠。直進して無線中継所の横の湧出山(1112.2m)の一等三角点を踏む。樹林に囲まれて展望はよくない。分岐点まで引き返して遊歩道

を歩き、府民の森にはや園地をめざす。右手に展望台がある。ここから村雲が南山ロープウェイの金剛山駅に向かう道の途中にクリンソウ(九輪草)が鮮やかに咲き誇る。赤白、ピンクの花が初夏の風に揺れている。クリンソウはサクラソウ科。花びらが数段にわたり車輪状につくことから、仏塔の九輪にちなんで名付けられた。

大勢の人でにぎわうのはや園地のピクニック広場の下方に、金剛山キャンプ場がある。宿泊は7月の第二土曜日から8月31日まで利用できる。パドウォッチングや大規模な遊歩道の場である。すぐに伏見峠。右に折れて崩壊された林道を下ると急坂を経て、ロープウェイ前バス停。

左の久留野峠に向かう遊歩道に入る。道は細くなり、人も少なく足元も悪くなるが、ダイヤモンド・トレールはよく踏まれ、道標も完備しているので気持ちよく安心して歩ける。地蔵尊を右に見て、クマササの道を過ぎると、木の根と石ころの露出した歩きづらいな下り坂が続く。下り終えた所が久留野峠。奈良橋の久留野と、大阪側の千早を結ぶ峠は、薄暗い樹林の中にひっそりと静まっている。久留野峠を右に下るとロープウェイ前バス停、百ヶ辻に至る。

《コースタイム》

- 南海難波駅(高野線急行約35分) 河内長野駅(南海バス約30分) 登山口または近鉄阿倍野駅(長野線急行約30分) 富田林駅(金剛バス35分) 登山口(20分) 千早城跡(30分) 一本木茶屋(50分) 山上寺事務所(20分) 湧出山(30分) 伏見峠(30分) 久留野峠(35分) ロープウェイ前(南海バス30分) 河内長野駅(難波駅またはロープウェイ前(金剛バス約25分) 富田林駅(阿倍野線急行約30分)

- 南海難波駅 河内長野駅 520円
 - 河内長野駅 千早登山口 470円
 - ロープウェイ前 河内長野駅 520円
 - 近鉄阿倍野駅 富田林駅 420円
 - 富田林駅 千早登山口 490円
 - ロープウェイ前 富田林駅 520円
- 《地形図》 2万5千1:5萬・御所 昭文社 35金剛山・岩瀬山
- 《問い合わせ先》 南海電鉄総合案内所 06(643) 1005
- 金剛バス 0721(23) 2286
- ちはや園地金剛山キャンプ場 0721(74) 0056

コース概観

南海難波駅・近鉄阿倍野線の河内長野駅で下車。駅前から金剛山ロープウェイ前行きの南海バスに乗るか、近鉄長野線の富田林駅から千早ロープウェイ前行きの金剛バスに乗り、登山口で下車。

バスの進行方向に少し歩く。左手の規則正しい急な石段を登る。石段は数十段続き、その後は、ゆるい勾配の小よりの自然石を踏み込んだ段々が、雑木林の中に延々と続き、千早城跡の広場に著く。城跡の奥には楠木正成を祀る千早神社が鎮座し、真正面には金剛山頂が威しい表情を見せてそり立つ。「太平記」は記した。「北城東西ハ谷深ク切テ人ノ上ルベキ様モナシ。南北ハ金剛山ニツツキテ而モ希地ナリ」とも。大槪公は奇策を弄して、さんざんに北条方の大軍を困らせる。大石を投げおろす。衆人形を造って併したり、橋をかけて攻め込んで来る軍を焼殺したり……。」「太平記講談」の最も生彩を放つところである。昔に思いを馳せた後は、山頂へ向かう。

道の左側に石の玉屋に囲まれた五輪塔が祀られている。元禄二年(1695)に金剛登山をした貝原篤軒は「博遊紀行」に、「金剛山と千早山との間に楠正成の塔あり、

頗る大なり、石灯籠二基并石の塔あり、石川若狭守建立なり、南に向へり、正成の墓蹟川津川にあるは賑坊なり、ここにあるは首領なりと云ふ、是等氏より正成の首を故郷に送られしを憶めし事なるべし」と記した。

道は急坂となる。丸太で土砂止めされた大階段と風化した花崗岩のえぐれた坂道が延々と続く。やがて楠公ゆかりの、のろし台跡・一本木茶屋に到着。ひと息入れ、さらに探行坂と呼ばれる急坂を登り続けると、道は平山となり、「楠公史蹟第五類金剛山」と刻まれた石柱を見る。道は二つに分かれるが、どちらをとってもかまわない。右の道をとる。ブナの原生林を通り抜ける。左の道と合流するとまもなく転法輪寺の寺務所に登り着く。左手の園見城跡に立つ。隅の光を豊かに浴びた河内平野の風景が眼下にひろがる。吹く風が爽やかだ。

引き返して転法輪寺へ向かう。途中の食堂・茶店(金剛山休みの)の前に、金剛山成会(登頂回数別に姓名を記した大きな板壁がある。転法輪寺には明治維新以来、久しく本堂がなかったが、昭和二十六年に大南坊跡の傍らに再建された。後行者の忌日にあたる7月7日には、建華会という柴灯護摩

三重の秘境 迷岳

上級コース(★★★)
若林 英郎

山名の由来は定かではないが、『コンサイス山名辞典』(三省堂)にも記載されているように、「山頂一帯が複雑な地形のため迷いやすい」山であることは確かである。それは、地形図にルートがなく、夏期にはブッシュなどで視界もあまり利かないことにもよる。

坂敷から国道116号線を西に向かい飯南町を通り、約1時間で飯高町「道の駅」に到着する。すぐ右前方に突っ「大谷の栗の木」が見える。さらに国道を走り、森地区で高見トンネルへの道と分かれ、左へ曲がり連ダムへ行く道に入る。すぐ越川右岸に香風温泉ホテル「スメール」の立派な建物が見え、この「スメール」の裏手を進

る廣谷川林道を利用する。この林道は現在「スメール」から約3km、標高約5000mの地点まで延びているが、砂利道のため、乗用車の進入はあまりおすすめできない。身仕度を整え出陣。すぐ山道に入り、右下に廣谷川にかかる立派な「二の滝」を望む。やがて、左側からの沢沿いに道はいつたん折れ、この沢を横切りすぐ右に、即ち廣谷本流に沿って杉林の道をトラバース気味に登るが、入り口(杉の木にテープあり)が分かりにくいので気をつけること。沢を横切った所からそのまま左手の沢沿いにも立派な道がついているが、これは植林道でうっかりすると間違っ入りやすいので、地図と羅針盤で入り口をよく確認すること。

かなりの急斜面を登っていくと、右下に「三の滝」が見えてくるが、この流へ下る道は崩壊している。先程の分岐点から30分ほどで古い植林小屋に着く。この辺りで休憩し、地図で現在地を確認しよう。

これより対岸に渡り、テープを頼りに被褥から張り出している支根を登る道はかなり急で、枝打ちされた杉の葉などでルートがわかりにくい。急坂を約20分登った所に炭焼きの跡がある。この辺りから道はますます不明瞭になる。右の沢のほうへ行か

ずに、尾根をシグザグに、赤や黄のテープを認識しながら登っていく。20分ほどでやや平坦部(地形図で等高線が緩んでい



る。ここからも炬燵らず道は不明瞭だが、テープなどを確認しながら登っていくと、やがて頂上から北へ延びる後稜に出る。

この後稜辺りはシクナゲなどの林で展望はよくない。木に小さな標識が一か所付けられている。地形図で見ると独立峰高点1079m地点のすぐ北側にあり、道はいつたん下りとなるが、すぐに急坂となり狭い中をどんどん登っていく。ルート上にはテープがたくさんあり間違っことは無いだろう。やがて急な登りの途中で、布引谷への分岐に到着。この分岐も道標らしきものはなく、赤いテープに小さく書かれているだけなの

で、特に下山の時には気をつけること。さらに急坂を登っていくと、やっと迷岳(1309m)車上に着く。林道の終点から2時間30分かかる時間である。

山頂はわりと広く休座に適しているが、展望はあまり良くない。特に南側はほとんど利かない。北側から北西側は樹林の間からわずかに展望があり、三峰山・高見山・明神平・池小屋山などが、そして背後には大峰の山々を望むことができる。ただ、この展望は木々が落葉した晩秋から冬のみで、春から夏には期待できない。

「道」は飯盛山までずっと尾根伝いで先程登ってきた道をしばらくそのまま下るが、急なので転倒しないように。布引谷への分岐、1079mの地点。そして唐谷への分岐



を過ぎ、ほとんど尾根上を下っていく。樹林の中で展望がよくないが、一か所、930m付近の手前あたりで真正面に三峰山から高見山への接続が美しく望め、また眼下には連ダムが見える。この尾根道で一番展望がいい所なので、ぜひ休憩しよう。

930m地点と思われる地点で、道は左斜面を一段下るようになる。まっすぐに降りて行く道にはテープでとうぜんぼしてあり、この先は急な坂となっているので間違えないように注意すること。

ここからの下りは本当に急坂で、しかも悪路で、非常に危険だ。やがていったん鞍部に着き、少し登ると飯盛山だ。

地図上の標高809mと思われる地点で、松原高校WV部などの「三の標識」が木にかけられているが、数字がいずれも930mとなっているのはなぜだろう。この飯盛山の位置は昭文社の地図の出版のガイドブックではいずれも930m地点となっているが、標高はこの標識を見上げてでも地元の人に聞いたことから、実際は809mの地点ではないかと想われる。

飯盛山からの急な下りもすべり悪路だ。10分余りで、尾根の途中から右(真北)に大きく曲がり、植林された杉林の中を一気

に下る。一か所トラロープが張ってある。膝がしんどくなってくる頃、やっと唐谷川沿いの平坦道に着き、それから数分で林道に合流する。送帰から3時間ほどの下りだが、このコースを登るとなる約5時間はかかるだろう。水筒はなく、よほど体方に自信のある人以外にはすすめられない。

なお、下山後には前述した「スメール」で汗を流して帰るといいだろう。入浴だけなら1人700円である(平成7年12月発表)。

飯高町に位置する山々はいずれも標高が深く、ルートによっては道が不明瞭で時間もかかり、それなりのルートファインディングも要求される。それだけに人も少なく、静かな味わいのある山行ができるだろう。ブッシュの茂る夏は避けて、春先か秋から初冬にかけてがよいと思われる。

(平成7年12月歩)

- ▲コースタイム▼
- スメール(1時間) 林道終点(40分) 植林小屋(1時間) 後稜(1時間) 迷岳(2時間) 飯盛山(1時間) スメール
- △地形図▽2万五千7七日市
- 5万1高見山
- 昭文社『57大台ヶ原・大杉谷・高見山』

特選コースガイド④

若狭

2等三角点のある山

高岳と天王山・五老岳

初級コース(★)
山形 成之



港で、背後の高岳の山頂には白い灯台が見える。今から30年程前、子どもたちを海水浴に連れて来た時にはひなびた漁村だったが、今では派手な民宿村に変わっていた。夏には賑わう村も、晩秋の今は一人として観光客の姿を見ない。海岸の古い駐車場にも昔人の姿はなく、勝手に車を駐めておく。村人は獲物のハゲの干物作りで忙しそうだ。

り、リスが姿を見せる。ひと登りで峠に出ると、左に尾根を辿ると白い灯台が現れた。2等三角点(2599.1m)は灯台の手前の高台に設置されている。展望は素晴らしい。渡る物は一つない。西に海を隔てて久須夜ヶ岳が、遙かに青葉山の姿も望まれた。

高岳(山形町)



三方五湖から、若狭湾に突出する常神岬の先端の常神村にあり、山頂には灯台が設置されている。

梅丈岳のレインボーラインの下をくぐり、海岸沿いの曲がりくねった道を進む。海を隔てて久須夜ヶ岳(1等三角点)が美しい姿を見せている。30分ばかり車を走らせると、岬の先端の常神集落に到着する。小さな湾に沿った漁

漁者々の家の間に案内板があり、常神名物の大蘇鉄への入り口が灯台への道になっている。狭い民道の間を抜けると、最後の家の前に灯台への矢印があり、その家の裏から登山道になる。道は山の側面を登って沢を高巻き、砂防堤から左の尾根へと登って行く。ここでは高岳と言うより、灯台の道となっている。

そんなに奥深い山でもないのに、猿が走



天王山(山形町)

JR小浜線の美浜駅を過ぎ、国道27号線を数賀方面に走る。国道が海岸線に出た所が坂尻の集落だが、この坂尻の入り口の交差点手前から左の林道に入る。新しい道がトンネルで合流して少しわかりにくい。左手の橋へと登って行く。車一台がやっと通れる狭い道で、JRのトンネルの上になる。そ

の少し先で林道はゲートに閉ざされる。地図では山頂下のアンテナまで車道が延びているが、アンテナ専用道で一般の車は入れない。駐車場がないので、JRのトンネル上まで戻って陸道の車止めの所に駐車する。

ゲートの左に木製の鳥居が見える。ここから登山道になる。神社の参道で、地形図にも記載されているよい道である。車道を歩いて、登山道と二度交差している。上の交差から登山道にとりつければ簡単に頂上神社に着ける。



天王山の神社(天王宮廣嶺神社)

神社は一坪くらいの社で、「天王宮廣嶺神社」とい、鳥居や灯籠もある。林の中で展望はない。2等三角点(2599.1m)は神社の右横から裏の灌木帯に入



五老岳(山形町)

舞鶴市の五老岳(2599.1m)は公園になっていて、車で簡単に登れる。山頂にはアンテナがあり、確保のホールまである。広い駐車場とトイレがあり、高い展望台が立つ素晴らしいテラス

私に到着した時、夕日は沈み、丹後半島から大江山あたりが夕陽に霞んでいた。背後には青葉山が佇み、何人ものカメラマン

が三脚を据えていた。次々とアベックが車でやってくる。まるで朝庭のような景色である。

山頂部は広いテラスになっていて三角点が見えない。展望台の係の人に尋ねると、展望台の出口から10分くらい先の所にあるマンホールの中のこと。時々測量関係の人が探しに来ると言う。展望台は有料で、夜の8時頃まで営業していた。

行ってみると、四角いマンホールの蓋に点字や緯度・経度が記され、蓋を開けると標石の頭が見えたが、側面は土に埋もれて文字は読めなかった。車で簡単に登れ、展望も素晴らしい山である。

山頂駐車場(1分)三角点
△地形図▽20万〇宮津 2万5千〇西舞鶴



特選コースガイド

白山

静謐の

猿ヶ馬場山

上級コース (★★★★)
園田 秀徳

新ハイキング社刊『日本300名山ガイド(西日本編)』には150山が記載され、上級向きの五山のなかで、合掌造りの里、白川村に近い猿ヶ馬場山は毛勝山や笈ヶ岳と同様に登山道のない奥深い峻山として紹介されている。そのためにこの山は登山時期が残雪期に限られる。

久しく憧れの山であったが、今回、山仲間の人村氏との同行が実現した。ゴール登山ウィークの頭が最速と思われたが、車で天生峠までアプローチできることを期待して、5月下旬の山行となった。

5月26日深夜、奈良の自宅を出発し名神高速で大加へ。国道21号線を経由して156号線に入り長良川に沿って北上する。途

中、美濃白馬付近のドライブインの駐車場にて車中で仮眠した。

翌日、明け方出発し、猿ヶ野高原を過ぎる頃は深い霧が立ちこめていたが、御母衣湖畔のあたりで晴れ上がり、白い衣をまとった山々が朝日に光っている。合掌造りの遺山家を過ぎ、坂町で360号線に入りしばらく上った所にゲートがある。6月まで閉鎖と表示されていたが、地元の人や渓流釣りの人が入っていたためか、幸運にもゲート内に入った。

途中、溪流釣りの車を何台かやり過し、いくつかの流を見ながら高度を稼ぐうちに展望が開け、庄川の対岸に白山の峰々とスーパールンドを望むことができた。やがて到着した標高1300mの天生峠は広場になっていて駐車できた。しゃれた三角屋根の小屋もあった。

広場の斜面には、フキノトウが姿を見せ、一角には水溜りのホースから勢いある水がほとばしっている。軽い食事をとり身仕度をする。相前後して到着した車の中は、補遺を持って奥道沿いに車を求めて行った。

高みにある展望小屋の所で車道と分かれて天生温泉への道に入る。匠屋敷への表示に導かれて行くと、いきなりタムシバの白

初穂山山頂から猿ヶ馬場山を望む



い花弁が抜けるような青い空をバックに我々を迎えてくれた。感雪が現れ、雪解け水の流れる池淵が見えてくると、そこは天生の高層湿原である。

ミズバショウ・リュウキンカ・ゼンセンウが一面に咲いている。水道がないので踏みつけられないようにと歩くのに苦労する。中央に柱のある池を半周し、下におり、小川を横切って天生溪谷に入る。ここも花が豊

富でエンレイソウ・ショウジョウバカマ・キクザキイチゲなどが姿を見せている。

雪渓は急坂となり、クレバスの多く、雪の薄い所を踏み抜かぬよう注意しながらひたすら進む。途中、沢が右側に分岐していたが、そのまま直進することにして、ここで軽い食事をした。



沢をつき上げたあたりから雪が溶えて霧がひどくなった。ひとしきり格闘した後、ひょっこりと飛び出した小さな広場が別荘山の頂上であった。

表札のように横書きに山名を彫りこんだ標識が三角点の上にと置かれているだけの静かな空間である。熊笹がまばらに生えているだけで周囲は開けている。北には人形山が望め、東の足下にはブナの原生林が広がっている。西側には谷を隔ててめざす猿ヶ馬場山が手の届きそうな近さに見える。その頂上に重層状のゆるやかで長いなめらかな曲線を描き、びっしりとついた雪の上に

針葉樹が頭を突き出している。頂上に至る稜線は、複雑な曲線を描きながら左に大きく迂回している。

初穂山の頂上を後にして稜線を忠実に辿る。始めのうちこそ跡跡が残っていたが、やがてびっしりと生えたネマガリタケの強烈な酸に悩まされることになった。全身で滑り続けるうちに時間がどんどん過ぎていく。稜線の左側斜面は雪が溶えて草が露出し、急峻に切れ落ちている危険なので、18-18号線の手前から右側の雪のついた斜面を下り、トラバースする所を探したり、稜線に登り感しながら進む。

途中コマドリなど多くの鳥に出会った。キジが数羽の近さに現れたかと思っても、いきなり鋭い鳴き声と大きな羽音を発して姿を消したのには驚かされた。

とんぼの本

最新刊 / 定価1500円

関西周辺山と地酒の旅

坂倉登喜子 / 小川清美

低山ハイキングを楽しんだあと、その土地の酒造をめぐり地酒を求め、その土地の料理を肴に一杯やる——これこそ山旅の醍醐味ではないか！ 京都・愛宕山、神戸・六甲山、奈良・二上山、和歌山・高野三山など魅力の19コースを、八十五歳の現役登山家が案内。新ハイキングで好評連載中。



新潮社

〒102 東京都千代田区大塚1-11-1
03-3258-5111 ●定価は税込みです



猿ヶ馬場山の山頂にて

山科氏が指した雪の斜面上の直徑10位の半球状の窪みの中に、小まめの鶏卵大のハムスターに似た赤ちゃんと尻をこちらに向けてうすくまっています。取りだして手のひらに載せてもじっとしている。後日、図鑑で確認したところヤマネであることがわかった。

途中の雪の上には鹿のものらしい糞も散見された。このあたりはめったに人が来ない。

い。彼ら動物たちの楽園なのであろう。やっとたどりついた猿ヶ馬場山のピークは雲の隠れて、木の頭を露してすべて雪に埋まっている針葉樹のつべん近くに、山の名を示す標識がとりつけられている。金剛を達成した去近慮に浸りながら握手を交わす。

木立ちの間から西には白山主峰から別山に続く峰々が大きな白い塊で迫り、東には遠く磐梯・東蔵から北アルプスの山々が印象深く浮かんでいる。ふり注ぐ日差しを浴びて静かな時間の流れを感じながら昼食をとる。

5月の末と残雪には少し遅かったせいも、藪薮ざやトラパスに苦慮したので帰路は後線を通らず、谷まで高度差3000m程度ありて、その後約2000mを登り返すことにした。猿ヶ馬場山側の雪の斜面を谷返くましてグリスエドで一気に駆け下り、川幅の狭い地点を見つけて刈岸へ裸足登り返したが、切腹山側は雪が消えて戦の遺跡道となっていた。これが最後かと思ひながら榊原山の頂上に酒注しながら登りついた。そこからは踏み跡をたどり雪の谷を下ると駒迫の沢に合流した。

天生溪谷の雪は朝よりもさらに薄くなり

下を流れる雪解け水の勢いが増しているように思われた。高層運原を経て多くの花に再会しつつ天生峠に降りついた。途中誰とも出会ったことのない静かな山行であった。朝には峠の広場に畑舎が駐車していたが、荷降った後だった。ホースの水で靴の汚れを落とし、強い日差しに火照った顔を洗った。

360号線を下って行くと朝は開いていたゲートが開通され、絶頂までできていたが、幸いにも上ってきた軽自動車の人元が道を開けてくれ、ホッとした。平瀬では公衆温泉につかり汗と疲れを流し、庄川の河原で缶ビールで乾杯した。

多くの幸運に恵まれた今日一日の出来事や、お互いのいろいろな山の思い出話などにひとしきり花を咲かせた後、満ち足りた思いで帰路についた。

(平成7年5月27日歩)

△愛考タイム▽

天生峠7・00―天生溪谷上流地点8・40
9・00―切腹山9・50―10・05―猿ヶ馬場山12・10―12・50―切腹山14・25―14・35―天生峠15・45

△地形図▽を方5千1平瀬 5万1白川村

ネパールトレッキングの旅

ポカラから ジョムソンとムクチナート (第3回)

山形 歳之

(8日) 朝快晴・気温マイナス3度、寒い。女のポーター二人がここから帰ることになる。途中ではカメラを回けると嫌がって顔を隠していたが、数日間行動を共にしたこともあり、最後の別れと、積極的に私達のカメラに収まった。彼女達は歩いて引き返す、何回くらいかかるのだろうか。

ダウラギリがだんだん大きくなる。好ポイントでは何回も立ち止まってカメラを向ける。

道は大きく下ってカリガンダキの支流(Tレコー)を渡り、また1000mくらい登り返す。ここでアンナブルナB・Cへの道と別れて、ニルギルの山ふとじる深く入っていった。

カロパニのチェックポイントでチェックを受けて、テント場で昼食タイムとなる。暖かい陽の光が頬々とふり注ぎ、昼寝にも

ていいだ。ごろりと寝ころんで空を仰ぐと、アンナブルナが大きく迫りニルギルがそれに見え。反対側にはダウラギリとチュクチェが、負けじと立ちはだかっていた。広大な景色を見ながらの昼寝とは何と贅沢なことか。トレッキングのハイライトであった。

カロパニを出発すると、カリガンダキは今までの狭い峡谷から幅1km位の広い石の河原となる。遅かかたの山裾に集落が見える。今日の泊まり場のラジエンダだ。予定ではその先のチュクチェなのだが、ポーターが遅れすぎたので変更したと言う。それなら時間に余裕ができた。シェルパ達はこの河原に沢山あるという化石を探しながら行く。私たちが一緒に化石を探そうと広い河原に散らばる。黒い石を割ると、中からアンモナイトが出てくるそうだ。あちこちから石を割る音が響くが、そう言う

カロパニから見るニルギル(左)とアンナブルナ(右)



あるものではない。一時間はかり全員で探したが、シェルパがそれらしい物一つ見つけただけだった。

ラジエンダの村では適当なテント場が見つからず、茶店の屋根の上にテントを張る。屋根は土で固められテラス状になっていて、普段は農作物の手入れに使われている。階段がなく、一本の木を半分に割ってくり抜いた様子が置かれている。固定されていないのでぐらつき、夜中のトイレ行きには注

敵が必死だ。

店の中には例によって小さな炬のストーブしかない。突然の火勢の客に女主人が喜んでトウモロコシを煎ってくれる。私たちはそれをつまみにビールやリンゴ酒を注文する。ここにはラム酒が見当たらないが、リンゴ酒は結構酔いが回った。

宿の人たちが自分たちの食事を作っている。見てみると、干した羊肉で小さいじゃがいもを煮ている。何やら二、三種の香辛料も入れてうまそう。羊のひものを編んでみる。塩がして結構おいしかった。

うす暗い20ワットの電灯の下で、土間に座り込んだ主人夫婦・老婆・娘・息子と、アルコールの入った私たち。言葉も通じないのに和気あいあいの楽しいひとときを過ごした。

(9日目) 晴・気温マイナスと度、寒い。ダウラガリの大きな雪渓が目の前に見える。あの雪渓からの吹きおろしでは、さぞ寒い風が吹くだろう。

広かった河原も少し狭まり、荒涼とした山裾に石の建築物が見えてきた。大きな建物も混じり石組みの家が並ぶ。ロッジの看板を掲げた家も多い。桃の花が咲き、春の

明後日、あなたたちがムクチナートから帰って来た時には、日本食の夕食を御馳走します」と言っていて帰った。

彼はネパールの日本人仲間では有名な、彼を紹介した本等も見せてくれた。話はなかなか説得力があり、このような日本人もいるのかと感懐深かった。



ムクチナートへの道

(10日目) 快晴・気温0度。ジョムゾンを出発してムクチナートに向かう。カリガンダキを渡って町を外れると、すぐ広い河原に出る。一面石ころの河原は遙かかなたの山裾まで、数々に渡って一望できる。上流に向かって歩く。いったいどこまで行く

近いことを告げていた。ここがもととも泊まる予定だったチェクチュエである。ラム教のマニ車が沢山出てくる。チベットの近くになってきたのか。

次に着いたマルバの村で昼食となる。これも大きな村で石造の道が村を貫いている。所々に水物が作られ、みやげ物屋まである。食事の出来るあいだの時間を待たず、現れていると、何かしら買ってしまうものだ。何もわざわざこんな奥地で買わなくてもカトマンスで間に合う。むしろカトマンスのほうが品数も多くて、良いものが安かったのだ。道程の目測りに照って道行く人を眺める。ロバやヤクの隊商が行く、馬に水を飲ませに来る人、ポリタンクを下げて水を汲む子ども、食器を洗いに来る少女など。その中で一頭の馬を引いた男が日本語で話しかけてきた。何でも富山県の利根村に蕎麦作りの留學をしていたそうだ。モンゴロイド系の人には、日本人と変わらない顔付きなので、最初は日本人かと思った。

ひたすらジョムゾンに向かって歩く。午後になるとカリガンダキは、チェクチュエあたりから猛烈な風が吹き上げてくる。風は砂を巻き上げて白も口も砂だらけ、マスクをしてサンダラスをかけ、息を殺して目をも化右があると、シエルバはあちこち石を換えている。一時間歩いても風量は少しも変わらない。

やっとロッジだけが軒建つムクチナートの登り口に来た。カリガンダキの周囲の山々は一木一草もなく、赤茶けた荒涼たる姿をしている。ここからさらにカリガンダキ治いに進むと秘境ムスタン王国に行く。行き交うトレッカーが案外多く、皆ひと休みして行く。ここ以外炊事できる所はないので、と早めの昼食タイムとなる。

カリガンダキの上流には雪の高山は見当たらず、青い空が広がっている。ヒマラヤ山脈の裏側に来ている、その先はチベット高原である。ムクチナートに延びるカリガンダキの支流は、深か数百呎の谷底に小さく流れている。一つの尾根を回り込むと、谷の奥に雪の山々が、行く手を塞ぐように立っていた。その山の中腹に、何か所かの村が見える。「ムクチナートが見える」シエルバが指差す。今回のトレッキングの最終目的地だ。

山裾に延びる道は狭く、見えている村にはなかなか近づかない。少し大きな村に到着する。ムクチナートかと思ったら道標はさらに奥を示していた。ムクチナートへは

纏めてただひたすら歩く。谷の間を飛行機が飛びかう。ゴラベニ車をおりるあたりから機影をよく見かけたが、ジョムソン便は天候不良で欠航することが多い。今のところは天候が安定していて心配ないとのことである。

前方の河原に飛行機が見えてきた。ジョムソン到着だ。思ったより早く着いた。それ程大きな町とも思えないが、幾つもの比較的立派なロッジや、航空会社の事務所が看板をあげていた。

何やら日の丸を描いた建築物の前の、ロッジの要領がテント場になる。周囲が建築物に囲まれているので風が当たらずによい。いつもの通り寒いので、ホールに集まってビールを飲むことから始まる。ラム酒を売ってから夕食を待つ。外は寒いし町には見るべき物とてないので、飲んで話しているより仕方がない。

食後、一人の日本人がたぐさんのりんごをさげてやって来た。近隣でりんごとりんごの新発見出身の農業技術で、ネパールの発展のため現地の若者に農業技術を教えている」と言う。「ここには全く日本人はいず、今の時期はトレッカーも来ない。日本人の団体が来たと言っているので訪ねて来た。

ここからまだ3000呎の登りが待っている。最後の1時間は本当に苦しかった。サーゲーのバキは「トレッキング最後の登りですよ」と笑ってはいいたのだが。

3800呎の高所にあるムクチナートは30呎ばかりのロッジの村だ。疲れた私たちを最初に迎えてくれたのは、みやげ物屋の娘の赤り込みであった。ここムクチナートはヒンズー教とラム教の聖地で、訪れる人の多い観光名所である。宿舎のロッジの屋根の上にテントが張られる。夕食までの間にさらに1000呎ばかり登ったヒンズー教のお寺の見学に行く。寺奥に出てきて私たちの額に赤い印をつける。異教徒の私には、それがヒンズー教で、それがラム教のものか判らないが、石の塔やマニ車が見え、公園のようになっていた。ここは聖火として天然ガスが絶えず燃やされているので有名だが、鍵のかかったお堂の中に、ともしびのような小さい火がともっていただけである。

夕食に始めて羊肉が出る。焼めし・キャベツサラダ・スープとまだ食欲は旺盛だ。3800呎は今回の最高所で、周囲にはまだ残雪がいっぱいあった。今まで一番寒い夜だった。

(11日) 寒い。グウラギリからチュクチュク山々に朝日が映える。雪の山は最初ピンクに染まり、みるみるうちに金色になり、今度はぎんぎんに輝いてまぶしく光る。カメラをセットしている間にとんとんと変わっていく。グウラギリはすでに猛烈な雪煙を上げていた。

朝食を食べている前にもみやげ物屋が店を広げる。どこでも蛍光には熱心だ。

今日は最後のトレッキング。昨日歩いた道だし下りでもあり、ルンルン気分です。下山にかかる。マナスル一周の道も冬は雪の下で通れないので、今はムクチナートで行き止まり。外国人トレッカーもここまで下り下りにはカクベニの村を回って行く。ここはムスタン王国の入り口で、秘境に行くにはまた何日もトレックが必要である。

昨日昼食をとった河原のロッジで食事をす。後は河原の平地をジョムソン目指すだけだ。ところが午後のカリガンダキは猛烈な風が吹き上げてくる。人々はマスク・サングラス・首にタオルを巻き、頭からすっぽりアンラックを被って砂嵐に立ち向かう。風速10メートルもあるのか、体がふらふらと振り回される。川口豊海が荒涼たる道をチベットに向かった時のことが想像さ

ルパホテルで、10日ぶりにシャワーを浴びると、現代に帰ってきた思いであった。夕食は中華料理で、近藤氏の日本食もいしかったが、久しぶりの料理らしい食事でありついた。

(13日) 今日はフライトの準備日。一日フリータイム。希訪者四人でヒマラヤの展望台ナガルコットの丘に行く。日の出を見るため真暗なうちにホテルを出て、カトマンズの東34キロ、2400メートルの丘に登る。白人経営のレストランがあり、紅茶を飲みながら日の出を待つ。ここからはアンナプルナを始めマナスル・ヒマルチネリからエベレストと雪の山々が一望である。

赤く朝日が当たると、次々と山々が目覚める。さすがヒマラヤ、その素晴らしい景色に舌を巻く。さらに奥の軍隊の駐留する栗山に、ガイドが特別に通れさせてくれる。ここは先程の展望台より高くて展望が良い。ただただ見るばかり。しかし拡大すると、一つ一つの山を眺めるには双眼鏡が必要だし、カメラは望遠レンズがいる。又観光客はエベレストがお目当てだが、これはもう全く豆粒大で、ただ見たというだけだ。もう一つの展望台のカカニの

れる。本当に地の涯をさまよっているようで、ただ下を向いて黙々と歩いた長い二時間であった。

ジョムソンに帰ると、先日の約束通り近藤氏の夕食に招かれた。

野菜のてんぷら・肉の煮付け・漬物・味噌汁・御飯を御馳走になる。久しぶりの日本食で大変おいしかったが、味噌汁は味が薄い。日本にも行ったことのあるネパールの娘さんが作るという。部屋には衛星放送のテレビがあり、戸棚には日本のラーメンや食品の名が見える。近藤氏はまだまだ探検がとれないので、あと10年は頑張るつもりと、いろいろな苦心心話を話された。ジョムソンは飛行場もあり、カトマンズから一時間位で来れる所ではあるが、家族と離れて、ネパールの奥地の仕事は御苦勞なことである。

今日はトレッキング最後の日。シェルパたちともお別れだ。大きなケーキを作って、歌と踊りで歓待してくれた。しかし寒いので昼間の疲れで、本日は早くテントに入りたかった。

(12日) ジョムソンの空港で感傷的なディチェック。こんな旧舎でいたい何を検査

丘は、夕日の沈む時が良いとの話である。

カトマンズ郊外のバタンに行く。王宮跡や古い寺院があり大勢の人たちでこったがえしている。沢山のみやげ物屋もあるが、水場が水浴や洗濯する人たちやお寺にお参りする人々など、現地の人々の生活に目を引かれた。有名な巨王寺でも熱心にお参りする信者の姿が目についた。

午後ひとりで市内をぶらつく。露店でネパールの地図を一枚買求める。150ルピーだった。ところが100ルピーで売られているに今度は同じものが50ルピーで売られていた。インド式商法はとてめ破れる。いたい幾らが正当な値段なのか、どこまで値切ればよいか全く測れないし、日本人にはとても値切りきれない。

日本人の娘にネパール人と間違っって声をかけられる。それはど日に焼けたとは思っていなかったが、鏡を見ると日に焼けた顔はネパール人そっくりになっていた。

(14日) 長かったネパールともお別れである。パンコクは近代的な大都会で、同時に現代にタイムスリップした感じである。南国は暑い日中より夜の方が暖やかで、人も車も大混雑。市内でおいしい中華料理を

しているだろう。カリガンダキは10時を過ぎると風が吹きます。時計を見てみると本日に10時を過ぎると計ったように風が吹きだした。それが数分もしないうちに5、6メートルの風となる。余り強くなると飛行機が欠航するの心配だ。例のごとくカトマンズが霧だつたらしく一時間待たされて到着した。テントやコンロ等を積み込み、キッチンのリーダーが一人私達と乗り込んだ。すぐ次の仕事のカトマンズであると言う。りんごの袋が沢山積み込まれる。ここはりんごの産地らしい。近藤氏の指導のためものだろうか。1人で満席の飛行機でも、美人のステューワーデスを乗せていた。

機は軽々と舞い上がるとカリガンダキの川沿いに南下する。周囲の山のほうが遥かに高い。左舷側に座った私は、ニルギルを何枚もカメラに収めた。何日もかかってトレックしたゴラパニ峠を十数分で飛び越えて行く。雲が多くてヒマラヤの山々ははっきりと眺められなかったが、わずかにアンナプルナ・マナスル・ガネッシュヒマールの山々が見えた。ネパールの国内便はヒマラヤの遊覧コースでもある。

わずか40分の飛行でカトマンズに着く。何日もトレッキングがウソのようだった。シュ

食べて、最後の夜を過ごした。

(15日) 午前5時発の大阪行きは、遅れに遅れて午後1時やっとパンコクを飛び立った。朝早くから起こされて空港に来た私たちは待ちくたびていた。

6時間の飛行で大阪に着く。空港にはこれからパンコクに向かう人々も疲れた顔をしていた。こうして私の最後の機会とも思えるネパールトレッキングは終わった。

(平成6年2月)

近畿の山		七賢出版	
東海自然歩道	30巻	【関西版】	1,400円
京阪神	さわやかハイキング	ハイキング	1,400円
京阪神	ベストハイキング	深谷を	1,500円
京阪神	花の山	旅	500円
京阪神	ベストハイキング	キヤン	1,500円
京阪神	ベストハイキング	六甲	1,500円
近畿の山	グレード	別冊	1,500円

〒530 大阪市北区西天海4-15-10 フェニックスビル2F
☎ 06-245-6333 兼 06-245-1122

国博社(飯多山)東、北朝よ
り市バスで10時(コース) 渡田
神社(上野) 豊島区山手
町山手台(アゴニー) 表
市立自然の家(国池) 丁字(江) 磯
六甲ヶ浦(山) 山手台(山)
参加自由、要領御発部06
(973) 53226

京阪

▽比良連発アタック「観音ヶ峰・
入部谷」5月12日(雨)中止
共集合11時(コース) 時分(コ
▽近江高野(ハス) 堀ノ木
フクナ 滝谷の頭 蛇谷ヶ峰 堀
本スキー場(入部谷) 朽木せ
前(ハス) J&R安曇(約9.5
健脚向) 参加自由、京阪電鉄事
業部06(944) 25226

▽比良連発アタック「御釜山・武
奈ヶ岳」6月16日(雨)中止集
合J&R安曇 時分(コース)
▽御釜山(ハス) 坊村一朗七
本松(御釜山) ワナビ峠(西)
武奈ヶ岳(丸) プルキのこバ
ヶ原(山) 上(コ) プルキ
△山(ハス) J&R比良
(約6.5) 健脚向) 参加自由、
京阪電鉄事業部06(944) 2
5226

神戸電鉄

▽新緑の中の巨岩を行く「百丈岩
と三石の滝」 5月3日
集合 池田10時10分(コ
二部 平山配水(磯) 磯
百丈岩(山) 三石の滝
(約12.5) 一般向) 神鉄観光事業部
078(621) 0321

▽豊か自然のハイキング「三木
山森林公園と大宮八幡宮」
5月26日(雨)中止上の丸集10時
35分(コース) 三木上の丸集上
の丸公(雲) 大宮八幡宮
三木山森林公園 志願(約5.5)
家族向) 神鉄観光事業部078
(521) 0321

▽緑の静寂を歩く「赤松山
と月生山」 6月9日(雨)集
合池田10時10分(コース) 池那
山一丹生山(市) 月生山(市) 神
(約12.5) 健脚向) 神鉄観光事業部
078(621) 0321

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「浜の道・浜の
滝」 5月19日(雨)中止集
合池田10時10分(コース) 池那
山(市) 月生山(市) 月生山(市)
神(約12.5) 健脚向) 神鉄観光事業部
078(621) 0321

住持社(東) 東山(山)
12(東) 山陽電鉄
係078(941) 69155
▽山陽ハイキング「遺跡と花の
名所」 5月26日(雨)集
合池田10時10分(コ
舞子(大) 大蔵(山)
(約9.5) 家族向) 山陽電車ハイ
キング係078(941) 69155

▽山陽ハイキング「海岸と時の道
ハイイク」 6月9日(雨)16日(雨)
集合池田10時10分(コ
30分(コース) 大蔵山
台(山) 神(山) 神(山)
本(山) 月(山) 文化(山)
明(山) 明(山) 山(山)
車(山) 山(山) 山(山)

▽山陽ハイキング「福岡・松めぐ
りハイイク」 6月23日(雨)集
合池田10時10分(コ
系(な) 山(山) 山(山)
系(な) 山(山) 山(山)

叡山電鉄

▽第3回系蔵グループレレーハイ
キング「曹船・三ノ瀬」 5月25日(雨)中止
山(市) 山(市) 山(市)
夜(山) 夜(山) 夜(山)
山(市) 山(市) 山(市)

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「花の海池
5月10日(雨)中止集合池田10時
三岐線ホーム9時(コース) 宮
田(山) 西(山) 西(山)
池(山) 池(山) 池(山)

叡山電鉄

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の道々
岳」 5月19日(雨)中止集
合池田10時10分(コ
宇(山) 宇(山) 宇(山)
宇(山) 宇(山) 宇(山)

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「緑の坂本各
ヶ原」 6月2日(雨)中止
山(山) 山(山) 山(山)
山(山) 山(山) 山(山)

休憩所、食事も歓迎
10名以上マイクバスで送迎
箱根は原温泉 箱根 山 館

〒2550166 箱根湯本温泉 電話 04601419041	〒390116 長野県下諏訪温泉 電話 02691333555	〒390116 長野県下諏訪温泉 電話 02691333555	〒390116 長野県下諏訪温泉 電話 02691333555
さわやか信州 箱根湯本温泉	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング
日野屋旅館	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング
湯島温泉(雑談)	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング
高峰温泉	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング

日本最高位の湯火2400°C
山陽電車ハイキング

みくりが池温泉 電話 0764151831	ハイキングにノスキーに バス 熊の湯温泉 電話 02691333555	箱根湯本温泉 電話 04601419041	山陽電車ハイキング 電話 02691333555
山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング
山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング
山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング	山陽電車ハイキング

せせらび

題字・小林波瑛三

三國氏、日本各藩にこの名前の山は多くあり、鈴鹿山脈にも北に南にありませう。北の三國氏は坂本・三重・滋賀の山境にある標高9000以上の山です。昔は登山道が河本もあつたようですが、現在利用されているのは坂本集の「三石津町」時山から入る高嶺谷コース一つです。

この谷は四季折々に美しめる谷ですが、熊雨時は「ヒル谷」よまっています。昨年6月、ヤマヒルの集中攻撃に遭って入り口で引き返さざるを得ませんでした。

三國氏から東の鳥刺士位に延びる高嶺谷には河津1崩と80坪のブナの大木が見られます。阿蘇谷左岸の尾根の590坪地点には池もあります。また谷の上流部に

は「タイラ」と呼ばれるわりと平らな丘陵があつて美しい姿を見せてくれています。

支流のワサビ谷上流部には昔々「ガン」があつて穴穴掘をしていたようです。今は掘り跡も自然の谷になってはいますが、その跡らしきを見ることが出来ます。西尾氏の「鈴鹿の山と谷」には、この山から流石を運んだツリ道があつたとの記載があります。

昨年「坂の实地調査を行い、現在の登山道の跡跡近くから」に渡つて続く山の道が確認でき、これがたぶんツリ道であつたと思われれます。タイラを遡る部分が最もはっきりとしており、幅も広いのが分かりました。前述の池の先で道は消えています。鳥刺士ヶ

ブルを脱ぎ下下に蛇石をおろしたと、説話を聞かされた時山の古者から知人が訓きました。

山中の道無き道でこのような立派な石の工事道を負つければ、そこで働いていた人々の息吹までが感じられるようです。

(山田 明彦)

山に登るのも好きだが、家で山の本を読むことも楽しむのひひひ。

2月16日の辰から、三郎山に行こうとして雨まで行つた。まだ風が冷たくて山の景色だけ見えて帰ってきた。

家に知ると早急、深田久弥の『山の文学大叢書の第一巻』、『わが山々』を読んだ。山が好きなのに文庫はすぐわかる。山が好きでいつも山を歩いている人の文章は、行間ですぐにわかっていくのである。

ある年配の登山者は、この世のものとは思えない山の美しさ、風景に出会って、「もう少しでこのような景色を知らずにあの世に旅立つことになる」という。

山は不思議な魅力を持っている。

(武田 昭)

二ヶ月ハインク・山行報告

4日「やま」と地形図の会(例会) 1.三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

11日「四西地図の会(例会) 1.三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

14日 伏見公民館主催「霧氷ンデー」高見山」案内。参加者。

16日「点のつどい」例会。三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

20日 三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

20日「三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

20日「三三三三(2万5千1番野) 案内。参加者。

(上田 幸也)

<p>春・秋 小ケルン 白馬の自然案内します 白馬ツツミリペンション 和 田 森 〒399-023 長野県北安曇郡 白馬村八方和野 0286-72-5355-1</p>	<p>登山経験者のオーナーが安心し 針の木市 雨降山、火打山など へご案内します。 テントキーパー 1泊2食付き 6500円から 〒399-0193 長野県北安曇郡白馬村おちの 0286-72-2151</p>	<p>八ヶ岳西北麓走の中心地 1999年秋新築完成旅館 木の香りの新築温泉旅館 オーレン小 屋 1泊2食付き 6000円 4月末・11月定期設 〒399-0100 長野県北安曇郡白馬村 0286-72-1279</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大峯 山(百鬼山)の登山 バリエーションあり 温泉・名木の里 旅館 紀の国屋 甚八 1泊2食付き 7000円から 〒399-0104 長野県北安曇郡白馬村 0286-72-1279</p>
--	---	---	---

12月16日、茨城県東の男体山の登山道に「坂田の池」へ立ち寄る。

観光地化されたトンネルを通過して腹巻台に行くには少々つかひするが、それでも静水した純白の彫刻群を眺めて涼しく澄下する瀑布を仰ぎ見れば、そんな気分はふつとんでしまふ。

この池は高さ120坪・幅73坪の岩盤を四段にあって流れ落ちるので、別名「四段の池」とも呼ばれている。

かつて修行法師が池を訪れ
花紅葉よこたてにして山泉の
流線りなす坂田の池

とをその美しさを保った水溜りでもある。法師は「この池は春夏秋冬に一度ずつ来て見なければ大空のまきは味われない」と春夏秋冬の季節にも流を前に来たので「四段の池」の名が定まったと語っている。

西行法師が行脚途中久慈川支流の奥に分け入り、辺りを彩る紅葉や鮮やかな草花を眺めさせて暮くこの大塚山を、そんな気持ちで目にしたのだろうか。そんなことを思ひながら見るのも深々、四季を映して流れる池には、尽きぬことのない水溜りの美しさを保つて、池は巧みな自然美の中で見ることが

い。

なお日本三大名瀑としての「那智の滝」や「平泉の滝」に並んで「坂田の池」がこのひとつに数えられることは意外と知られていないが、その特徴ある美しさから1999年には日本の滝百選に選ばれ、人気投票では一位を獲得している。

(霧生 功)

以前に丸鉢居に登つた時、海が十数割閉れて行進しているシーンに出会いました。地元の人の話によると、嵐分を凌ぎ過ぎて移動しているところだそうです。そして人間の体質も嵐分を凌ぎ過ぎて見えない、せつやく土の中に埋めて見えなくしているタイムマシンも嵐分を凌ぎ

こしているのではと……。

小さなナイロン袋一枚をポケットに入れておけば大丈夫です。使ったティッシュは必ず持ち帰りましょう。

(上村 操)

<p>九州の最高峰・日本百名山 宮沢の部に一番近い宿 嵐久屋温泉登山口 嵐久屋グリーンホテル 〒905-0103 0286-72-1279</p>	<p>ハインク・キャンピング 鈴鹿園地公園 朝明渓谷 あさけ茶屋 TEL 0286-72-1279 〒399-0103 0286-72-1279</p>	<p>会 員 募 集 募集は、日・祝日の余暇を利用して、修行やハインクなどを通じての公園園の建設を目的にしたグループであり、活動を開始しては年日になりました。無理せずのんびりとアウトドアを楽しんであります。会について知りたい方、又入会希望者は電話下さい。年齢・性別は問いません。 〒399-0103 長野県白馬市丸鉢町1のちの7 寺山英男まで</p>
---	--	---

山行計画

新ハイキングクラブ 特別

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに指定するように入力してください。費用のほかに参加費として他の資料代金を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料(日額50円、夜行日帰りの場合には2日になり100円)を支払っていただきます。(A-I保険会社と提携)

死亡・後遺障害引当金 1000万円
入会保険金 5000円
退会保険金 2500円

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行申込み書

山行名
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

鈴鹿を歩く
小太郎谷から御所平・仙阿岳 (一般向き)
期日 5月12日(日) 日帰り
集合 豊原東落8時30分
コース 豊原一田村谷林道一小太郎谷一本橋一御所平一ヨコネ一仙阿岳(往復)
費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「145回在野・鎌ヶ岳」
係 岩野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0101 堺市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*マイカー山行に際しては、保険料を申しながら、車とカヤックが広がり、ミッドレンジが吹き乱れる御所平の稜線を歩く。若干やぶあり(25号・46ページ参照)。雨天中止

山行計画の実施について
当会の山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますのて、実施日の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もってバスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、山行申込みハガキに記載すべき事項は必ず全てご記入下さい。
申し込みの返信は案内の曜日が決まり次第、遅くとも10日前までにいたします。早くから申し込みの方はしばらくお待ち下さい。定員のある計画は先着順(抽選の場合もあり)で受付しています。山行計画欄に記載してあるスケジュールは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。
(初級回)どなたでも受けれます
(2級回)ハイキングの基礎コース(中級回)かなり経験のあるコース(やや難回) (難回)は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

費用 保険代50円(交通費は各自)
地図 昭文社「56大峰山脈」
係 堀本 勇作 ○斎藤清之
申込み 〒5445 大阪府鶴野区西田辺町1の17 堀本まで
雨天中止

新ハイ特別企画
大括嶽山植物探訪の旅 (一般・健健向き)
期日 7月13日(日) 2日
コース 成田→上海→成都
(2日) 臥龍(2日) 日隆(2日) 老牛園子(3泊) 大括嶽山及び高山植物観察→巨壁
費用 約31万円
申込み 〒330 大宮市宮原町4の10-1 高野生蔵(係)へ
申し込み者は後日詳細を連絡します。老牛園子では大括嶽山(6000m)登山(2日)と植物観察グループ(一般)に別れます。申込み時に登山か花観察かを明記して下さい。

京都北山歩き40
 魚谷山から二ノ瀬ユリ道
 (一般向き)

期日 5月19日(日) 日帰り
 集合 京都地下鉄北大路駅遊覧
 銀行前集合 30分
 コース 北山(錦町)→(タクシー)相
 父谷林道→錦峰→魚谷山
 →錦峰寺→滝谷峠→二ノ
 瀬ユリ→二ノ瀬駅(電停)
 出町驛駅
 費用 約2000円(タクシー
 代)保険代50円
 地図 昭文社「竹屋敷北山上」
 ◎中西河行 ○別定保安
 申込み 千原10の10 城陽市寺
 田大群10の10 新ハイキ
 ング関西まで
 最も北山らしい猿蓑を魚谷山
 へ。二ノ瀬ユリ道は歩きやすい。
 小雨決行

立舟大ワシゲル小屋→雲
 取山→雲取峠→ハタカリ
 峠→北尾根(団体コース)
 →ト黒田(バス) 出町驛駅
 費用 約3000円(バス代)
 保険代50円
 地図 昭文社「竹屋敷北山上」
 ◎比良橋
 ◎村三智俊 ○比良橋
 〒610-0100 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 新緑の雲取山へ。下山は雲取峠
 からアップダウンの団体コースを
 下る。小雨決行

申込み 〒580 松原市岡2の2
 の22 松水まで
 大楠公の千早城から金剛山に登
 り、水鏡野を経てワジの雲取山
 頂へ至る。北紀行(水鏡野・ベジ
 との野・52ページ参照)。雨天中止
 鈴鹿を歩く6
 イブネ・熊子・ダイショウ
 (能通向き)
 期日 5月26日(日) 日帰り
 集合 フジキリ谷の円林道入口
 8時30分
 コース フジキリ谷(徒歩)→千早城→
 北谷→佐日峠→イブネ→
 熊子→アケビ→ダイショウ→
 ショウワ→899→ヒビク→
 アケビ峠→フジキリ谷
 林道
 費用 保険代50円(交通費各自)
 地図 昭文社「45御在所・錦
 山」
 ◎岩野 明 ○山本久雄
 〒610-0100 城陽市寺
 田大群10の10 新ハイキ
 ング関西まで
 *マイカー山行に振る
 鈴鹿の秘湯・佐日小谷の親頭、
 忘れられた佐日峠から世の海のイ
 ブネ・熊子をしてダイショウと秘

会員募集「尾瀬の会」
 ①白い尾瀬を歩く
 (旅費) 5月2日・6日
 2日/大阪・京都夜発(夜行
 バス) 5日/大清水・尾瀬小
 屋泊 4日/沼原・見晴湯四
 郎小屋泊 5日/山の鼻・鳩
 待峠(バス) 戸倉ホテル王城
 温泉 6日/浅間温泉(夜行
 バス) 京都・大阪へ
 (会費) 5000、8000円
 (入会金5000円含む)
 ②ミスパシオウを訪ねて
 (旅費) 6月7日・11日
 7日/大阪・京都夜発(夜行
 バス) 8日/鳩待峠・見晴
 湯 9日/尾瀬沼
 泊 10日/三笠峠・大清水
 泊 11日/浅間温泉(夜行バス)
 京都・大阪へ
 (会費) 6000、8000円
 (入会金5000円含む)
 (申し込み・問い合わせ)
 「尾瀬の会」 松下 鶴まで
 07204(43) 28770

駒を歩く(22号・54ページ参照)。
 雨天中止

言野・ドウツク山から言野岳
 (一般向き)
 期日 5月26日(日) 日帰り
 集合 近鉄ト山口駅9時30分
 コース 下山口駅(タクシー)清
 水 地蔵峠 鷹嶺寺→直
 目峠→西行庵→首領ヶ崎
 →晴路の滝→大滝(バス)
 大和上野駅
 費用 保険代50円(交通費各自)
 地図 昭文社「56大峰山脈」
 ◎橋本勇作
 〒545 大阪市阿倍野区
 西田辺町1の1の7
 橋本まで
 期日 5月15日(日) 雨天中止とな
 ったコースです。雨天を期待して再
 計画しました。雨天中止
 関西山脈の古道を歩く2
 生駒山・備前山 (一般向き)
 (小さな旅の会会員)
 期日 5月26日(日) 日帰り
 集合 近鉄大塚原高安駅9時30
 分
 コース 高安駅→鞍馬寺→南阿蘇社

高安山ハイキング遊覧登
 り口→奥谷道→信貴山公園
 雲霧→辻堂→朝霧寺→寺
 →二本松遊道→信貴山下
 駅(解散)
 集合 保険代50円・寄附代10
 0円
 地図 2万5千円(信貴山)
 ◎寺山英男 ○村田智彦
 〒610-0100 城陽市寺
 田大群10の10 村田まで
 定員50名
 鶴岡寺から信貴山別荘跡(寺に
 至る道は田舎ある古道で多くの参
 詣道がある。その中でも古い黒谷
 道(町石道)を歩く。小雨決行

点交通費 保険代50円
 2万5千円(岩湖山
 昭文社「53金剛山・岩
 湖山」
 ◎渡村謙市
 〒614-8 橋本市城山台2
 の39の7 奥村まで
 定員50名(乗合バス使用)
 頂上からの眺望がよい一徳坊山
 へ。ちょびりスリリングなヤセ
 尾根を歩きます。小雨決行

山阿附近に群生するヤシオツツ
 シを見に行きます。展望もよい。
 小雨決行

大峰・天和山と滝山
 (やや難向き)
 期日 6月9日(日) 日帰り
 集合 大塚方面の山は西安坂・
 松原料金所を通過した左
 側道路上7時30分
 その他の車は近鉄ト山口
 駅前9時30分
 コース 下山口駅(車)川合(巻
 和田)川瀬峠→天和山→
 川瀬峠→滝山→西の谷→
 和田(解散)
 費用 保険代50円(交通費各自)
 2万5千円(雨日取
 引)
 地図 昭文社「56大峰山脈」
 ◎橋本勇作 ○森村孝之
 〒545 大阪市阿倍野区
 西田辺町1の1の7
 橋本まで
 *マイカー山行に振る
 ・集合する場所もハガキ
 に明記して下さい。
 大塚方面の山も山頂からの眺望は
 申し分ない。雨天中止

木曾・田立の滝 (一般向き)

期日 6月9日(日) 日帰り
集合 JR中央線坂下駅8時30分
コース 坂下駅(タクシー)・坪栗
林道所(ハツヶ池)・らせ
ん滝・洗心滝・霧ヶ池・
天河滝・湯澤小滝・不動
滝(不動岩)坪栗休憩所
(タクシー)坂下駅
費用 約600円(タクシー代・
保険代)

地図 2万5千ニ三郎野
係 ◎鷲見寺
申込み 〒500 岐阜県交野原市
蘇原町雨町1の19の5
電話 77
落石66の天河滝などの滝をか
ける美しい花園温泉と吊り橋。木
曾五木を求め、日本風景に選ばれ
た景勝の地を歩きます。小雨決行

水上市・五台山 (一般向き)
期日 6月9日(日) 日帰り
集合 JR大飯駅7時40分
コース 大飯駅(電車)・柏原駅
(バス)香良口・浅山不
動滝・掛湯ノ滝・五台山
伊佐口一方折(バス)柏

原駅(電車)大飯駅(電
車)散居時頃
費用 約3900円(大飯をこ
越) 2万5千ニ三郎野
係 ◎井上 保
申込み 〒674 明石市大久保町
高井3の1・20の10
井上まで
掛湯ノ滝は兵庫観光白道の一つ
山頂からの展望も見ごたえあり。
小雨決行

鈴鹿を歩く7
能登ヶ峰 (一般向き)
期日 6月9日(日) 日帰り
集合 鈴鹿線能登ヶ峰川橋9時
コース 能登ヶ峰・左所林道・能登
ヶ峰一笹の草原・696
尾ビークー・能登ヶ峰
費用 保険代500円(交通費各自
別) 昭文社「45御在所・鎌
ヶ岳」
地図 昭文社「45御在所・鎌
ヶ岳」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
*マイカー山行に取る
寶原と寶原が広がる稜線はアセ
ビが点在し自然の庭園が続く。そ

谷筋をつめて縦断ヶ岳に登るル
トは全然知られていない。稜線の
中峰への稜線からはアルペン的な
景観が展開する(13号・52ページ
参照)。同大中止
比良・八潮の滝から縦断ヶ
岳 (中級向き)
期日 6月30日(日) 日帰り
集合 大飯駅7時45分・京都
駅8時16分高尾駅近江
今注行新快速に乗車
コース 京都駅(電車) 近江高尾
駅(バス)ガリバー旅行
村・大須野・アサカ道
広谷・アサカ道・大津ワンデ
ル道・リフト前(バス)
比良駅(電車) 京鹿駅
費用 約3000円(電車・バ
ス代) 保険代500円
地図 昭文社「46比良山系」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
涼しい樹林と谷道を通って秋
色に。八潮の滝コースは一部危
険なクサリ場をさげ、アサカ道
へ迂回します。小雨決行

して鹿道が縦断に延びている。若
干やぶあり(27号・46ページ参照)
雨天中止
平日本曜ハイク22
比良・蛇谷ヶ峰 (一般向き)
期日 6月13日(木) 日帰り
集合 JR近江高尾駅8時55分
(7分先の運行バスに
乗車します)
コース 近江高尾駅(バス) 畑
ヨコタ峠・蛇谷ヶ峰・西
峰・射撃場の馬場・桑
野崎(バス) JR安曇川
駅(解散16時30分頃)
費用 保険代500円(交通費各自
別) 昭文社「46比良山系」
地図 昭文社「46比良山系」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
ヨコタ峠から奥比良縦断路を北
上し、木曾の御嶽が遠望できるな
ど抜群の展望を誇る蛇谷ヶ峰へ。
雨天中止
拍原道から雲仙山へ(中級向き)
期日 6月16日(日) 日帰り
集合 JR京都駅7時42分の
米原行き新快速に乗車

コース 京都駅(電車) 米原駅
(電車) 拍原駅 林道終
点(合) 合点の木十四合
日湯小滝・梓河内渡分
峠・漆ヶ滝・分枝川・霧
山・雲仙山・お虎ヶ池・
汗ヶ峠・霧ヶ池・霧ヶ
井・霧ヶ池(バス) 解
井駅(電車) 京都駅
費用 約4000円(電車・バ
ス代) 保険代500円
地図 昭文社「45御在所・鎌
ヶ岳」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 村田まで
雲仙山へは最も良いコースです
が涼しい展望のよい巨根道を歩
きます。小雨決行

鈴鹿南部・那須ヶ原山
(一般向き)
期日 6月22日(日) 日帰り
集合 JR関西線関家前8時45
分(付着駐車場あり)
コース 関家前(車) 坂下 神大滝
林道・坂下峠・那須ヶ原
山(往復コース)
費用 1000円(保険代他)
地図 2万5千ニ三郎野

奥田白草 中田茂子 野里マツヨ
仲秋一郎 仲秋豊子 竹田利夫
美山信太郎 中山健男 奥田明子
山口敏明 上田平三 奥田正子
石橋 宗 石橋 利 杉山 敏
河村忠夫 石田賢二 原田保夫
原田志子 高橋明美 野口 修
松井徳水 佐野幸一 宮崎香林
入江武史 岡本 久子 中井ひろみ
植井 雅 岡本政一 上坂延枝
下江敏子 小林政男 富田孝子
平 幸子 杉山晴美 中村和子
明澤成行 岡田 昇 岡田恵美子
鈴木志子 林 鈴彦 中上紀代子
前田改雄 吉田誠宏 井林寿美子
◎山比裕美 ○生北四行
◎河田智俊

山行報告

新ハイキングクラブ 関西



比良・梅原山から蓬萊山
1月7日(日) 晴れ
京阪出町駅バスターミナル8・
00(集合) 8・10(バス) 平バス
停8・45(林道登山) 9・00(10
アラキ峠) 10・10(20) 梅原山11・
00(集合) 11・55(ホウケ山) 12・
00(45) 小女峠13・20(30) 蓬
萊山14・05(15) クロトノハゲ15・
15(大滝) 15・55(17) 志賀駅17
・05(解散)

絶好の雪山登山日和。雪に足を
とられながら縦走した。尻尾湖や
鈴鹿の山々もすっきりと展望でき
た。打見山からはゴンドラをやめ
て歩道を下した。
(参加者) 藤川信之 湯浅次男
布施清美 本道俊次 中尾 勉
川端敏子 川端龍治 狩野東彦
岡崎隆彦 今西光男 稲本芳雄
南 寛子 田中 誠 田中義典江
宮松雅子 竹田幸英 大木政夫
青木一雄 田中真子 美村孝治

新五合山行・二ノ瀬ユリ
(木曜ハイキング17)
1月11日(日) 晴れ
観音出町駅9・30(電車) 二ノ
瀬駅9・25(バス) 二ノ瀬ユリ展望
所11・35(集合) 12・10(滝谷峠
13・10(20) 奥野峠14・25(35
1貴船神社14・50(集合) 15・05(1
貴船) 杉の里15・45(新年会)
17・40(飯沼駅(電車) 出町駅18・
30(解散)
三日峠からのドカ雪で、最大80

昭文社「45御在所・鎌
ヶ岳」
申込み 〒519-03 鈴鹿市大
久保町2065福地まで
*マイカーで参加の方は
申し込みハガキに記入し
て下さい。
林道の奥まで車が入れば、三國
岳・油日峠まで足を延ばします。
小雨決行
鈴鹿を歩く8
八風谷・赤坂谷から縦断ヶ岳
(やや難向き)
期日 6月23日(日) 日帰り
集合 421号線八風橋広場8
時30分
コース 八風谷林道・赤坂谷・破
線 杖池ヶ池・松尾尾根
の頭・中峰・八風谷林道
費用 保険代500円(交通費各自
別) 昭文社「45御在所・鎌
ヶ岳」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
*マイカー山行に取る
八風谷・センコウ谷・赤坂谷と

谷筋をつめて縦断ヶ岳に登るル
トは全然知られていない。稜線の
中峰への稜線からはアルペン的な
景観が展開する(13号・52ページ
参照)。同大中止
比良・八潮の滝から縦断ヶ
岳 (中級向き)
期日 6月30日(日) 日帰り
集合 大飯駅7時45分・京都
駅8時16分高尾駅近江
今注行新快速に乗車
コース 京都駅(電車) 近江高尾
駅(バス)ガリバー旅行
村・大須野・アサカ道
広谷・アサカ道・大津ワンデ
ル道・リフト前(バス)
比良駅(電車) 京鹿駅
費用 約3000円(電車・バ
ス代) 保険代500円
地図 昭文社「46比良山系」
申込み 〒610-01 城陽市寺
田大群10の10 村田まで
涼しい樹林と谷道を通って秋
色に。八潮の滝コースは一部危
険なクサリ場をさげ、アサカ道
へ迂回します。小雨決行

絶好の雪山登山日和。雪に足を
とられながら縦走した。尻尾湖や
鈴鹿の山々もすっきりと展望でき
た。打見山からはゴンドラをやめ
て歩道を下した。
(参加者) 藤川信之 湯浅次男
布施清美 本道俊次 中尾 勉
川端敏子 川端龍治 狩野東彦
岡崎隆彦 今西光男 稲本芳雄
南 寛子 田中 誠 田中義典江
宮松雅子 竹田幸英 大木政夫
青木一雄 田中真子 美村孝治

新五合山行・二ノ瀬ユリ
(木曜ハイキング17)
1月11日(日) 晴れ
観音出町駅9・30(電車) 二ノ
瀬駅9・25(バス) 二ノ瀬ユリ展望
所11・35(集合) 12・10(滝谷峠
13・10(20) 奥野峠14・25(35
1貴船神社14・50(集合) 15・05(1
貴船) 杉の里15・45(新年会)
17・40(飯沼駅(電車) 出町駅18・
30(解散)
三日峠からのドカ雪で、最大80

竹などの植栽があり、雪中山行を
楽しめた。山道はほつきを照ら
す下山道は花が咲いた。
◎参加者 下田三子
阿部邦彦 田中 誠 今西元男
南直子 堀見洋子 水見貞子
村上友枝 本相孝子 小林貞男
中村英雄 藤田光彦 大島久吉郎
末広美 三浦弘平 佐々木昌子
藤原愛治 鈴木昌子 栗田美奈子
高岡清男 ◎途中 殺 (計22名)

先山と後山
1月14日(日) 16日(月)泊2日
(14日)曇り 赤本(ハス) 先山
12・38―登山口13・25―山頂14・
15(休憩)14・25―内閣止・20―
二本松15・30(ハス)城方17・22―
民権17・30(泊)
(15日)曇り 民権8・00―黒岩
9・00―黒岩神社10・25―山頂
10・40(休憩)11・45―黒岩神社
△12・10市14・10(ハス)岩屋
16・10(休憩)明石16・30(休憩)
天候がすぐれず麓から山の
眺望が得られず残念でした。
帰りに明石の魚の刺で楽しく買い
物ができました。
(参加者)岡田 昇 岡田恵美子
中村清孝 平政美子 中上紀代子

願 久子 楠田昌雄 新山繁子
小山朝子 森川信之 藤田久子
狩野忠彦 前田幸子 藤田美津子
吉田誠彦 森田清 森田英男
阿部邦彦 奥村誠治 高橋 寛
家人敬光 家人利子 安田文美江
三木昌子 野口 隆 野口美津子
里井昌子 宮坂敏彦 山田けいこ
山本武治 山本孝子 岡田英夫
土田重子 金内一男 田中清美江
◎泊場所 鶴 井上 保 (計21名)

養老山系
1月14日(日) 曇り
養老公園バス停9・00(赤本)―
養老の滝9・35―三方山11・00―
15―小倉山11・45―白鳥12・20―
養老山12・45―小倉山13・15―25
―三方山中腹休憩ベンチ14・00―
20―養老公園バス停15・20(休憩)
今にも吹き出しそうな雪が麓に
まで覆って来た。養老山系は
まさに雪山。踏み分けは登山者の深
き。三方山からは法天の麓まで野
を見はるかし、小倉山からは真
白な雪崩山など綺麗な山々が望め
た。雪が深いため予定を変更して
1等三角点の養老山に立ち寄り
北谷を戻った。

1月15日(月) ◎赤本の作
雨のため中止しました。
高島・明神早
1月21日(日) 曇り時々小雨
近鉄橋原駅8・10(集合)8・15
(ハス)大文バス停9・05―15―
林道終点10・25―30―明神早11・
30―明神早12・20(昼食)13・30―
明神早14・00―林道終点14・45―
大文バス停15・50―16・00(ハス)
橋原駅17・00(解散)
結構雨も少なく、アイゼンは流
のりから洗った。雪道には濡れ
なかったが、美しい霧水の花が満
ちてきた。
(参加者)中西 昭 宮坂敏彦
今津清司 岡田 昇 岡田恵美子
多賀久子 橋田昌雄
横井 敏 中尾 勉 湯浅次男
布指清美 平政美子 信田久子
竹田利夫 上木健枝 和田昌雄
中山博史 石川和芳 岸比呂美
阿部邦彦 田中 誠 田中清美江
山原野子 山原清男 吉田その子

守本孝男 霧山英治 内幸三郎
若木徳一 西 寛子 辻 勉一郎
近藤 敏 青木方雄 青木一雄
下村隆三 下村隆子 ◎山道歩治
◎丹田哲夫 (計20名)

1月27日(日) 晴れ
JR山崎駅8・50(集合)石水溪口
9・10(車)坂本8・20―35―登
山口9・45 林道11・30―参詣道
入口11・45 影登寺12・20(昼食)
13・00―野登山13・10―林道13・
30―登山道へ14・00―坂本15・30
(解散)
大雪のため、急きょ「御明平」
を「野登山」に変更して実施。事
務上のミスで一峰と連絡をおかれ
ました。お詫言下さい。又後に
戻すれ、担当(20〜25時)に坂本
へ、楽しい山行でした。
「僕の前には道はない」
「僕の後には道はない」
(参加者)森原元博 森原淑子
高橋正人 藤田和洋 森 美智子
中山建男 藤田明子 山平あま子
藤田佳治 平 孝子 平 孝子
酒野良一 本村好和 小堀孝男

真鍋隆雄13・20(高尾駅)笠間港
14・10―笠間駅14・17(電車)J
R大阪駅17・59―京町駅18・29
(解散)
昔いさよ高 美しい瀬戸内海の
鳥々を眺望しながらのんびりと歩
いた。まるで春のような暖かいハ
イキングだった。真鍋島では海の
幸と花を堪能した。
(参加者)前田幸子 上井敏孝子
堀 久子 芝野泰明 中村清孝
岸比呂美 日高史雄 上田三三
上田正子 熊本義雄 阿部邦彦
森澤元彦 森澤淑子 中上紀代子
阪田 昇 中尾 勉 安田文美江
前田久子 平政美子 山藤多恵子
芝野敏子 川崎隆子 ◎山道歩治
◎村田哲夫 (計24名)

奥井孝生 山本雅子 石田真由美
前田恵美子 ◎前田逸夫
◎尾崎英五 (計20名)

大峰・抱摩山から四寸岩山
1月28日(日) ◎赤本の作
私方の事情でやむなく中止しま
した。申し込められた方にはご連
帯をおかけしました。

北山・十三石山
(雪のため凍結・歩を變更)
(京都北山歩き40)
2月4日(日) 晴れ
地下鉄北大阪駅南口10時9・00
(集合)9・10(タクシー)大石
9・30―90―西ノ瀬―早刈谷中間
点11・30―30―十三石山北のピー
ク12・00(昼食)12・30―十三石
山13・00―15―湯島13・25―30―
永定13・50―15・00―湯島14・
30―35―下井15・00(解散)
杖藜・尾花・相方面が道順変
更のためタクシーは大岩までとな
り十三石山に変更した。雪の残較
々歩きを楽しんでいた人にとっ
ては大変残念でした。十三石山は
東山(登山)方面の展望がすばら
しかった。
(参加者)楠田昌雄 本園俊次

川崎敏子 金光新一 奥田昌雄
入江真史 堀 久子 下江敏子
高橋誠治 小林 昇 井林秀孝子
中山博史 宮本昌幸 前田政雄
野口 修 岩本 雄 仲秋一郎
仲秋孝子 船 行子 船越みよ子
大木政夫 船越明 船越みよ子
石田哲一 原田英夫 原田克子
吉田誠家 森澤敏彦 野田マコ
川上久堅 高尾敏治 高尾由紀子
竹田利夫 明神政行 岩木いすゞ
多賀久子 多賀久子 宮角幸吉
平 孝子 西川 寛 須川正徳
吉瀬 清 奥山繁三 吉田恵一
柴田哲一 ◎船運探夫
◎中山博行 (計21名)

養老山 (水曜ハイキング)
2月7日(日) 晴れ時々小雪
清滝バス停9・00(集合)9・25―
月輪寺分道10・00―10―岩無地
線12・15―養老神社13・20(昼食)
14・25―養老山分道15・05―15―
清滝バス停16・10(解散)
肌寒い景色に慣れ、首無地
線に着いたときは雪山登山を羨望
して心地よい汗で気分は最高だ
した。深い積雪のためコースを改更
して表参道を下山した。
(参加者)小田 孝 宮崎隆子

青木一雄 西沢広二 笠間英孝子
小林 敏 佐田次男 今村 眞
秋田英徳 野村敏子 川上久敏
眞田久子 藤 岩子 千原千枝子
長坂友美 松本健三 坂本好乃
岡原定夫 永井哲男 船越孝子
熊本秀徳 中川光郎 岡田三子
川上那子 兼清孝子 ◎前田 昇
◎湯浅次男 (計27名)

笠間福島・白石島と高尾山
2月11日(日) 12日(月) 泊2日
11日(日) 晴れ 又長尾駅へ16・
大阪駅8・22(集合)高尾山12・
08―笠間港12・30(湯浅船)白石
島港13・00―開成寺13・20―吹海
山13・40―50―大石山14・00―鬼
ヶ城山分道14・15―立石山14・35
―40―鬼ヶ城山分道15・00―鬼
ヶ城山15・10―観音寺15・15―白石島
港15・40―16・45(高尾船)真鍋
隆雄17・05―久乃山別館17・10
(泊)
12日(月) 晴れ 久乃山別館8・35―
天海球・大塚山展望台8・45―ふ
れあいパーク8・50―山の手寺
点9・25―35―三虎エース海水浴
場10・00―10―三浦湖10・30―
35―城山10・55―11・05―小舟11・
20―久乃山11・50(昼食)13・00―

2月18日(日) 曇り時々晴れ
福原神社前駅9・00(集合)9・
13(ハス)飛鳥大仏前9・30―国
立飛鳥神社前9・45(昼食)10・
40―飛鳥神社10・55―11・05―
西郷山11・15―25―石舞台11
・45(昼食)12・30 橋守13・00
―20―川原寺13・25―35―集石13
・45―50―鬼の組・平間14・05―

15 鶴岡 14・20 30 1 若原山古墳
14・40 15・00 1 養生寺古墳 15・
15 30 1 獅子塚古墳 15・40 50 1
釜田の岩船 16・10 25 1 國寺 18・
50 (解散)

前夜来の大雪で、チェーンを巻いたバスに乗り遅る飛越路へ、足の変れも忘れた一日でした。

(参加者) 木村 晃 新山野子 福井野之 須井野子 中山茂子 富松野子 三木吉子 内山 幸 内山山子 小西野雄 小西隆司 細井和子 高橋 寛 奥村誠治 里井和子 荒木 稔 伊藤隆雄 香 隆 仁 藤田野子 藤原啓三郎 石井優紀 川合野津 木村慎一郎 深野吉平 木下英経 中西亮太 阪本吉政 山本貴之 松本圭太 辻本明彦 松水良平 (計22名)

尾張本宮山・信貴山
2月18日(日) 曇り
大塚神社集合(9・00)信貴山10・55 山・15 尾張本宮山11・45 (昼食) 13・45 大塚神社13・55 (解散)

三木茂子 平政孝子 ○青木一雄
○康定夫夫 ○陣内 昇
○廣村誠治 (計44名)

新ハイキングクラブ関西
入金のすまぬ
このページの山行例案を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちを味わいませんか。リーダー(例)はすべて現職の専任で、各日下宿を買い代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に加入してこの楽しいお仲間になりませんか。会費には往復「新ハイキング」(関西関西の山)(年間10月6日分)をお届けします。入会費は山行例案に添付参加できます。
入会金 5000円(ハッパ代)
年会費 20000円(送料別)
新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の返信用紙をご利用下さい。返信用紙をお返せ下さい。
尚、定期誌送を希望される方を会員になって頂きます。返信用紙にお手元におきますので便利ですよ。

と飯沼
〔参加者〕田中敏子 (計2名)

音山山・高塚山
2月18日(日) 曇り時々晴れ
京都大谷駅集合(9・00)集合
9・10 音山山10・15 20 パノ
ラマ台11・00 東千頭岳12・10 25 西千頭岳12・40 (昼食) 13・30 高塚山14・30 醍醐寺15・30 16・00 三楽院バス停(解散)
思わぬ積雪で真っ白な道を音山山へ。屋根には雪も流れ、やっと登頂が広がった。

(参加者) 桃田昌恵 北尾信枝 川瀬野子 奥田百雄 堀 良男 青木一雄 三浦弘幸 芝野泰男 小林 稔 野口 徹 野口志津子 中川光郎 高木 雪 遠見子 血行野天 藤田信夫 清 信一郎 江村洋明 高木泰次 藤 隆成 高木善治 若木修二 吉田その子 豊岡正博 林 淳子 河原美代子 川上久登 加藤元彦 宮角三雄 古川信夫 藤原正 山本 勉 古川裕子 尾尾正 山本 勉 本田博子 前田改雄 中島春海

湯浅次男 伴秋一郎 仲秋豊子
佐田次男 上坂経後 谷角マサ子
永田昭美 測定保夫 飯坂八重子
吉田直一 村上俊子 上井重孝子
中村久孝子 ○上村 操 (計22名)

北浜・中山(木曜ハイク18)
2月22日(日) 晴れ
阪急清田駅10・10 大林寺10・25 35 中山寺 11・25 40 中山三角山12・20 (昼食) 13・10 満願寺山14・00 20 坂本山 15・20 (解散)

六甲の晴々・大阪ベイ・高麗ビル群を遠望しながら、人気コースを練歩いた。
(参加者) 北尾信枝 下山三千子 村上春代 新出美子 藤田光彦 辻 行子 自見野子 小森政男 今西昌明 芝野泰男 栗田美奈子 三宅 明 水見真樹子 細川良男 遠見野子 佐々木直子 多野耕一 八江勇子 小林伊子 今村 真 中村英達 辻 昭一郎 辻 良子 宮坂隆雄 長沢裕美 高橋一 中村 稔 中村裕枝子 本庄博子 栗 直美 吉岡義枝 高寺清治 明神成行 網本美恵子

藤田敏子 城月廣幸 谷角マサ子
中村和子 ○前中 毅 (計2名)
府内山から龍虎岳
2月25日(日) 曇り
南海三日月町駅8・30(集合) 8・45 延命寺寺 20 35 1 クヌギ峠 10・20 30 1 田山11・00 1 鉄塔下 11・20 (昼食) 12・10 1 膳所山12・40 1 5 1 軽塚山13・05 1 5 1 林道 出合13・50 1 塞ノ神14・05 1 15 (解散) 1 南野子山14・30
雪の足根道から葛城・金剛・岩 御田の大パノラマを楽しんだ。先週が残雪が多く、急坂の難区画をカットして葛城第18窟岩の経塚山から塞ノ神へ下山した。

(参加者) 梅田 實 竹田隆美 近藤 基 木村 晃 奥村清一 山科洋彦 中村健夫 中谷定幸 三宅 明 前田英二 前田ふね子 川波敏一 野口 修 野口志津子 西沢次一 眞山久子 小林 晃 湯浅次男 前田敏子 岡田麻美子 佐田次男 岡田英介 佐古田文字 小田博子 桜田枝子 千原千枝子 川上久登 加藤元彦 岡中かおり 山本 逸 中西昭 高野ミツコ 北川良子 兼山幸子 薬師島子 家人敏光 家人穂子 中村静香

山行リーダー募集

新ハイキングクラブ関西では、会員の増加に伴って、山行例案を導く必要が有ります。リーダーは2か月に一回程度の山行計画を立て、実施して頂きます。申し込みの受け付けは、いろいろの条件がありますが、経験のある方や、やってみたいと思われの方は、当会事務局(村田)までご連絡下さい。

○新入会員紹介(27名6名)
大谷敏子 原田幸男 原田登紀子 藤谷 榮 藤下 順一 中津野友安 山田英彦 藤野洋子 中島留美子 鈴木吉昭 菅 敏一 波多野樹一 中島昭子 林 鈴彦 道方セツコ 新川隆一 柳川明美 熱住美恵子 服部隆雄 柳介村一 佐藤恭子 深村妙子 渡谷節枝 小林政彦 清水清生 堀 宗男 宇都宮宣哉 山田和幸 山川正典 藤本孝一 山田隆雄 山田正博 藤岡外孝子 西川洋雄 河井典子 米前敬孝子 吉田 真 吉田 穂子 林 二三雄 中岡隆雄 山田 彰 酒井健雄 田中勝幸 若井算十 半藤信巳 藤山山亮 藤山幸子 清水 勉 岡本正宏 藤田 幸 前田百香子

訂正とお詫
27号(新春)9ページ目後後ろから「行日」が「シヨムソソ」と「チナー」は「シヨムソソ」にムクチ ナート」が正し。
27号(新春)78ページ「2段目10行目」が「3月31日」は「3月24日」が正し。(編集室)

坂倉登喜子さん
「関西周遊山と地酒の旅」(新藤社)
出版記念祝賀パーティー
日時 6月28日(日)
受付開始 14時から(開演15時30分〜17時)
会場 ホテルニューオーストラリア(二茶屋の北)
会費 6000円(当日受付で、立席パーティー)
定員 約40名
坂倉登喜子さんは、山と花とお酒と温泉が大好きな登山家として、また「エーゲルワイズ・クラブ」の会長として活躍されています。多数のご参加をお待ち申し上げております。(申し込み)
5月30日まで、往復ハガキに住所氏名・郵便番号・会費振り込み記入のうえ、左記宛先入まで中々さんまで、お申し込み下さい。
〒590-0101 堺市東区大塚10-30
新ハイキング関西 村田 哲哉